

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

PowerAct Pro Ver4.x
(マスターエージェント for Windows)
インストールガイド

オムロン株式会社

電子機器事業本部

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

【目次】

1. POWERACT PRO (マスターエージェント FOR WINDOWS) の動作環境.....	3
2. UPSとコンピュータを接続する	4
3. インストールを始める前に.....	7
4. HTTP サーバ IIS のインストール確認	8
5. インストール操作.....	20
6. バッテリ交換時の設定	36
7. WINDOWS の設定	37
8. IIS WEB サーバ 7.0 を使用した時の注意事項	48
9. 接続の確認	57
10. POWERACT PRO モニタの表示.....	59
11. 環境設定について.....	62
12. スケジュール運転の設定	78
13. シャットダウン動作の流れ.....	82
14. シャットダウン動作の確認.....	84
15. アンインストール手順	86
16. コンピュータのBIOS設定.....	87

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

1. PowerAct Pro (マスターエージェント for Windows) の動作環境

対応コンピュータ	DOS/V 機、および NEC 製 PC98-NX シリーズ機 (NEC 製 PC9801,9821 シリーズではご使用になれません。) (Apple 製 Macintosh およびその互換機ではご使用になれません。)	
対応 OS と 対応プラットフォーム	Microsoft Windows 8	x86,AMD64, EM64T
	Microsoft Windows Server 2012(※1) Microsoft Windows Storage Server 2012	x86,AMD64, EM64T
	Microsoft Windows Server 2008 R2(※1) Microsoft Windows Storage Server 2008 R2	x86,AMD64, EM64T
	Microsoft Windows Server 2008(※1) Microsoft Windows Storage Server 2008	x86,AMD64, EM64T
	Microsoft Windows 7 Microsoft Windows Vista	x86,AMD64, EM64T
	Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Editions Microsoft Windows Server 2003 x64 Edition(SP1)	AMD64,EM64T
	Microsoft Windows XP Professional x64 Edition (SP1)	AMD64,EM64T
	Microsoft Windows Server 2003 R2 Microsoft Windows Server 2003 (SP1)	x86
	Microsoft Windows XP(SP1/SP2)	x86
	Microsoft Windows 2000 (SP1/SP2/SP3/SP4)	x86
WWW ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 10.0/9.0/8.0/7.0/6.0(※2)	
HTTP サーバ	Apache HTTP Server 2.2.8 Internet Information Services(Windows OS 標準) (※3)	
RAM	128MB 以上(256MB 以上推奨)	
ハードディスク容量	100MB 以上	
インターフェース	RS-232C、USB	
ネットワークカード	10Mbps 以上のネットワークカード	
プロトコル	TCP/IP	

(※1)Hyper-V を用いた仮想 OS 環境でもご使用いただけます。仮想 OS のホスト側に PowerAct Pro をインストールしてください。(ゲストOSにインストールする必要はありません)

(※2)Internet Explorer 7.0 の場合、PowerAct Pro のモニタ画面を開いた時にフィッシング詐欺警告のアイコン () が表示されることがありますが、そのような問題はございません。

(※3)Internet Information Services(IIS) を使用される場合は、PowerAct Pro のインストールの前に IIS を事前にインストールしておく必要があります。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

(訳) 本ソフトウェアには、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)において開発されたソフトウェアが含まれます。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

2. UPSとコンピュータを接続する

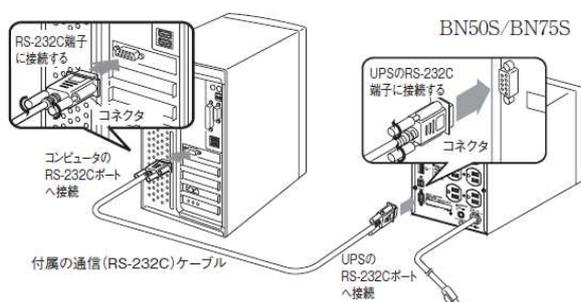
「PowerAct Pro マスターエージェント」は、UPSとコンピュータを専用の通信ケーブル(RS-232C or USB)で直接接続されている時に、コンピュータを自動シャットダウンさせるためのソフトウェアです。

コンピュータとUPSを添付の専用ケーブルで接続します。通信インタフェース(RS-232C or USB)、UPSに接続するコンピュータの台数(1台 or 複数台)の条件により、接続方法が異なります。下記を参照ください。

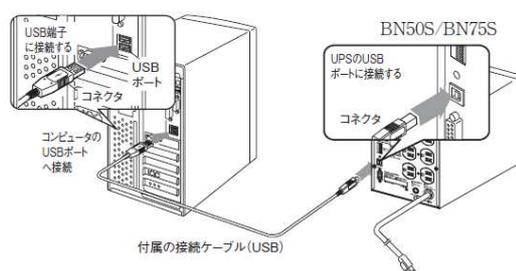
【UPSに1台のコンピュータを接続する場合】

コンピュータには「PowerAct Pro マスターエージェント」をインストールします。

< RS-232C 接続 >



< USB 接続 >

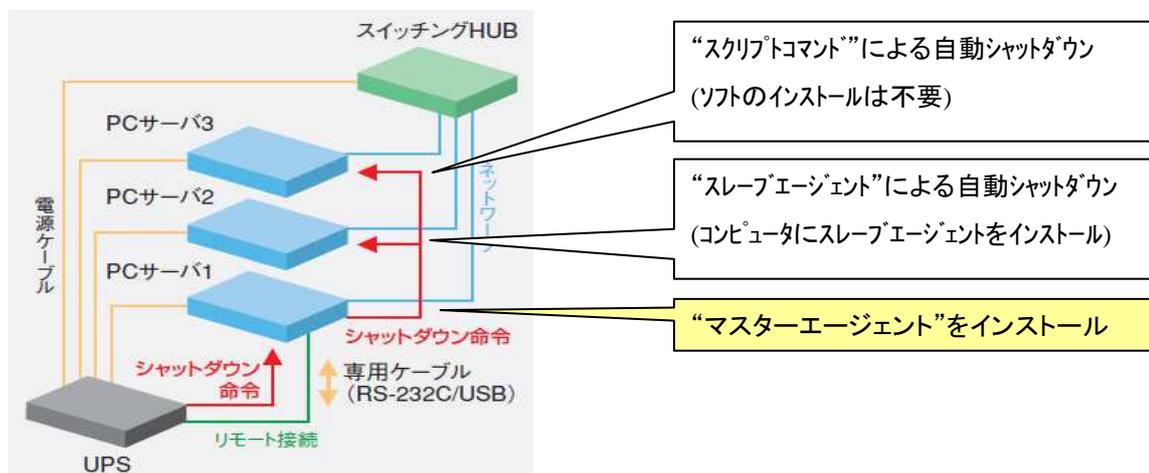


【UPSに2台以上のコンピュータを接続する場合】

UPSと専用ケーブル(RS-232C/USB)で直接接続されているコンピュータには「PowerAct Pro マスターエージェント」をインストールします。それ以外のコンピュータには「PowerAct Pro スレーブエージェント」をインストールするか、「PowerAct Pro マスターエージェント」からスクリプトコマンドを発行させることによりコンピュータを自動シャットダウンさせることができます。

※本インストールガイドはマスターエージェント用です。スレーブエージェントのインストール方法については別紙のインストールガイドを参照ください。

※コンピュータとUPSの接続にはRS232CとUSBのどちらか一方のみを使用してください。また各コンピュータは同一セグメント上のネットワークに接続して下さい。もし、同一セグメントでネットワーク接続できない場合はコンピュータにネットワークインターフェースカードを追加するなどしてLANポートを増設し、同一セグメントに属するよう設定して下さい。



PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

マスターエージェント for Windows

Rev F

[参考1]マスターエージェント と スレーブエージェントについて

●マスターエージェント

UPS を、RS232C または USB にて直接制御するサーバ・パソコンにインストールされる。

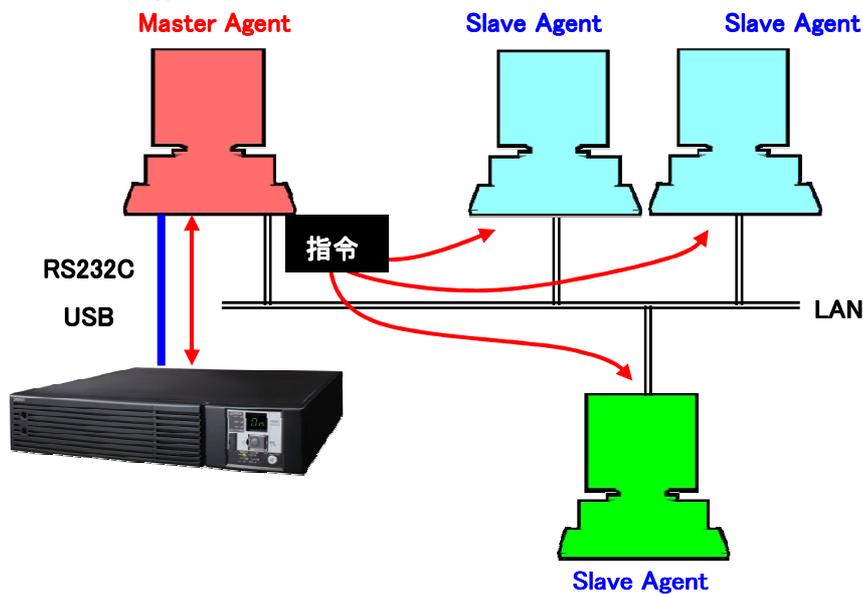
UPS の監視/制御、LAN上につながるサーバ・パソコンの起動/停止をも一元的に管理。

UPSに実装して使用される「SC20G」も、UPSを直接制御するため、マスターエージェントとして機能する。

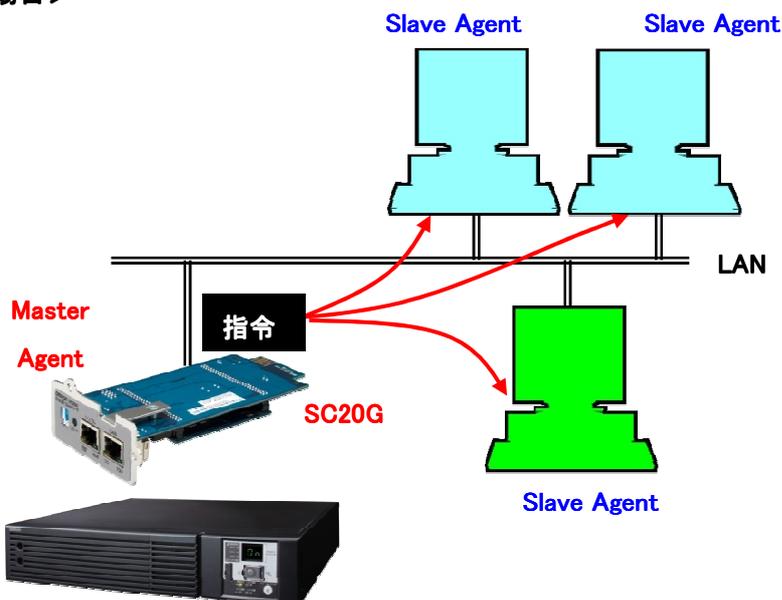
●スレーブエージェント

マスターエージェントからの指令に基づき、サーバ・パソコンをシャットダウンする。UPS の制御は行わない。

<PowerAct Pro の場合>



<SC20G の場合>



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

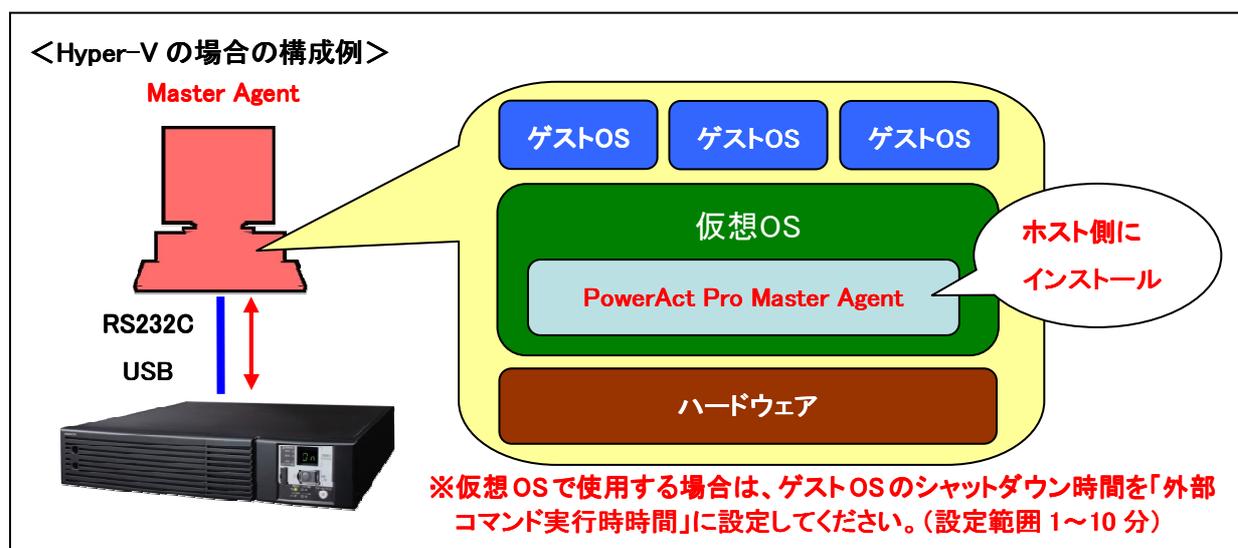
[参考2]仮想 OS の場合のシステム構成について

Hyper-V による仮想環境でご使用される場合は、ホスト側に PowerAct Pro をインストールしてください。ゲスト OS 側にはインストールは不要です。ゲスト OS は自動的にシャットダウンされます。再起動時は、シャットダウンする前の状態で、各ゲスト OS が起動します。

マスターエージェント/スレーブエージェントともにインストール可能です。

マスターエージェントをインストールする場合は、RS232C/USB で接続してください。

スレーブエージェントをインストールする場合は、マスターエージェントとして SC20G が必要です。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

3. インストールを始める前に

最初にインストール時の注意点を確認してください。

1. お使いのコンピュータ環境で、Windows が正常に終了できることを確認してから、本インストール作業を開始してください。Windows が正常に終了できない環境にインストールしても、本ソフトウェアによるシャットダウン動作は正常に行えません。
2. 他の自動シャットダウンソフトウェアを使用している場合は、必ずそのソフトウェアをアンインストールし、Windows を再起動した後に本ソフトウェアのインストールを行ってください。各ソフトのアンインストール方法は、各ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
3. UPS との接続を行ってから本ソフトウェアのインストールを行ってください。
4. 本ソフトウェアをインストールするためには、CD-ROM ドライブが必要です。
5. 本ソフトウェアは、オムロン製 UPS およびオムロン製 OEM 供給品の UPS 以外では使用できません。
6. Administrator 権限があるユーザ名で Windows へログインしてください。
7. Windows 2000/XP/Server 2003 標準シャットダウンソフト(UPS サービス)機能と本ソフトウェアは、併用できません。Windows 2000/XP/Server 2003 標準シャットダウンソフト(UPS サービス)機能をすでに使用している場合は、機能を停止した後、本ソフトウェアをインストールしてください。Windows 2000/XP/Server 2003 標準シャットダウンソフト(UPS サービス)機能を使用しない設定にする方法の詳細については、Windows のオンラインヘルプまたは取扱説明書を参照してください。
8. 本ソフトウェアは、Windows 2000/XP/Server 2003 標準シャットダウンソフト(UPS サービス)機能を全て装備しています。
9. Windows 2000/XP/Server 2003 標準シャットダウンソフト(UPS サービス)機能を使用する場合は、本ソフトウェアをインストールしないでください。

[標準シャットダウンソフト(UPS サービス)機能 設定変更手順]

1. [コントロールパネル]-[電源オプション]をダブルクリックし、[UPS]画面を表示させ、[選択]ボタンをクリックしてください。
2. [UPS の選択]画面が表示されたら、[製造元の選択(S)]を選択し、選択できる項目の中から[(なし)]を選択し、[完了]ボタンをクリックしてください。
3. [UPS の選択]画面が表示された後、[OK]ボタンをクリックしてください。

●ご使用される HTTP サーバの選択

PowerAct Pro のモニタ画面を表示させるためには、HTTP サーバをコンピュータにインストールする必要があります。HTTP サーバは“Apache HTTP Server”もしくは“IIS(Internet Information Services)”が使用可能です。ご使用される HTTP サーバを選択してください。

- ・Apache HTTP Server 2.2.8 (CD-ROM 内のソフトウェアを使用する)
- ・Internet Information Services (Windows OS 標準のソフトウェアを使用する)

※HTTP サーバをインストールしなかった場合、PowerAct Pro のモニタ画面を表示させることができないため、インストール時に設定する基本的なシャットダウンパラメータ(“5.インストール操作 22 項”参照)のみ設定可能です。それ以外の項目はコンソールモードを使用すれば設定可能です。コンソールモードの操作方法については、別冊の「コンソールモード設定ガイド」を参照ください。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

4. HTTP サーバ IIS のインストール確認

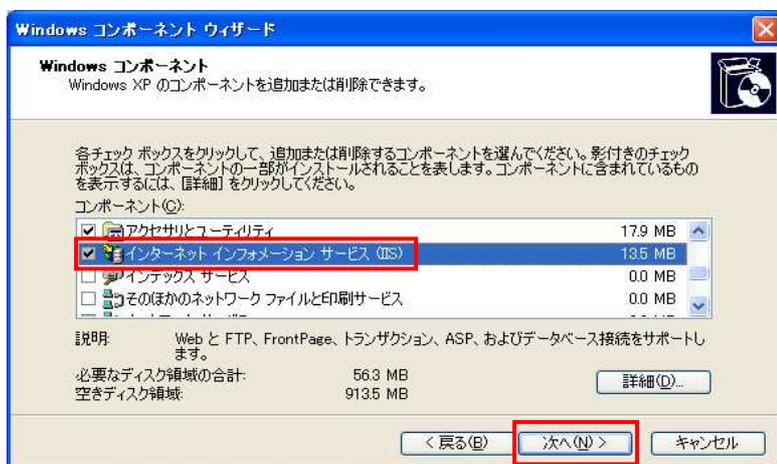
※Apache HTTP Server を使用される場合は、IIS のインストールは不要ですのでこの項は飛ばしてください。

PowerAct Pro の画面を表示させるためには、HTTP サーバをインストールしておく必要があります。IIS (Internet Information Services) を使用される場合は、PowerAct Pro のインストールを始める前に、IIS がインストールされていることを確認してください。IIS がインストールされていないと、PowerAct Pro のインストールは実行できません。

【IISのインストール確認】

●Windows XP / 2000 の場合

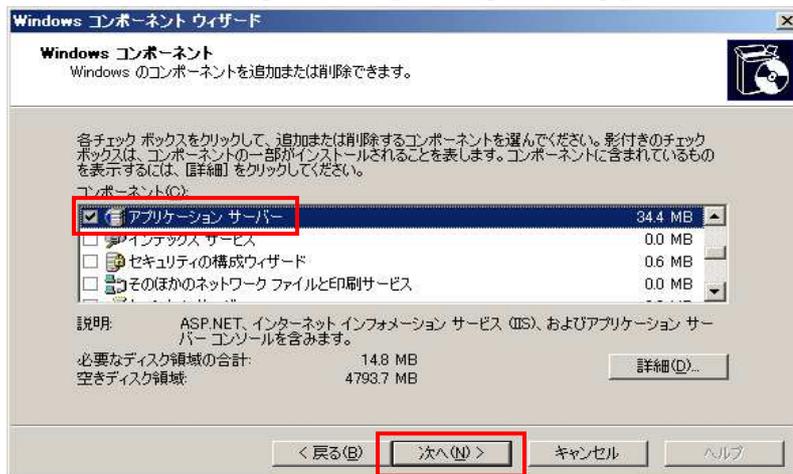
1. [スタート]->[コントロールパネル]->[プログラムの追加と削除]->[Windows コンポーネントの追加と削除]を開き、[インターネット インフォメーション サービス(IIS)]にチェックを入れて[次へ(N)>]をクリックしてください。



2. あとは画面の指示に従って、IIS のインストールを完了させてください。

●Windows Server 2003 の場合

1. [スタート]->[コントロールパネル]->[プログラムの追加と削除]->[Windows コンポーネントの追加と削除]を開き、[アプリケーション サーバ]にチェックを入れて[次へ(N)>]をクリックしてください。



2. あとは画面の指示に従って、IIS のインストールを完了させてください。

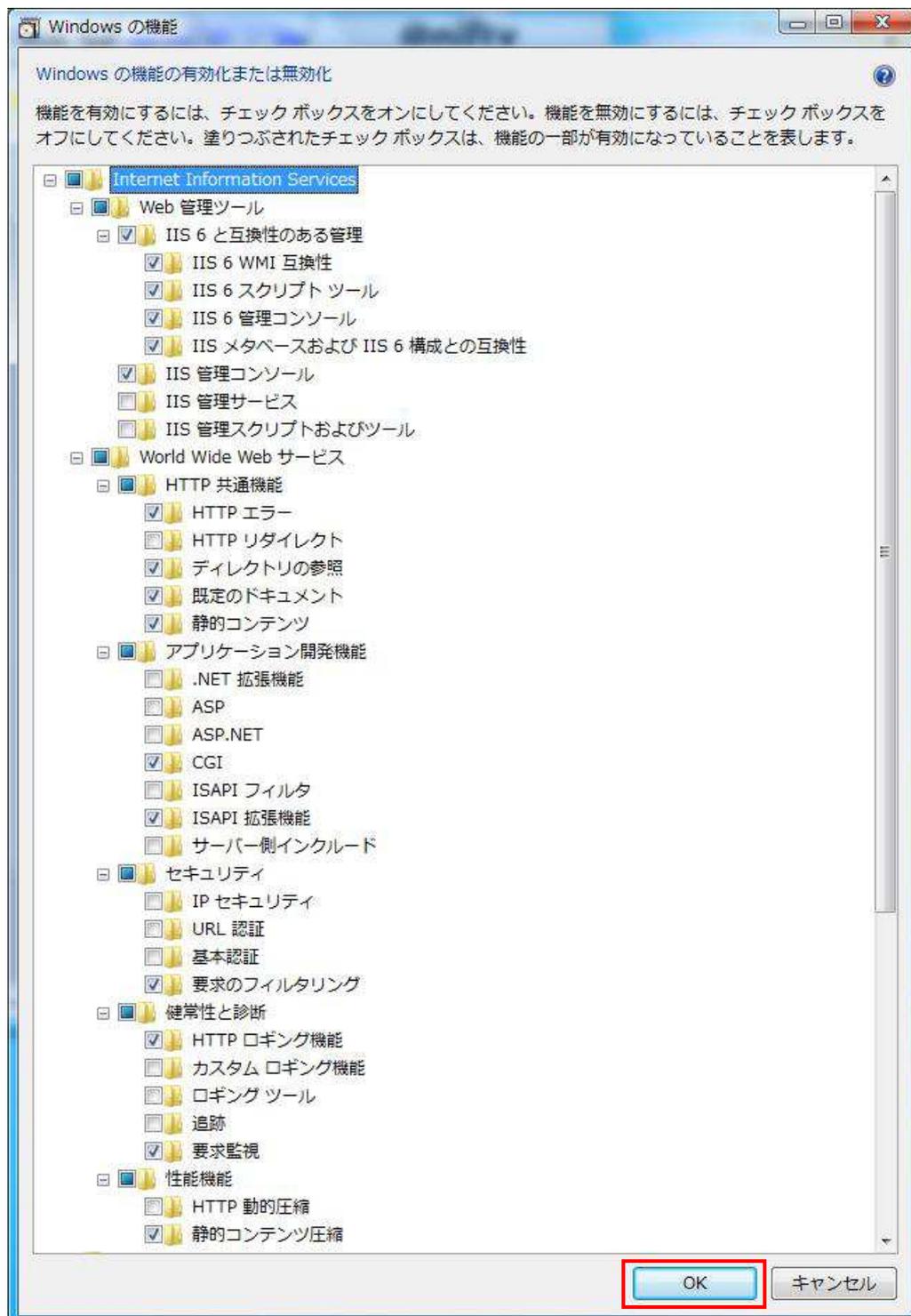
OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

●Windows Vista/ Windows 7/ Windows 8 の場合

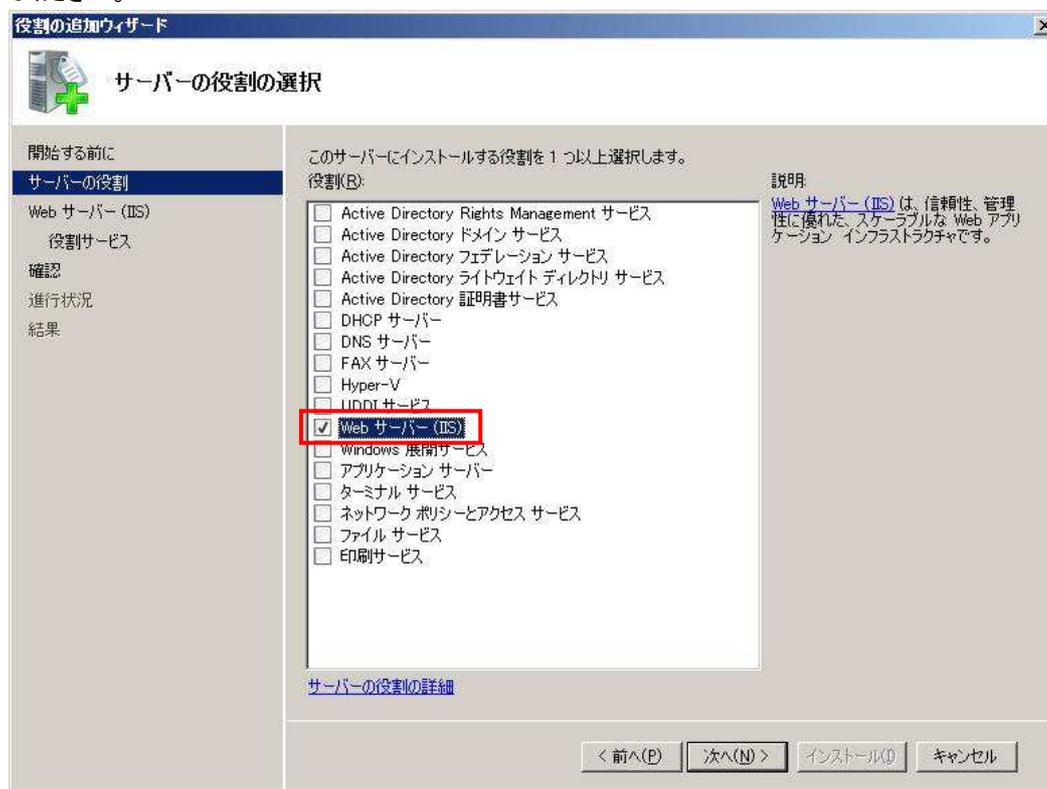
1. [スタート]->[コントロールパネル]->[プログラム]->[プログラムと機能]->[Windows の機能の有効化または無効化]を開き、下記の例を参考にチェックを入れて、最後に[OK]をクリックください。



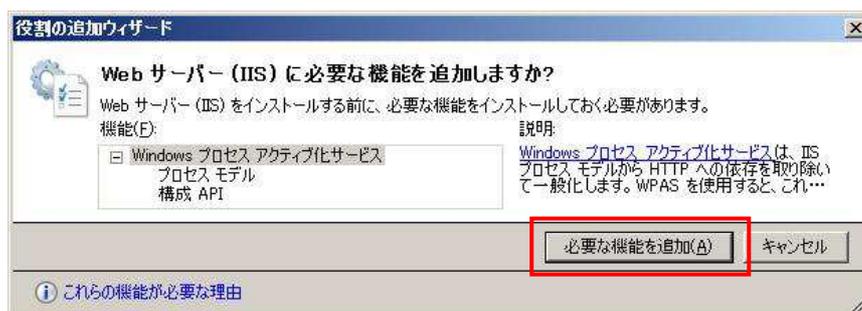
	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

●Windows server 2008 の場合

1. [スタート]->[管理ツール]->[サーバマネージャ]->[役割]->[役割の追加]を開き、[Web サーバ(IIS)]にチェックを入れてください。



2. 下記ウィザードが開きますので、「必要な機能を追加」を選択します。



3. 「役割サービスの選択」画面が表示されますので、上記 Windows Vista/Windows 7 の例に従って機能を選択してください。

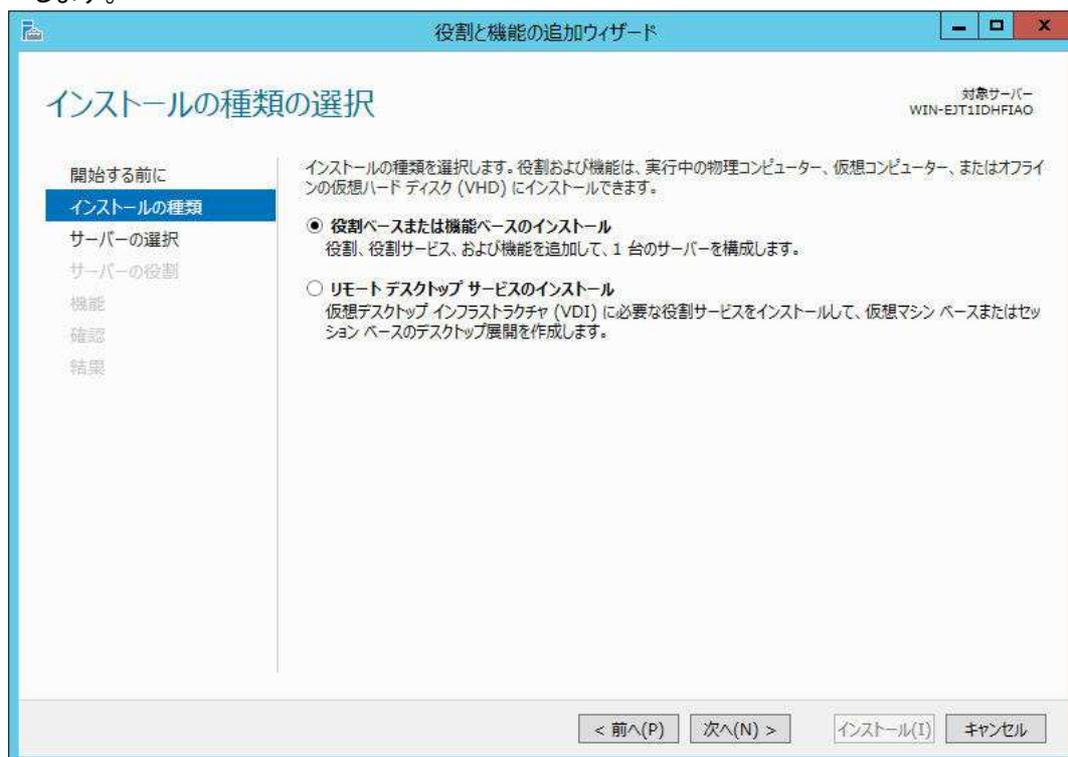
OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

●Windows server 2012 の場合

1. [スタート]->[管理ツール]->[サーバマネージャ] を起動し、[役割と機能の追加]を開きます。

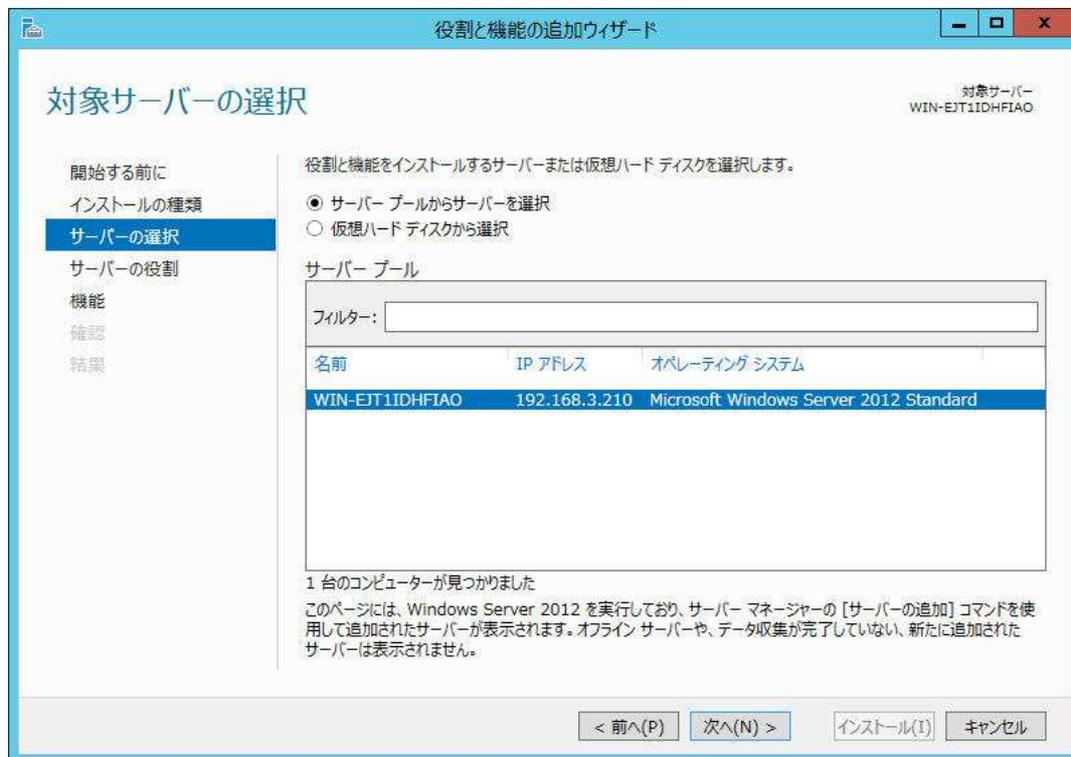


2. 「インストールの種類を選択」画面で「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し、[次へ]をクリックします。

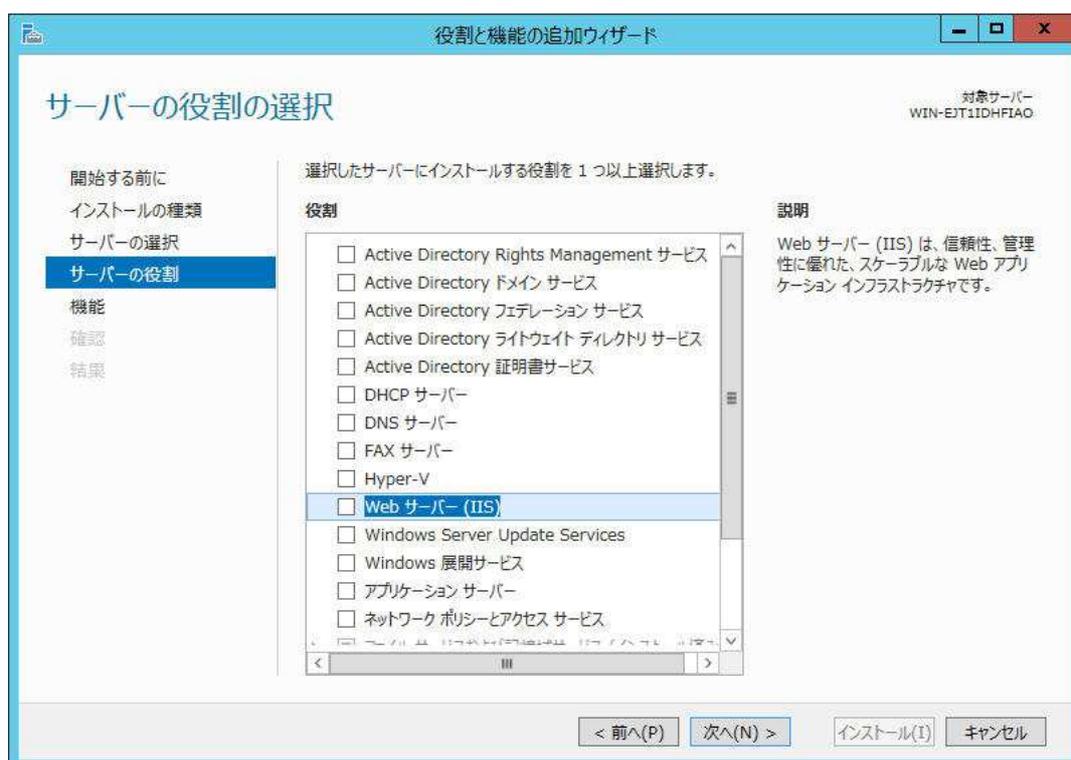


OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

3. 「対象サーバの選択」画面で、PowerAct Pro をインストールするサーバを選択し、[次へ]をクリックします。



4. 「サーバの役割の選択」画面で、「Web サーバー (IIS)」にチェックを入れて、[次へ]をクリックします。

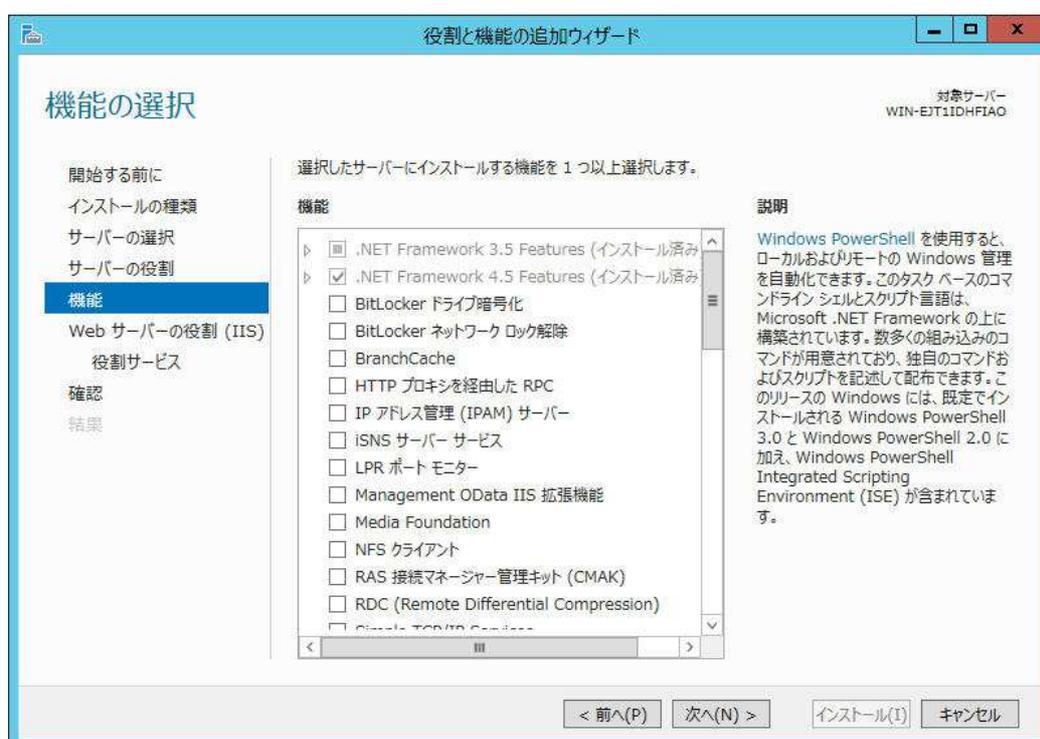


	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

5. 「役割と機能の追加ウィザード」が表示されるので、「管理ツールを含める」にチェックを入れて[機能の追加]をクリックします。

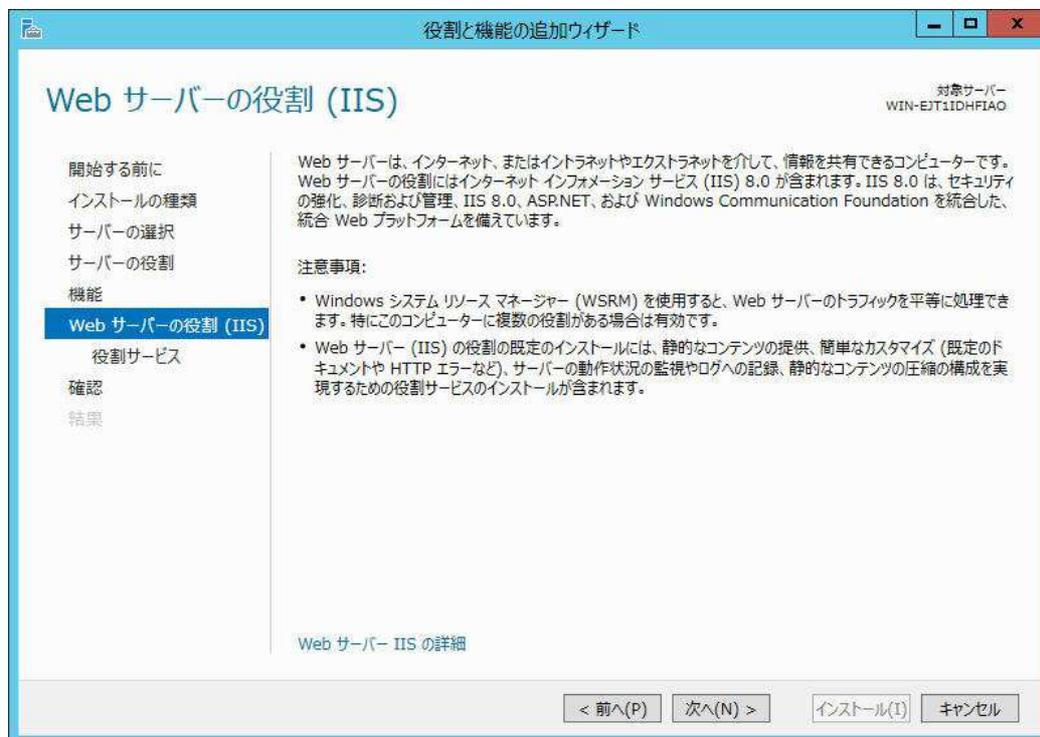


6. 「機能の選択」画面が表示されるので、そのまま[次へ]をクリックします。

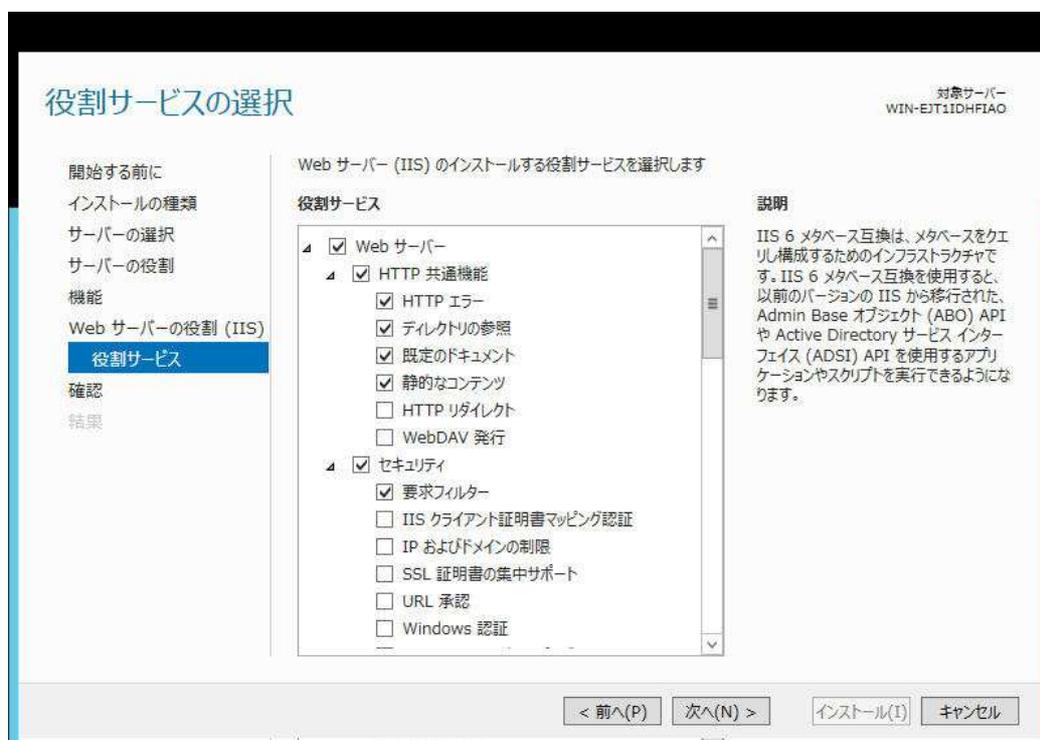


OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

7. 「Web サーバの役割 (IIS)」画面が表示されるので、そのまま[次へ]をクリックします。



8. 「役割サービスの選択」画面が表示されるので、必要な箇所(9.項を参照)にチェックを入れます。



OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

9. 「役割サービス」として、以下のようにチェックをいれてください。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ▲ <input checked="" type="checkbox"/> Web サーバー <ul style="list-style-type: none"> ▲ <input checked="" type="checkbox"/> HTTP 共通機能 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> HTTP エラー <input checked="" type="checkbox"/> ディレクトリの参照 <input checked="" type="checkbox"/> 既定のドキュメント <input checked="" type="checkbox"/> 静的なコンテンツ <input type="checkbox"/> HTTP リダイレクト <input type="checkbox"/> WebDAV 発行 ▲ <input checked="" type="checkbox"/> セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 要求フィルター <input type="checkbox"/> IIS クライアント証明書マッピング認証 <input type="checkbox"/> IP およびドメインの制限 <input type="checkbox"/> SSL 証明書の集中サポート <input type="checkbox"/> URL 承認 <input type="checkbox"/> Windows 認証 <input type="checkbox"/> クライアント証明書マッピング認証 <input type="checkbox"/> ダイジェスト認証 <input type="checkbox"/> 基本認証 ▲ <input checked="" type="checkbox"/> パフォーマンス <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 静的なコンテンツの圧縮 <input type="checkbox"/> 動的なコンテンツの圧縮 ▲ <input checked="" type="checkbox"/> 状態と診断 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> HTTP ログ <input type="checkbox"/> ODBC ログ <input type="checkbox"/> カスタム ログ <input type="checkbox"/> トレース <input type="checkbox"/> ログ ツール <input checked="" type="checkbox"/> 要求の監視 | <ul style="list-style-type: none"> ▲ <input checked="" type="checkbox"/> アプリケーション開発 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> .NET 拡張機能 3.5 <input type="checkbox"/> .NET 拡張機能 4.5 <input type="checkbox"/> Application Initialization <input type="checkbox"/> ASP <input type="checkbox"/> ASP.NET 3.5 <input type="checkbox"/> ASP.NET 4.5 <input checked="" type="checkbox"/> CGI <input type="checkbox"/> ISAPI フィルター <input checked="" type="checkbox"/> ISAPI 拡張 <input type="checkbox"/> WebSocket プロトコル <input type="checkbox"/> サーバー側インクルード ▲ <input type="checkbox"/> FTP サーバー <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> FTP サービス <input type="checkbox"/> FTP 拡張 <input type="checkbox"/> IIS ホスト可能な Web コア ▲ <input checked="" type="checkbox"/> 管理ツール <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> IIS 管理コンソール ▲ <input checked="" type="checkbox"/> IIS 6 管理互換 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> IIS 6 メタベース互換 <input checked="" type="checkbox"/> IIS 6 WMI 互換 <input checked="" type="checkbox"/> IIS 6 スクリプト ツール <input checked="" type="checkbox"/> IIS 6 管理コンソール <input type="checkbox"/> IIS 管理スクリプトおよびツール <input type="checkbox"/> 管理サービス |
|--|---|

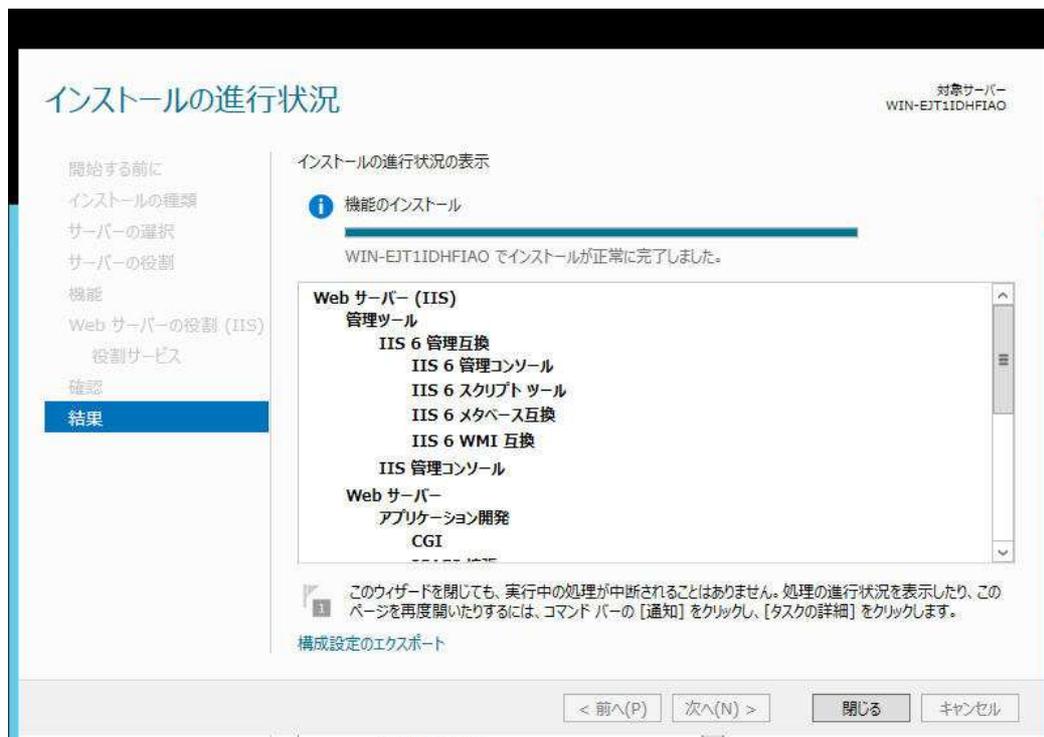
チェックを入れたら[次へ]をクリックします。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

10. 「インストールオプションの確認」画面が表示されるので、そのまま[次へ]をクリックします。



11. 「インストールの進行状況」画面が表示されるので、インストール完了までしばらく待ちます。
「インストールが正常に完了しました」というメッセージが表示されたら、[閉じる]をクリックします。



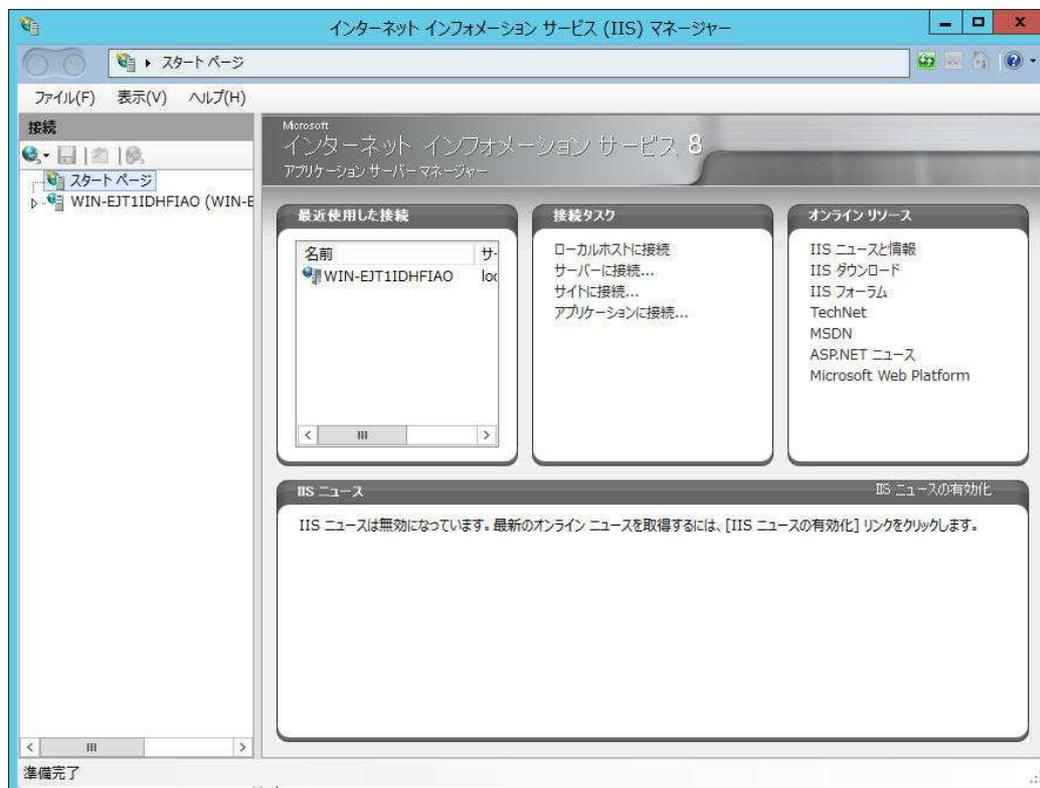
これで、サーバーマネージャーによる設定は終了です。

PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

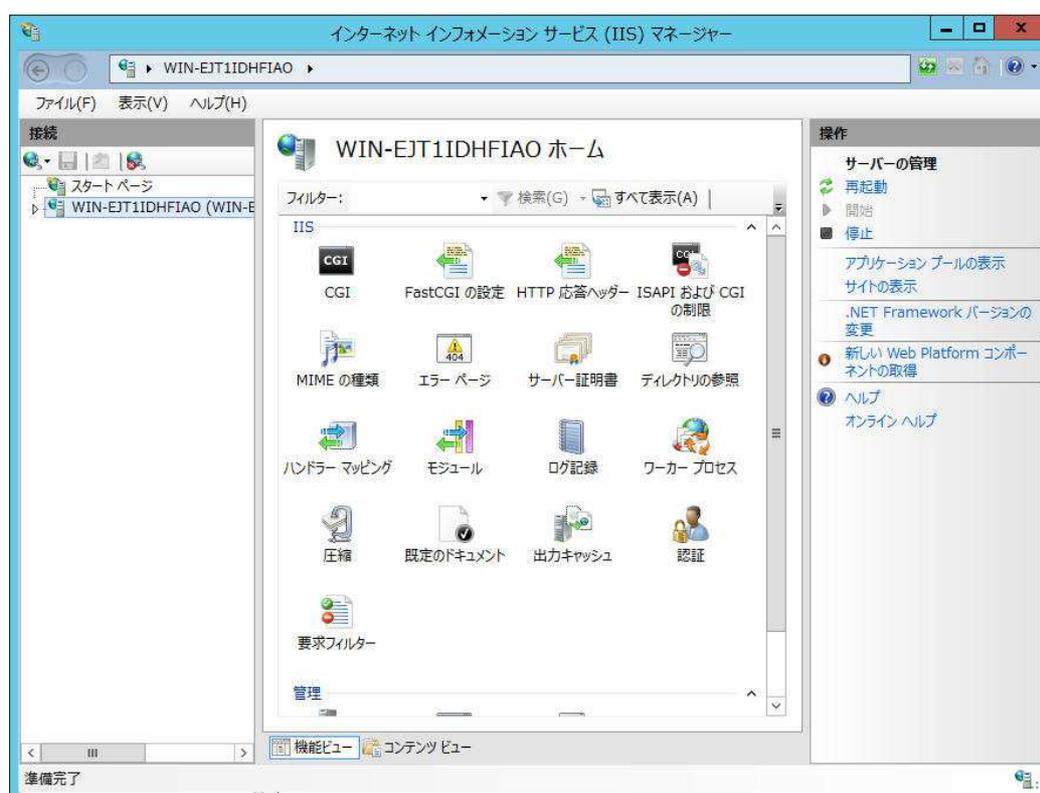
マスターエージェント for Windows

Rev F

12. 次に、「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー」による設定を行います。
IIS マネージャーを起動し、左メニューのサーバ名をクリックします。



13. 「ISAPI および CGI の制限」のアイコンをクリックします。



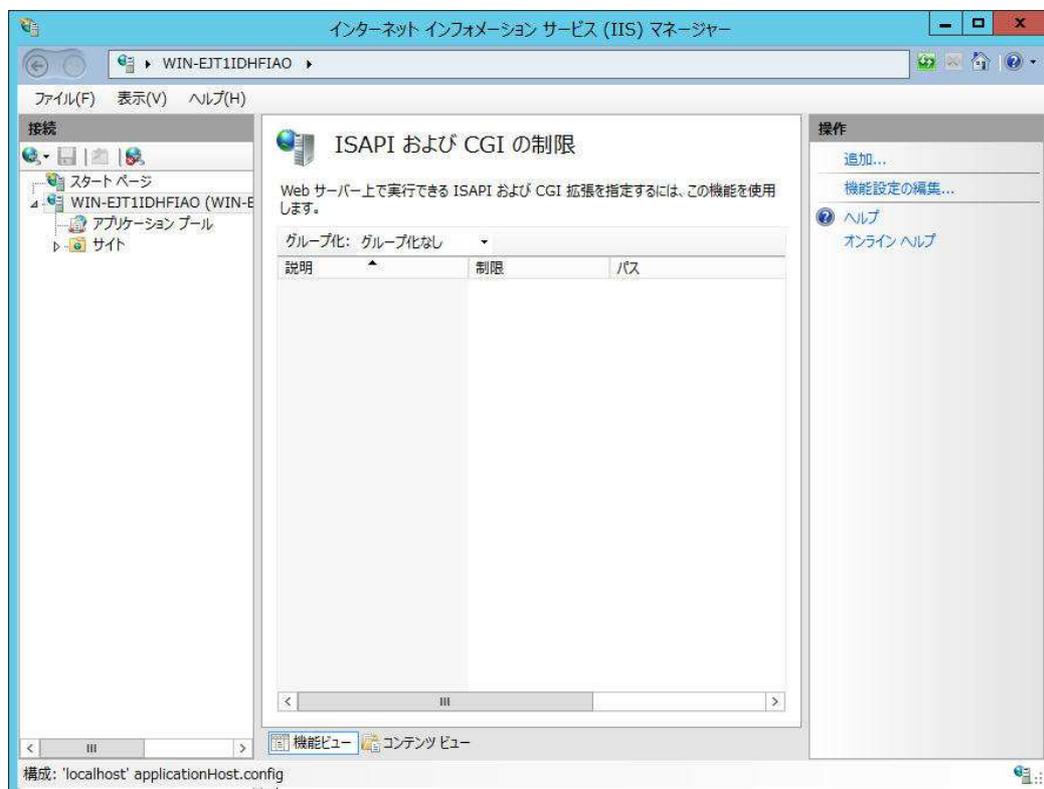


PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

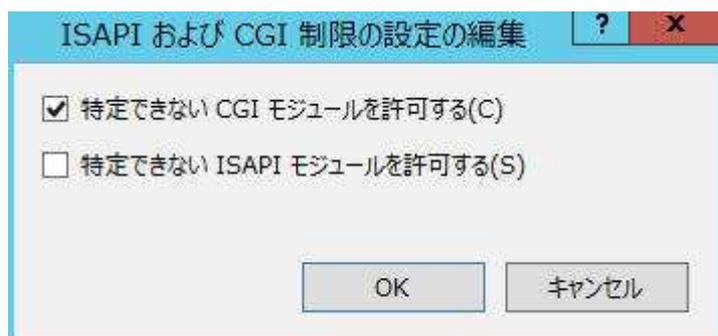
マスターエージェント for Windows

Rev F

14. 右メニューの[機能設定の編集...]をクリックします。



15. 「ISAPI および CGI 制限の設定の編集」画面が表示されるので、「特定できない CGI モジュールを許可する」にチェックを入れて、[OK]をクリックします。



これで、IIS マネージャーでの設定は終了です。

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

【フォルダーのプロパティの変更】

PowerActPro でIISを使用するとき、次のフォルダのプロパティを編集する必要があります。

C:\inetpub\wwwroot\cgi-bin\information

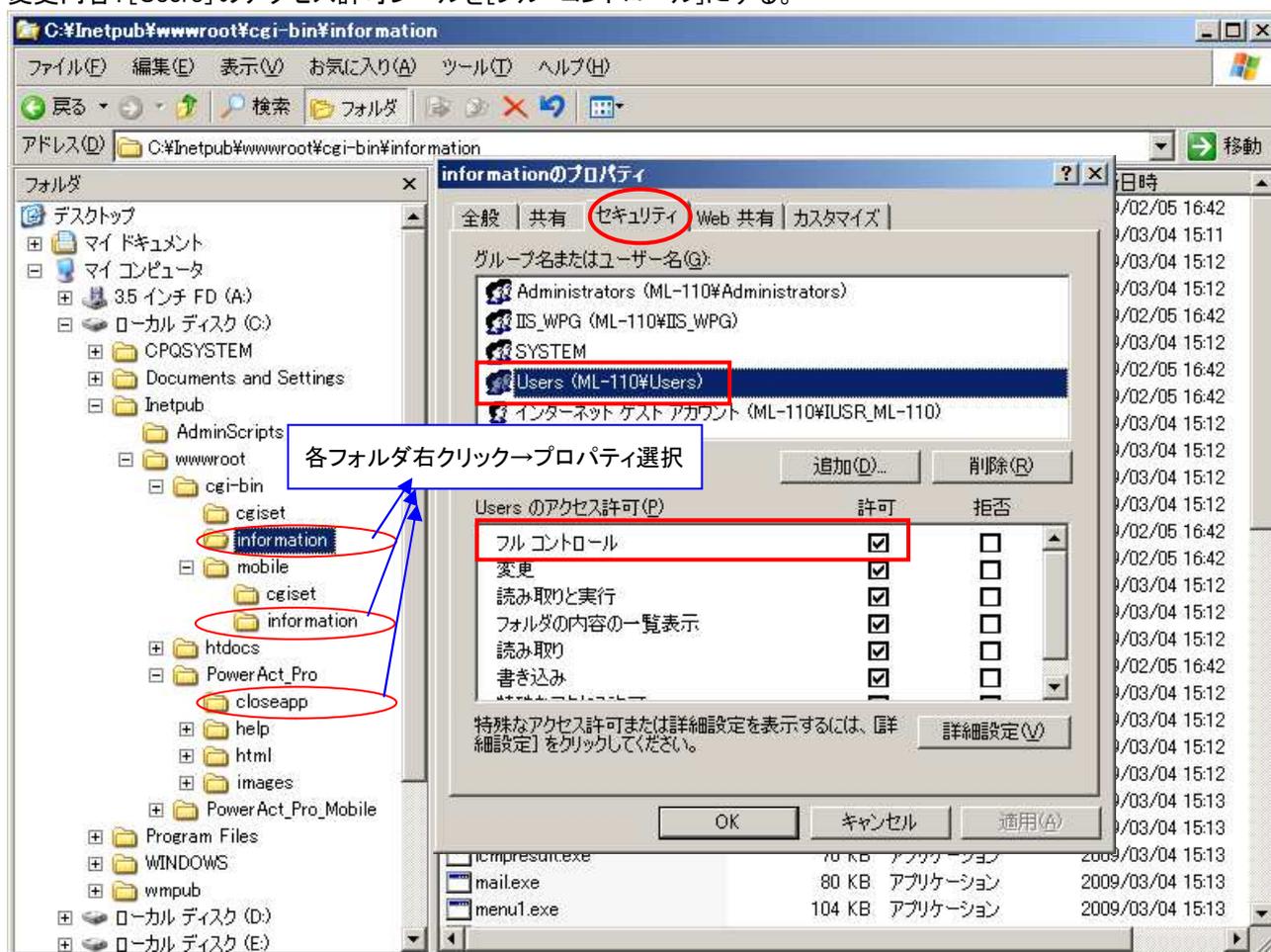
C:\inetpub\wwwroot\cgi-bin\mobile\information

C:\inetpub\wwwroot\PowerAct_Pro\closeapp

*** C:\inetpub\wwwroot は IIS のデフォルトインストールで作成されるフォルダですので、システムに依ります。**

下記の画面例を参考にして、各フォルダーのプロパティを変更してください。(Windows Vista の例です)

変更内容: [Users]のアクセス許可レベルを[フル コントロール]にする。



OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

5. インストール操作

《PowerAct Pro マスターエージェントのインストール》

※1台のUPSに2台以上のコンピュータを接続されている場合は、マスターエージェント用のコンピュータに先にインストールしてから、スレーブエージェント用のコンピュータにインストールしてください。

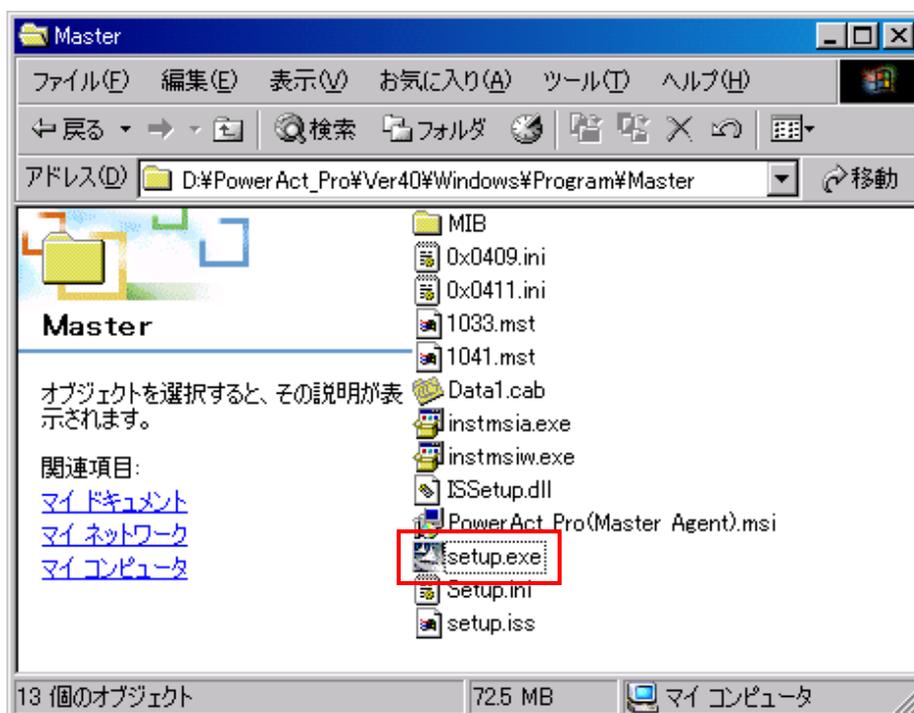
※インストール中、インストール画面が他の画面の後ろへ隠れてしまう場合があります。その場合は、[Alt]キーを押しながら[Tab]キーを押して画面を切り替えてください。

以下の手順に従って PowerAct Pro(Master Agent)をインストールします。

1. Windows を起動した後に、本ソフトウェアの CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. CD-ROM 内の”setup.exe”をクリックします。

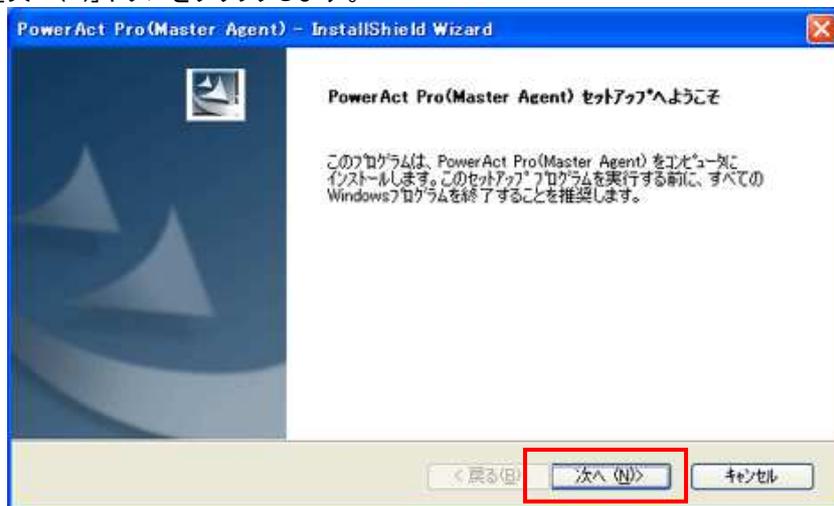
[格納ディレクトリ]

D:¥software¥PowerAct_Pro¥Ver4X¥Windows¥Program¥Master¥setup.exe

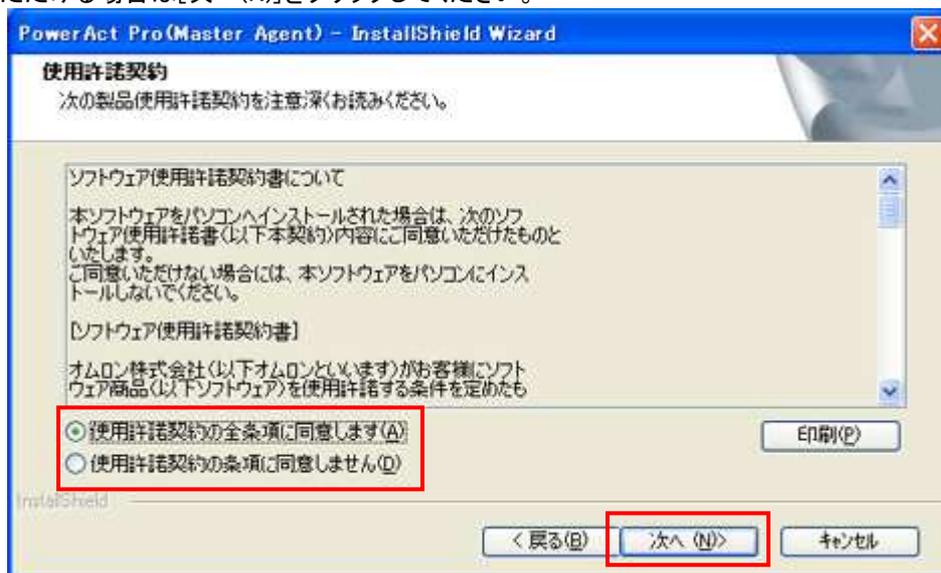


OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

3. [次へ(N)]ボタンをクリックします。

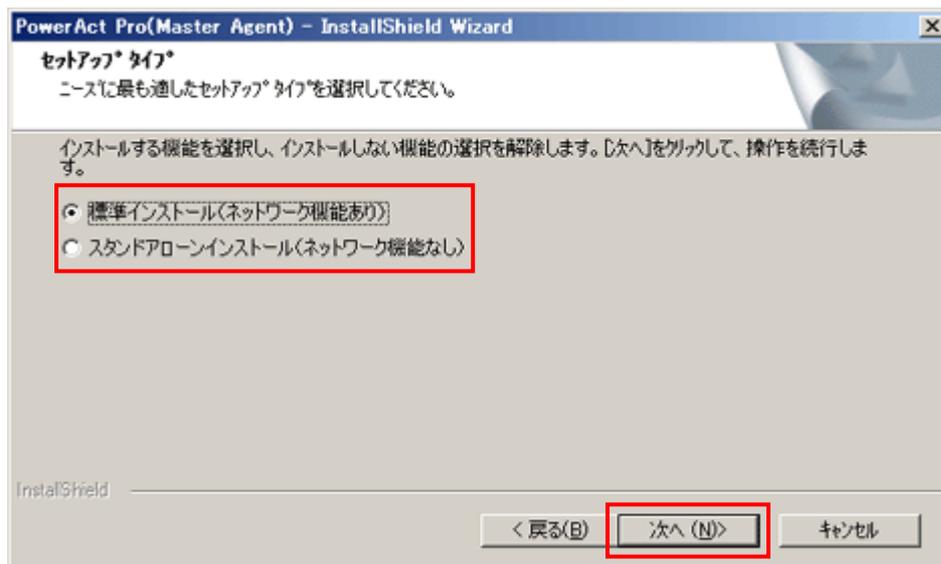


5. 製品ライセンスの内容を確認し、同意いただける場合は[使用許諾契約の全条項に同意します(A)]に、同意いただけない場合は[使用許諾契約の条項に同意しません(D)]のラジオボタンをクリックします。同意いただけない場合は、本ソフトウェアを使用できません。[キャンセル]ボタンをクリックし、インストールを中止してください。同意いただける場合は[次へ(N)]をクリックしてください。



OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

6. インストールするプログラム内容を選択します。ご利用になる環境に合わせて以下のどちらかを選択してください。本ソフトウェアのネットワーク機能（連携シャットダウン、SNMP 管理など）を使用する場合は、「標準インストール（ネットワーク機能あり）」を選択してください。本ソフトウェアのネットワーク機能（連携シャットダウン、SNMP 管理など）を使用しない場合は、「スタンドアローンインストール（ネットワーク機能なし）」を選択してください。選択後、[次へ(N)]をクリックしてください。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

7. PowerAct Pro のネットワーク動作に使用するサーバプログラムを選択し、該当する項目のラジオボタンをクリック、[次へ(N)]をクリックしてください。

・「Apache Web サーバを使用する」を選択した場合

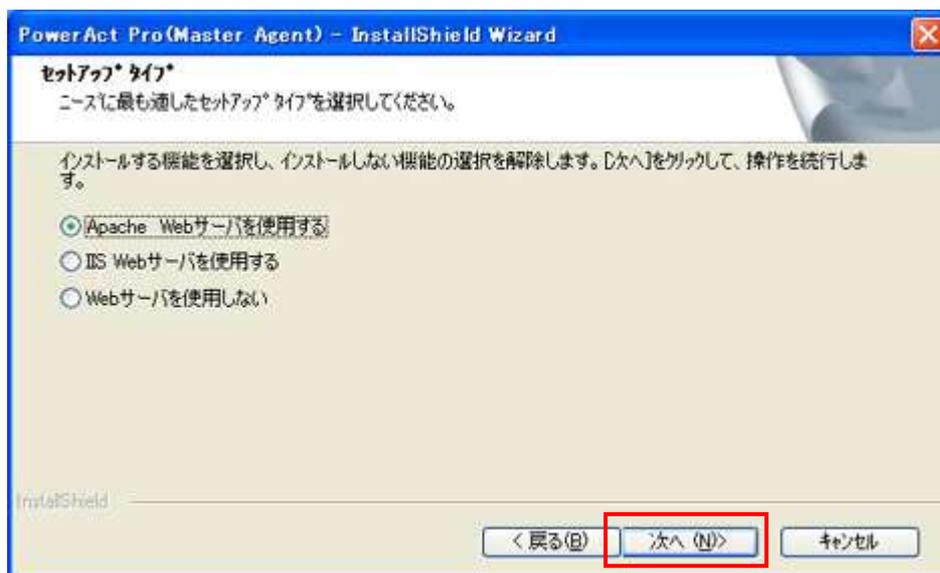
PowerAct Pro が使用する“Apache2.2.8”のインストールが開始します。(→8 項へ)

・「IIS Web サーバを使用する」を選択した場合

PowerAct Pro は OS 標準の IIS を使用するため Web サーバのインストールは行いません。OS の設定で IIS Web サーバが有効となっていることを確認してください。“有効”になっていないと PowerAct Pro のインストールは正常に行えませんのでご注意ください。(IIS の確認方法、インストール方法については“4.HTTP サーバ IIS のインストール確認”を参照ください)(→14 項へ)

・「Web サーバを使用しない」を選択した場合

PowerAct Pro のモニタ画面表示ができないため、インストール時に設定する基本的なシャットダウンパラメータ(22 項参照)のみ設定可能です。それ以外の項目はコンソールモードを使用すれば設定可能です。コンソールモードの操作方法については、別冊の「コンソールモード設定ガイド」を参照ください。(→14 項へ)



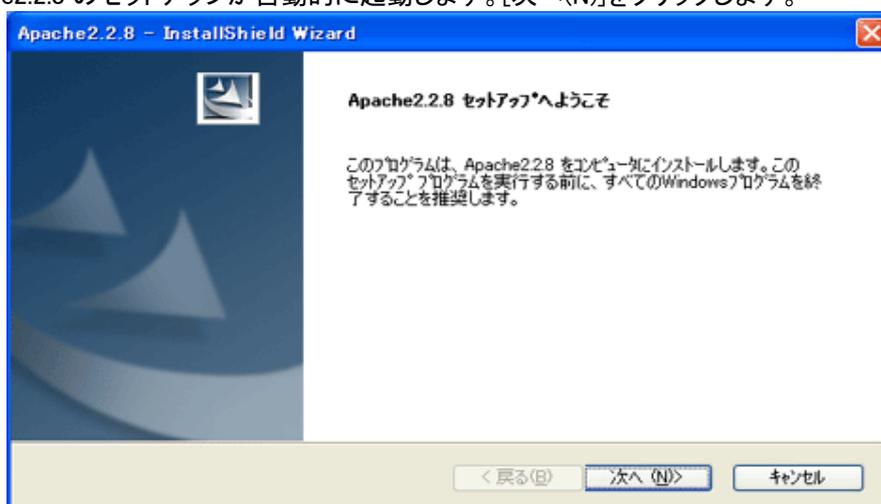
	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

■「Apache Web サーバを使用する」を選択した場合

8. Apache2.2.8 がインストールされていない場合、インストールするかどうか確認を求められます。Apache2.2.8 は、PowerAct Pro の動作に必要なソフトウェアです。[OK]をクリックしてください。



9. Apache2.2.8 のセットアップが自動的に起動します。[次へ(N)]をクリックします。

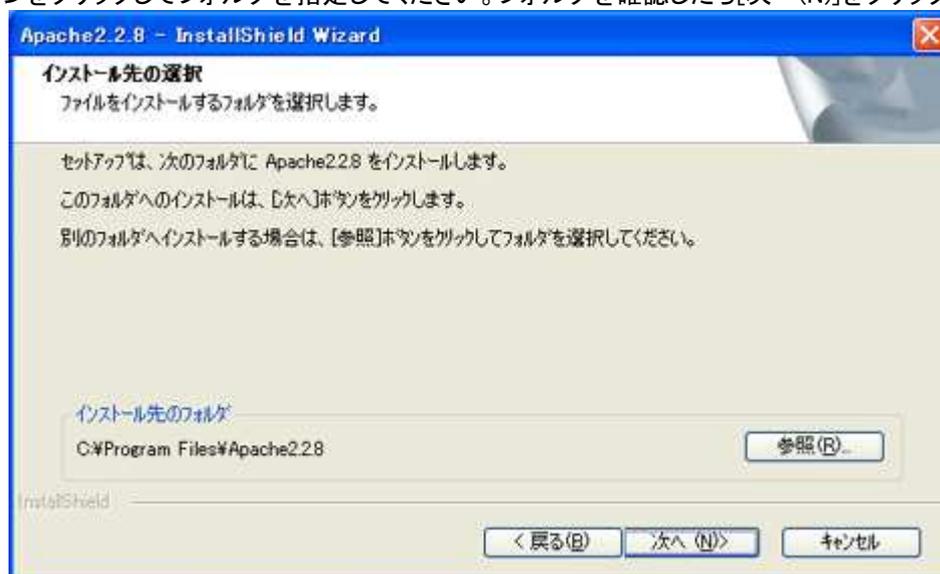


OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

10. 製品ライセンスの内容を確認し、同意いただける場合は[使用許諾契約の全条項に同意します(A)]に、同意いただけない場合は[使用許諾契約の条項に同意しません(D)]のラジオボタンをクリックします。同意いただけない場合は、インストールができません。[キャンセル]ボタンをクリックし、インストールを中止してください。同意いただける場合は[次へ(N)]をクリックしてください。



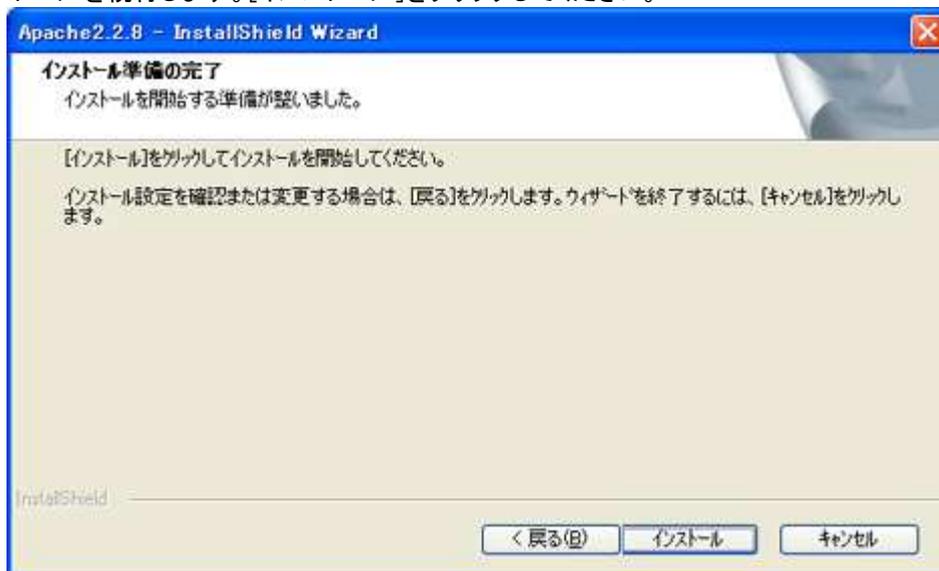
11. インストール先フォルダを指定する画面が表示されます。表示されているフォルダ以外を指定する場合は[参照(R)]ボタンをクリックしてフォルダを指定してください。フォルダを確認したら[次へ(N)]をクリックしてください。



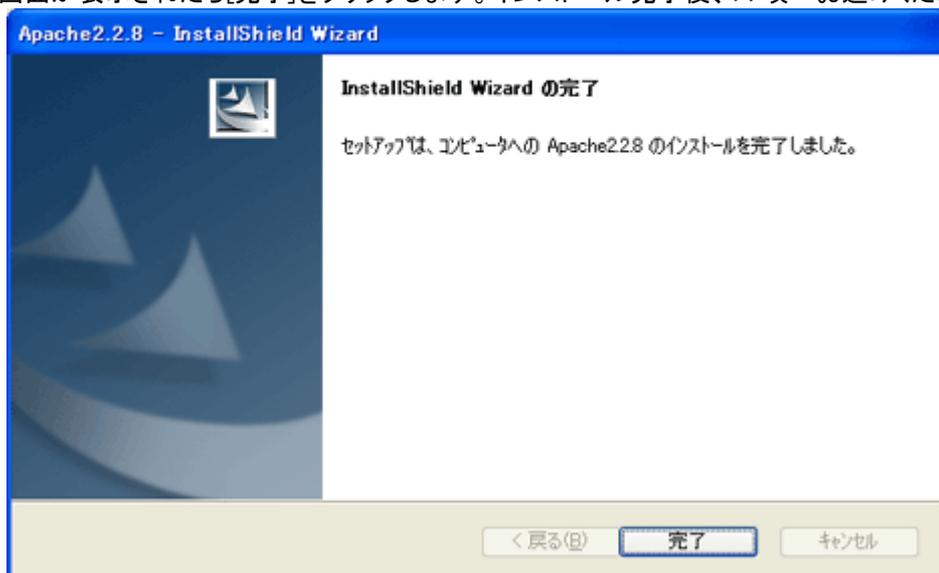
※日本語で表示されているフォルダ(例えば「プログラム」など)に Apache HTTP Server のソフトウェアをインストールしないでください。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

12. インストールを続行します。[インストール]をクリックしてください。



13. 完了画面が表示されたら[完了]をクリックします。インストール完了後、14 項へお進みください。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

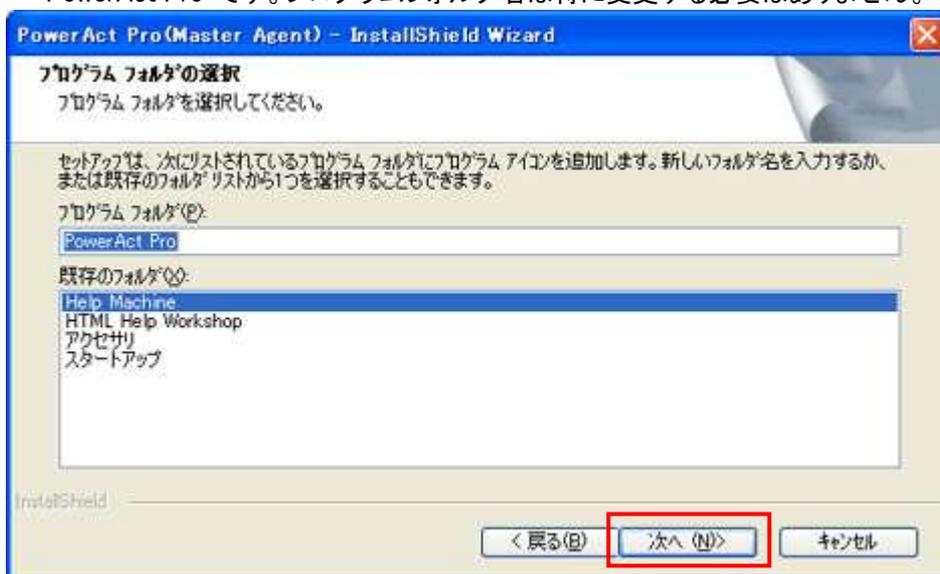
■「PowerAct Pro(Master Agent)」のインストール

14. インストール先のフォルダ名を確認し、[次へ(N)]ボタンをクリックします。自動的に表示されるインストール先フォルダは、“C:\Program Files\PowerAct Pro(Master Agent)”です。インストール先フォルダは特に変更する必要はありません。変更したい場合は、[参照(R)]ボタンをクリックし、フォルダ名を変更してください。

(注意)ネットワークドライブなどにはインストールしないでください。

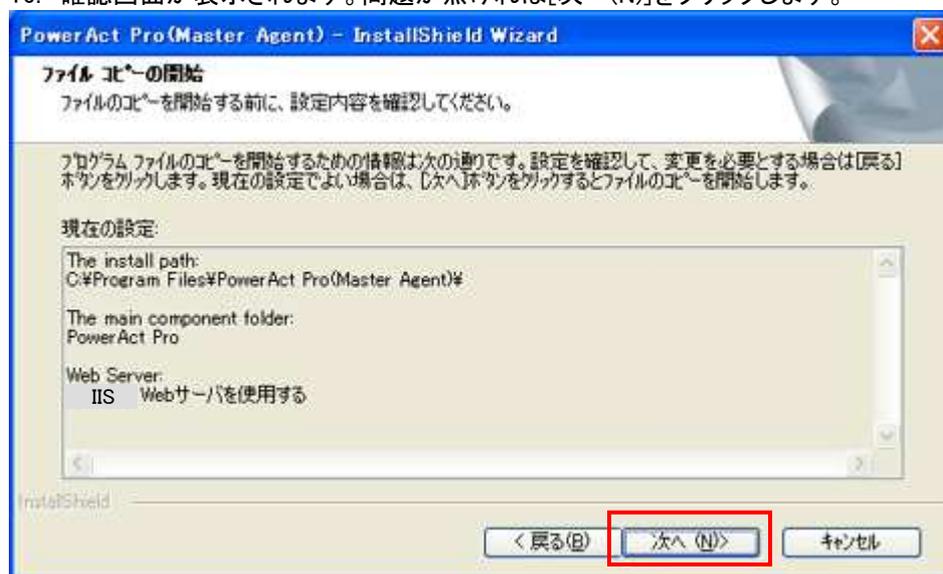


15. プログラムフォルダ名を確認し、[次へ(N)]ボタンをクリックします。自動的に表示されるプログラムフォルダ名は、“PowerAct Pro”です。プログラムフォルダ名は特に変更する必要はありません。

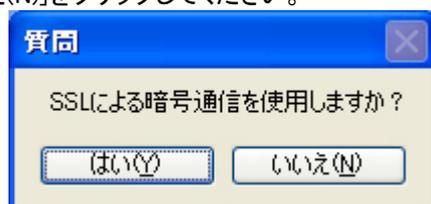


	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

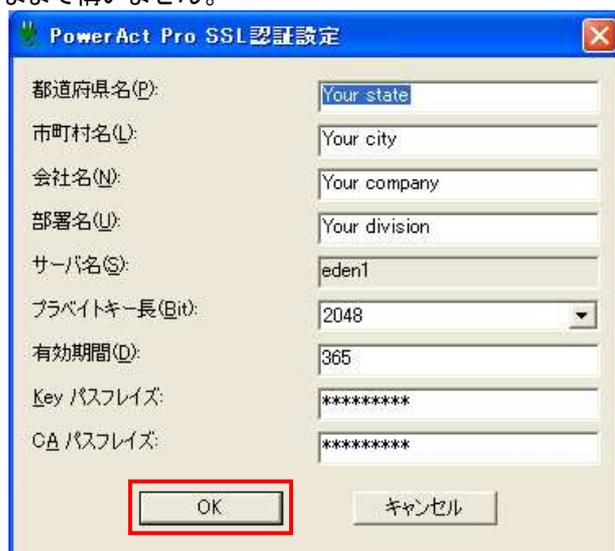
16. 確認画面が表示されます。問題が無ければ[次へ(N)]をクリックします。



17. SSL 暗号通信の使用の有無を設定します。SSL 暗号通信を使用する場合は[はい(Y)]を、使用しない場合は[いいえ(N)]をクリックしてください。

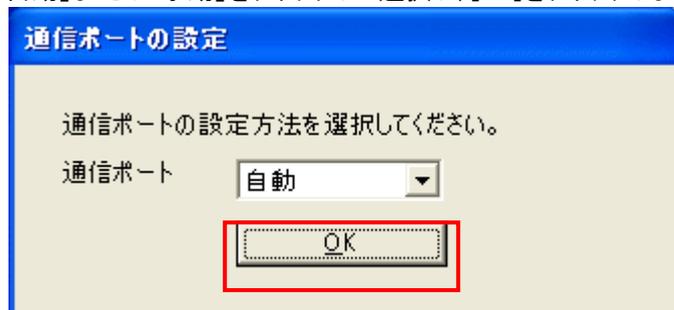


18. SSL 暗号通信を使用するかどうかのダイアログで[はい(Y)]を選択した場合は、SSL 認証設定画面になります。SSL 暗号通信に必要な項目を入力し、[OK]をクリックします。デフォルトで設定が入力されているものはデフォルト設定のままです。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

19. 通信ポートの設定方法を選択します。通信ポート欄の右端にある下矢印をクリックするとリストが表示されるので、「自動」または「手動」をクリックして選択し、[OK]をクリックします。



・「自動」を選択した場合

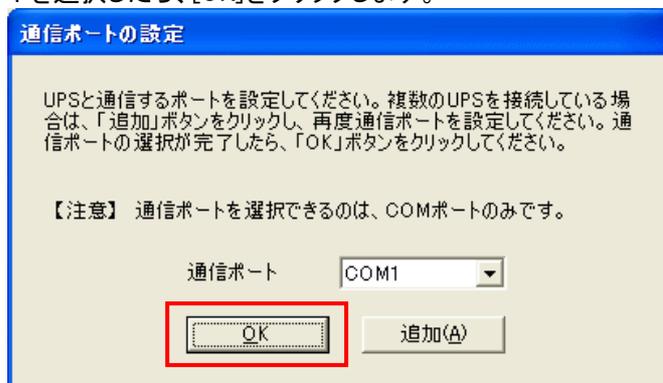
コンピュータに接続されている UPS が自動的に検索され、通信テストが実行されてから通信ポートテスト結果が表示されます。結果を確認したら[OK]をクリックします。

※ご使用になる UPS とコンピュータを USB ケーブルで接続している場合、UPS を自動検出できない場合があります。この場合は、インストールを継続し、インストール完了後に OS の再起動を行ってください。



・「手動」を選択した場合

通信ポート欄の右端にある下矢印をクリックするとリストが表示されるので、UPS が接続されている通信ポートを選択します。複数の UPS を接続している場合は[追加]ボタンをクリックして次の通信ポートを選択します。すべての通信ポートを選択したら、[OK]をクリックします。



通信ポートテスト結果を確認し、[OK]をクリックします。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

22. 下表の説明に従って、マスターエージェントの基本的なシャットダウンパラメータを設定し、[OK]をクリックします。
**※下記の設定画面はインストール後でも表示・設定変更できます。インストール後に表示・設定変更したい場合は、
 "C:\Program Files\PowerAct Pro(Master Agent)\ConfigShutdownParameter.exe"を起動してください。**

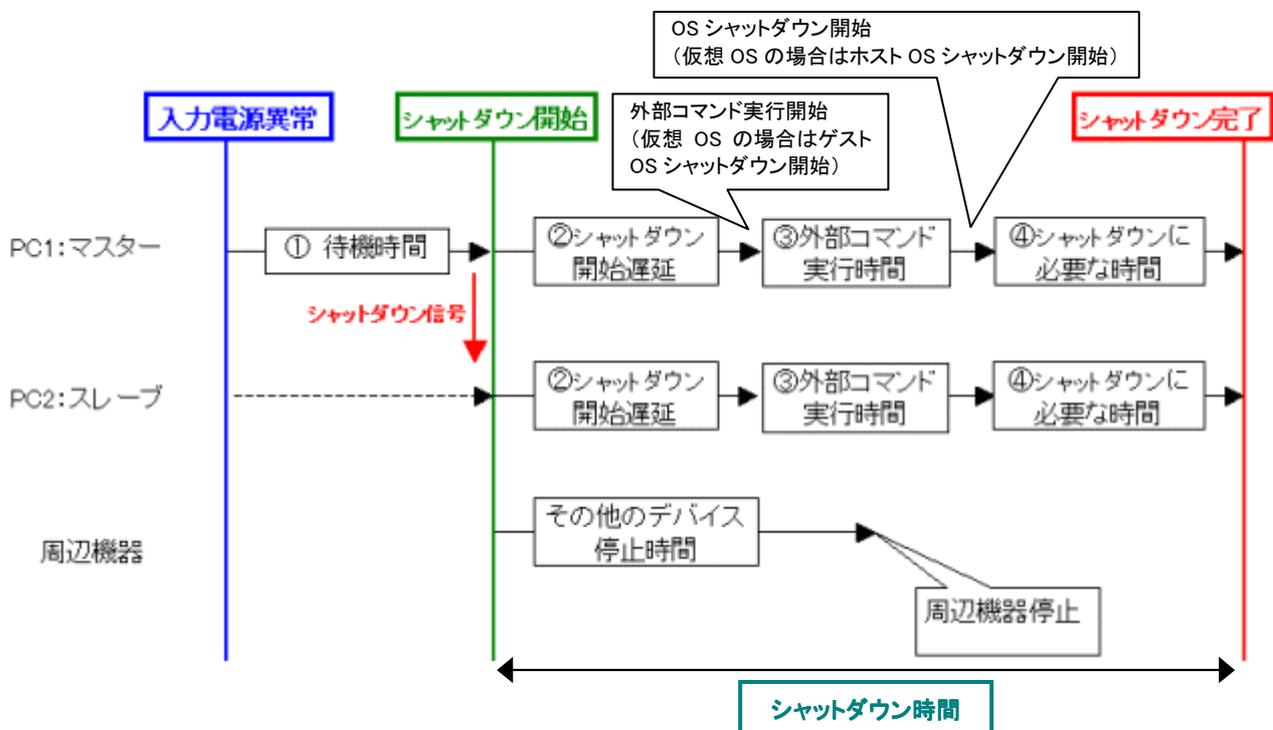
項目	設定内容と方法
[シャットダウンパラメータ]タブ	
UPS 出力コンセント選択	接続している負荷をどの出力コンセントに接続するか選択します。出力コンセントは、制御できるコンセントとできないコンセントがあります。 ※出力コンセント制御をサポートしていないUPSをご使用する場合は、この機能は使用できません。
待機時間	電源異常が発生してからシャットダウン動作を開始するまでの待機時間を秒単位で設定します。 0～36000 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 60 秒。0～60 秒までは 10 秒間隔、60～36000 秒までは 60 秒間隔)
シャットダウン開始遅延	複数台のコンピュータがある場合、他のコンピュータとシャットダウン開始のタイミングを遅らせたい場合に設定します。 60 秒間隔で 0～600 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 0 秒)
外部コマンドライン	シャットダウン動作が開始されると同時に起動されるプログラムのコマンド名を入力します。例えば、バックアップデータを特定のディスクに保存するなどのプログラムが考えられます。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

項目	設定内容と方法
[シャットダウンパラメータ]タブ	
外部コマンド実行時間	外部コマンドの実行に必要な時間を設定します。60秒間隔で0~600秒の範囲で設定できます。なお、この時間が経過するまでは、シャットダウン動作を一時停止します。(デフォルトは0秒) ※仮想OSで使用される場合は、ゲストOSのシャットダウンにかかる時間を設定してください。(設定範囲60~600秒)
シャットダウンに必要な時間	OSのシャットダウンに必要な時間を設定します。60秒間隔で0~1800秒の範囲で選択できます。(デフォルトは180秒)
Windows 終了モード	終了モードを「休止状態」と「シャットダウン」から選択します。 ※「休止状態」はOS設定の[電源管理オプション]で「休止状態をサポートする」に設定されている場合のみ選択可能です。
UPS 自動停止	コンピュータのシャットダウンが完了した後、UPSを自動的に停止するかどうかを設定します。
その他のデバイス	各コンセントの[その他のデバイス停止時間]を30~600秒の範囲で入力欄右側の矢印をクリックすると表示されるリストから選択して設定します。 ※出力コンセント制御機能のないUPSを接続している場合はコンセントBおよびCの設定はできません。
入力電源異常時の最大バックアップ時間	UPSの入力電源に異常が発生した時、最大で何分間バックアップ運転を行うか設定します。

※出力コンセント制御機能付きUPS

BN200S/BN300S/BN100XR/BN150XR/BN240XR
BU75RW/BU100RW/BU200RW/BU300RW



PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

マスターエージェント for Windows

Rev F

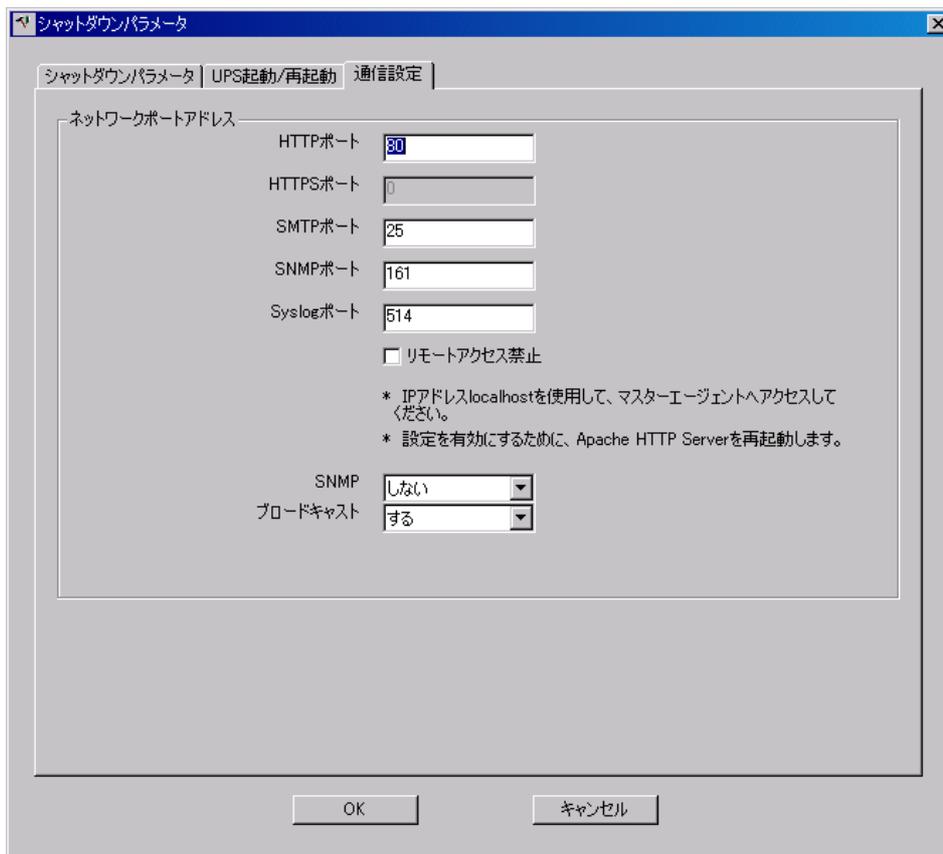
項目	設定内容と方法
[UPS 起動/再起動]タブ	
UPS 起動時の出力開始遅延時間	UPS が起動するときに、出力コンセント別に出力遅延時間を秒単位で設定します。ただし、出力コンセント A については 0 秒固定です。 ※出力コンセント制御機能のない UPS を接続している場合は選択できません。
UPS 自動再起動	電源異常が回復した後で、UPS を再起動するかどうかを設定します。
UPS 起動遅延時間	電源異常が回復した後で、UPS を再起動するまでの遅延時間を秒単位で設定します。
バッテリー容量オーバ	設定されたバッテリー容量に充電されるまで、UPS を起動させたくない場合に設定します。
UPS コールドスタート機能	UPS コールドスタート機能を有効にするか設定します。コールドスタート有効に設定すると、UPS は電源入力がない環境でも起動させることができます。入力欄右側の矢印をクリックすると表示されるリストから選択して設定します。



PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

マスターエージェント for Windows

Rev F



シャットダウンパラメータ | UPS起動/再起動 | 通信設定

ネットワークポートアドレス

HTTPポート

HTTPSポート

SMTPポート

SNMPポート

Syslogポート

リモートアクセス禁止

* IPアドレスlocalhostを使用して、マスターエージェントへアクセスしてください。

* 設定を有効にするために、Apache HTTP Serverを再起動します。

SNMP

ブロードキャスト

OK キャンセル

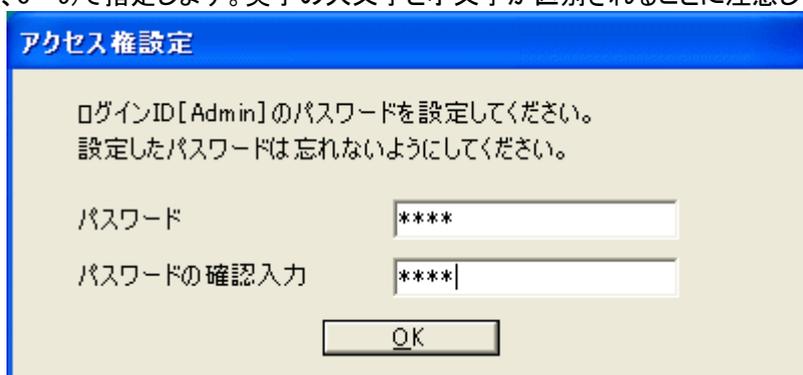
項目	設定内容と方法
	[通信設定]タブ
ネットワークポートアドレス	<ul style="list-style-type: none"> ご使用のネットワークの状況に合わせて、HTTP、HTTPS、SMTP、SNMP、Syslog ポートの各ポート番号を設定します。通常は、デフォルト値を使用します。もし他のサービスとポート番号が重複している場合は、別の番号を設定してください。 [リモートアクセス禁止]を選択するとリモート PC からの操作を禁止することができます。 [SNMP]は SNMP 管理を行う時に設定を“しない”から“する”に変更してください。 “する”に変更すると SNMP マネージャに対して、UPS 管理情報の送信を行います。 [ブロードキャスト]は通常は“する”に設定してください。“しない”に設定すると、PowerActPro はスレーブエージェントの連携シャットダウンを行うことができません。 <p>※ポートアドレスを変更すると、PC 全体の設定が書き換わるため、他のアプリケーション等が正常に動作しなくなる恐れがあります。変更される場合は十分にご注意ください。</p>

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

23. 7項で「Apache Web サーバを使用する」を選択した場合のみ、Apache のエラー表示を PowerAct Pro に適合させる事の確認表示が出ます。[はい(Y)]をクリックします。



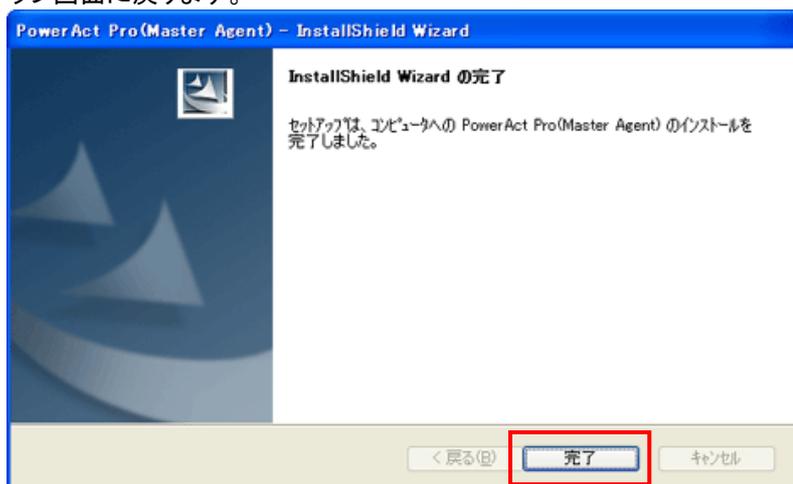
24. 管理者用のパスワードを設定します。画面の指示に従って設定してください。15 文字以内の半角英数字(A～Z、a～z、0～9)で指定します。英字の大文字と小文字が区別されることに注意してください。



25. 確認のためパスワードを再入力し、[OK]をクリックします。

※ログイン ID「Admin」(管理者)用パスワード、は、インストール後に変更することができます。

26. CD-ROM を取り出し[完了]ボタンをクリックします。PowerAct Pro のエージェントが自動的に起動し、Windows のデスクトップ画面に戻ります。



以上で、PowerAct Pro マスターエージェントのインストールは終了です。
 なお、バッテリーの使用開始設定画面が表示された場合は、次の設定を行ってください。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

6. バッテリー交換時の設定

UPS を使用開始した時やバッテリーを交換したときは、次の手順でバッテリー使用開始日を設定します。バッテリー使用開始日(交換日)を設定することにより、定期メンテナンス(バッテリー交換)を実施する時期を前もって予定することができます。バッテリーの交換方法については UPS の取扱説明書を参照してください。

[設定手順]

1. [バッテリー使用開始日(交換日)]画面で、[日付]ボタンをクリックします。



2. 表示されるカレンダーで日付をクリックし、[設定]ボタンをクリックします。



3. [設定]ボタンをクリックして交換日を設定します。[キャンセル]をクリックすると、指定した日付が設定されません。

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

7. Windows の設定

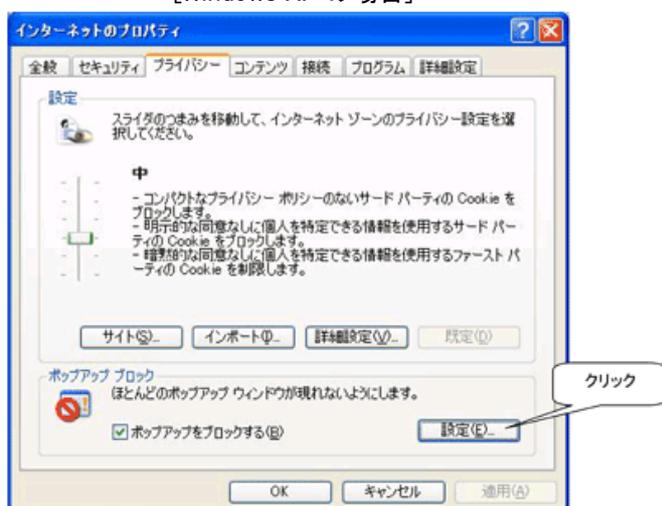
Windows XP / Server 2003 以降の OS をご使用する場合には、次の設定変更が必要になりますので、ご参考にしてください。

1. [ポップアップブロック]の設定変更

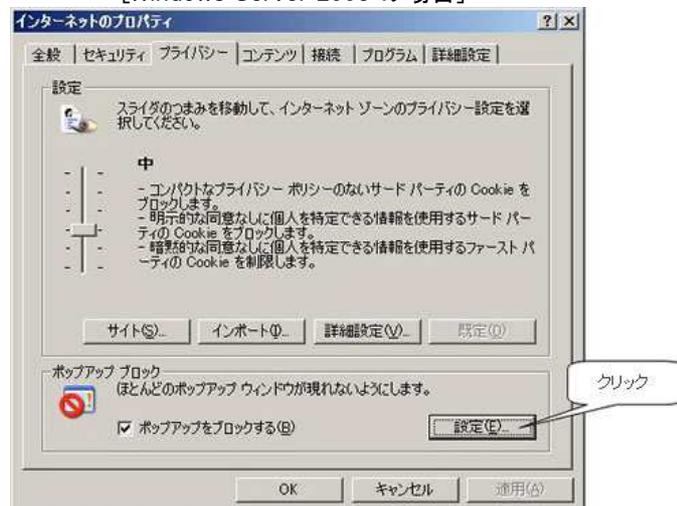
PowerAct Pro の画面を表示させるためには、[ポップアップブロック]の設定変更を行う必要があります。次の設定変更方法に従って、PowerAct Pro マスターエージェントをインストールしたコンピュータにポップアップを許可するサイトを追加してください。

- 1) [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]より[インターネットオプション]を選択してください。
- 2) [プライバシー]タブをクリックしてください。
- 3) ポップアップブロックの[設定]ボタンをクリックしてください。

[Windows XP の場合]



[Windows Server 2003 の場合]



- 4) [許可する Web サイトのアドレス]に「127.0.0.1」と入力し[追加]ボタンをクリックしてください。

[Windows XP の場合]



[Windows Server 2003 の場合]



- 5) [閉じる]ボタンをクリックし、ポップアップブロックの設定を閉じてください。
- 6) [OK]ボタンをクリックし、インターネットオプションを閉じてください。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

2. [信頼済みサイト]への追加

Windows Server 2003/2008/2012 で PowerAct Pro の画面を表示させるためには、さらに[信頼済みサイト]への追加を行う必要があります。**(Windows XP/Vista/7/8 の場合には、本設定変更は不要です。)**

次の設定変更方法に従って PowerAct Pro マスターエージェントをインストールしたコンピュータに [信頼済みサイト]を追加してください。

- 1) [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]内の[インターネットオプション]をクリックしてください。
- 2) [セキュリティ]タブをクリックしてください。
- 3) [信頼済みサイト]をクリックし、その後[サイト]ボタンをクリックしてください。



- 4) [このゾーンのサイトにはすべてサーバの確認(https:)を必要とする]のチェックマークをはずしてください。

※Windows Server 2003 x64 Edition をご使用の場合、[このゾーンのサイトにはすべてサーバの確認(https:)を必要とする]の欄にデフォルトでチェックマークがついていない為、この項目は省略してください。



OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

5) [次の Web サイトをゾーンに追加する]に「127.0.0.1」を入力し[追加]ボタンをクリックしてください。



6) [このゾーンのサイトにはすべてサーバの確認(https:)を必要とする]にチェックマークを加えてください。

※Windows Server 2003 x64 Edition をご使用の場合、[このゾーンのサイトにはすべてサーバの確認(https:)を必要とする]の欄にデフォルトでチェックマークがついていない為、この項目は省略してください。



7) [閉じる]ボタンをクリックし、信頼済みサイトを閉じてください。

8) [OK]ボタンをクリックし、インターネットオプションを閉じてください。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

3. [Windows ファイアウォール] の設定変更(その1)

Windows ファイアウォールが「有効」に設定されていて且つ、PowerAct Pro マスターエージェントをインストールしたコンピュータに外部からリモートアクセスされる場合は、[Windows ファイアウォール] の設定変更を行う必要があります。**(Windows ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、本設定変更は不要です。)**

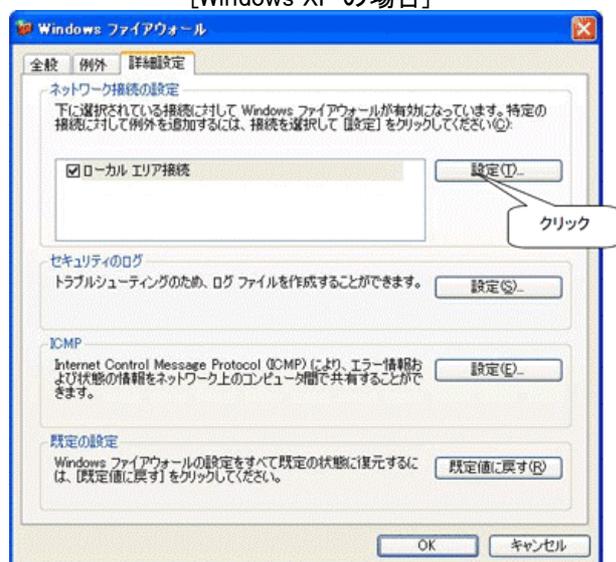
- 1)[スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックしてください。
- 2)[コントロールパネル]で[Windows ファイアウォール] をクリックしてください。

■Windows XP/Windows Server 2003 の場合

次の手順に従って、Windows ファイアウォールの Web サーバ(HTTP)のサービスを「有効」にしてください。

- 3)「詳細設定」タブをクリックして「設定(T)」を選択してください。

[Windows XP の場合]

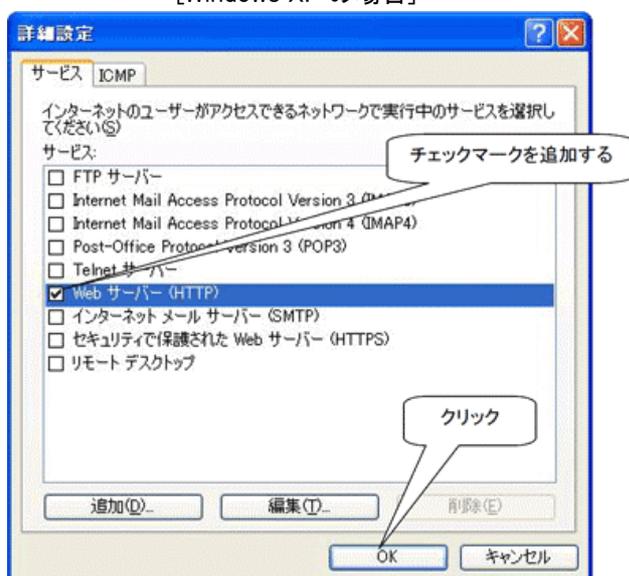


[Windows Server 2003 の場合]

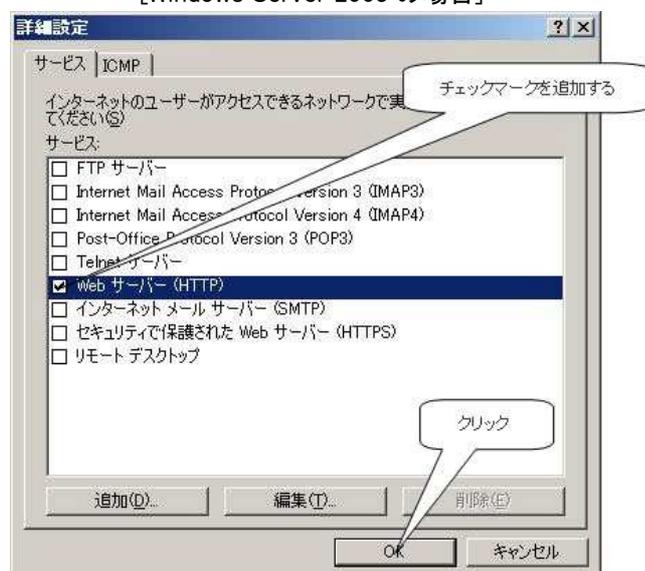


- 4)「サービス」より「Web サーバ(http)」を選択し、チェックボックスにチェックマークをつけ、[OK]ボタンをクリックしてください。(→"12")へ)

[Windows XP の場合]



[Windows Server 2003 の場合]



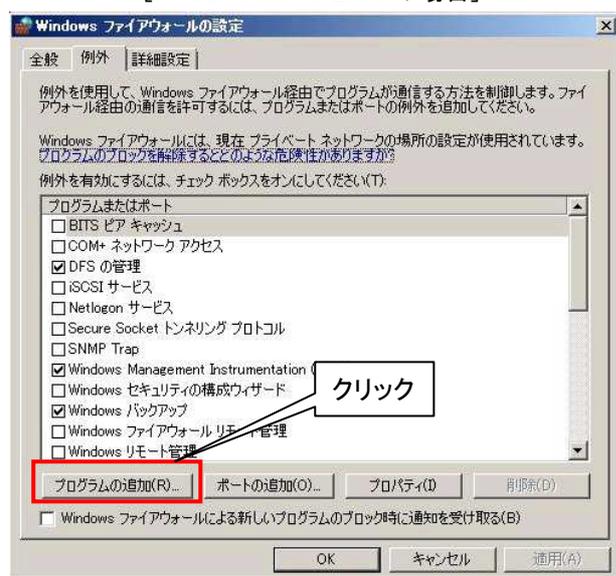
OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

■Windows Vista/Windows Server 2008 の場合

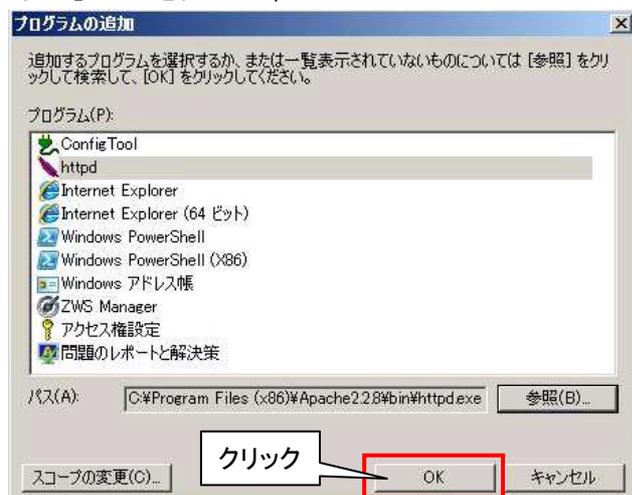
・「Apache Web サーバを使用する」を選択した場合

5)ファイアウォール設定の例外にプログラムの”Apache”の httpd のプログラムを追加する必要があります。「例外」タブをクリックして「プログラムの追加(R)」ボタンをクリックしてください。

[Windows Server2008 の場合]



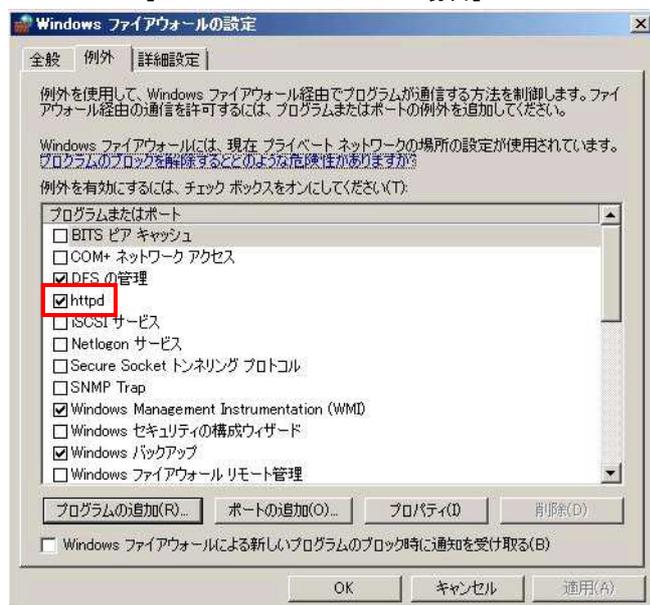
6) 「参照」ボタンを押して Apache フォルダの”bin”フォルダにある httpd を選択し、OK ボタンをクリックしてください。



OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

7)「例外」タブをクリックして、“httpd”が登録され、チェックマークがついていることを確認してください。(→”12”)へ)

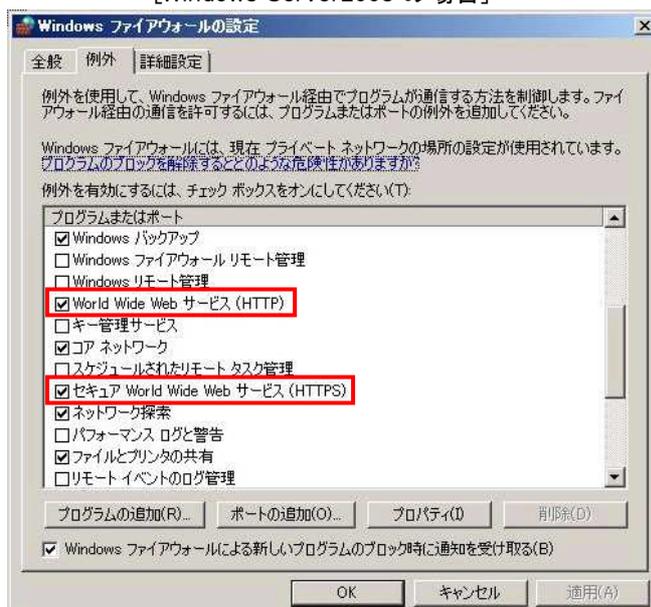
[Windows Server2008 の場合]



・「IIS Web サーバを使用する」を選択した場合

8)IISをインストールするとファイアーウォールの例外設定に自動的に”World Wide Web サービス(HTTP)”と”セキュア World Wide Web サービス(HTTPS)”が登録されます。「例外」タブをクリックして、“World Wide Web サービス(HTTP)”と”セキュア World Wide Web サービス(HTTPS)”が登録され、チェックがついていることを確認してください。(→”12”)へ)

[Windows Server2008 の場合]



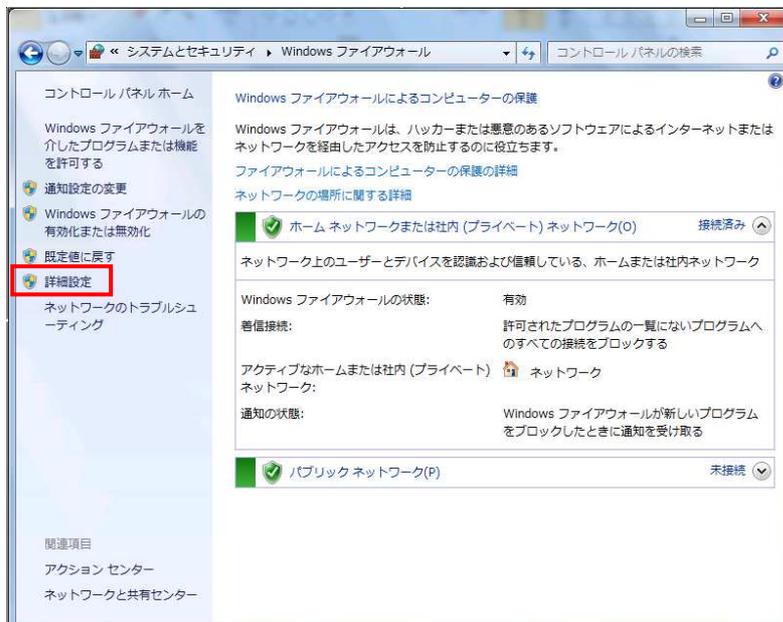
PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

マスターエージェント for Windows

Rev F

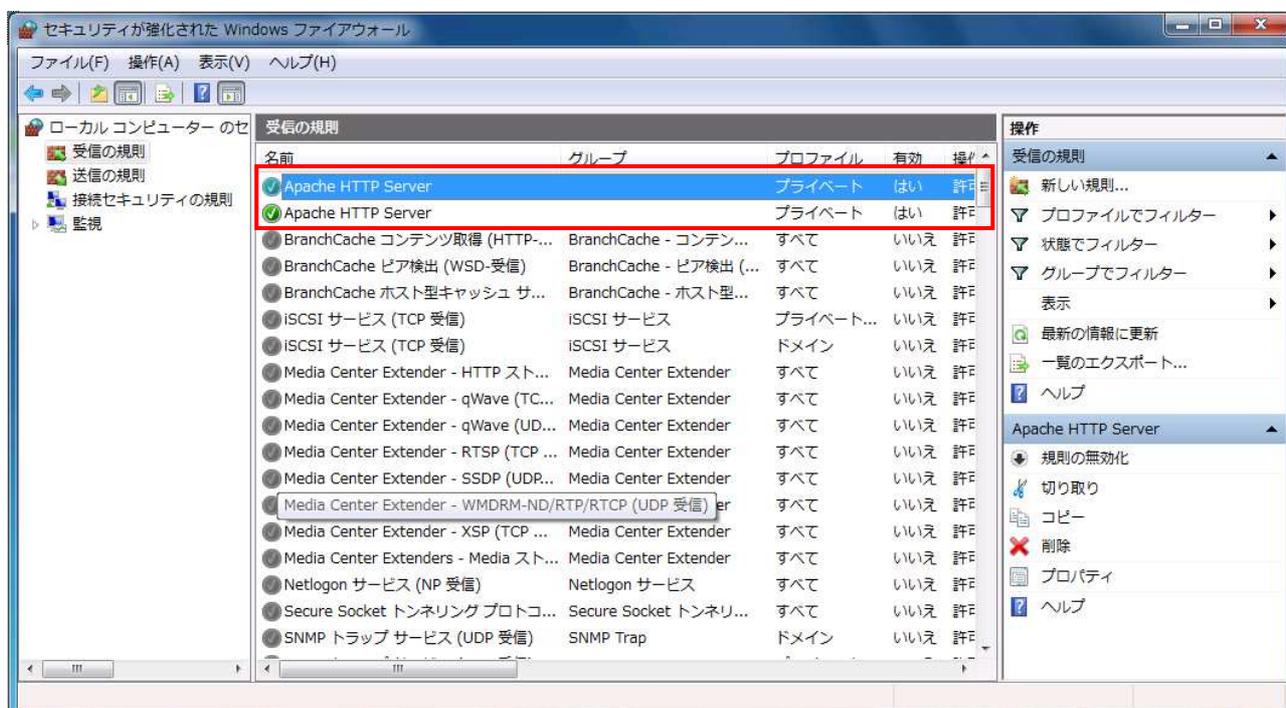
■Windows 7/8 の場合

9)「詳細設定」ボタンをクリックしてください。



・「Apache Web サーバを使用する」を選択した場合

10)「Apache」をインストールするとファイアウォールの設定に自動的に、「Apache HTTP Server」が登録されます。「Apache HTTP Server」が登録されて有効となっていることを確認してください。(→”12)”へ)



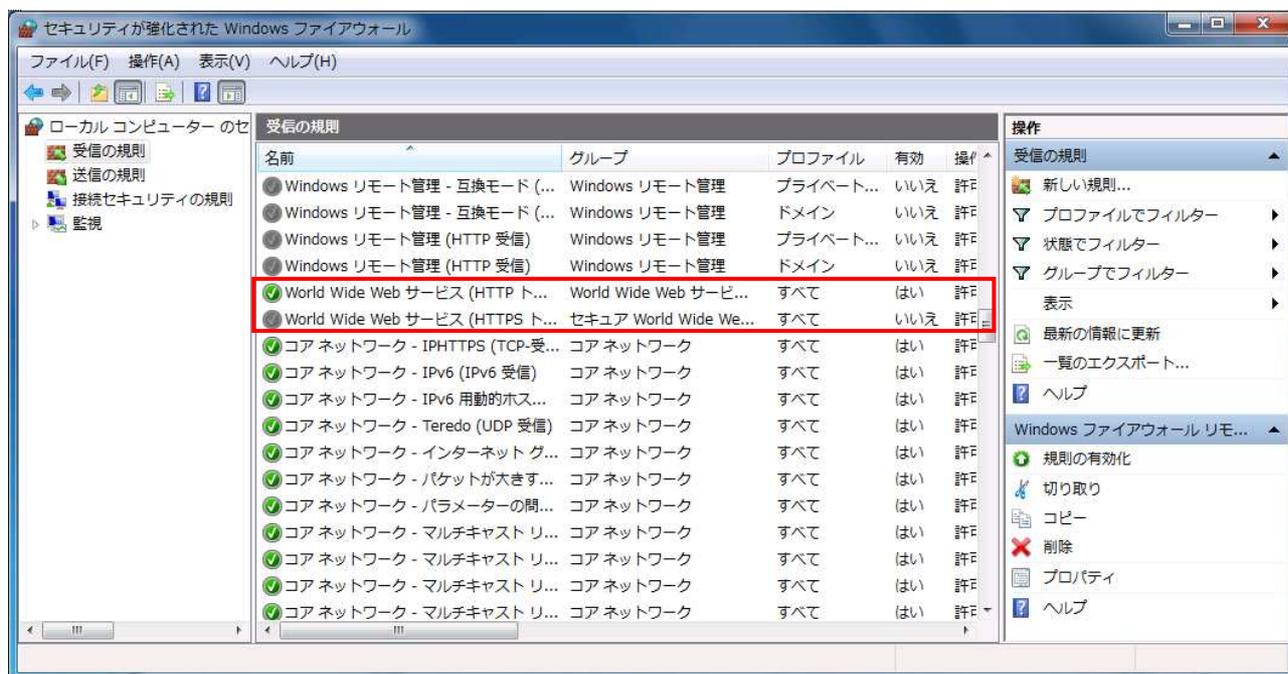
OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

・「IIS Web サーバを使用する」を選択した場合

- 11) IIS をインストールするとファイアウォールの設定に自動的に「World Wide Web サービス(HTTP)」と「セキュア World Wide Web サービス(HTTPS)」が登録されます。「World Wide Web サービス(HTTP)」と「セキュア World Wide Web サービス(HTTPS)」が登録され、有効となっていることを確認してください。(→「12」へ)



- 12) Windows ファイアウォールの設定画面を閉じてください。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

4. [Windows ファイアウォール] の設定変更(その2)

Windows ファイアウォールが「有効」に設定されていて且つ、PowerAct Pro を使用して2台以上のコンピュータをシャットダウン動作(連携シャットダウン)される場合は、[Windows ファイアウォール] の設定変更を行う必要があります。この操作は PowerAct Pro マスターエージェントをインストールしたコンピュータだけでなく、PowerAct Pro スレーブエージェントをインストールしたコンピュータにも設定する必要があります。

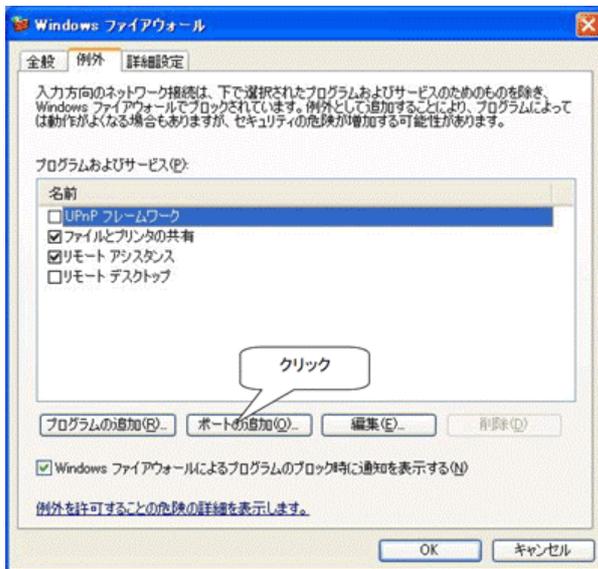
※1台のコンピュータをシャットダウンさせる場合は、本設定変更は不要です。

※Windows ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、本設定変更は不要です。

次の設定変更方法に従って、Windows ファイアウォールの例外リストにポートを追加してください。

- 1) [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックしてください。
- 2) [コントロールパネル]で[Windows ファイアウォール] をクリックしてください。
- 3) [例外]のタブをクリックし、[ポートの追加]ボタンをクリックしてください。

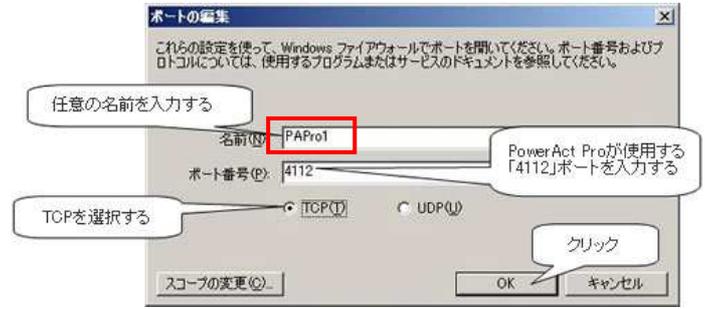
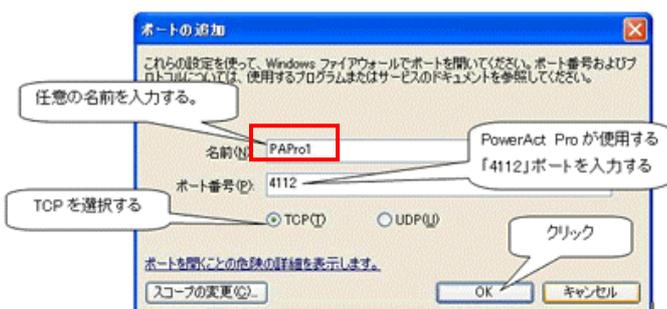
[Windows XP の場合]



[Windows Server 2003 の場合]



4)[名前]の欄に「任意の名前」(例 PAMPro)とポート番号「4112」を入力し、「TCP」を選択してください。設定完了後に [OK]ボタンをクリックしてください。



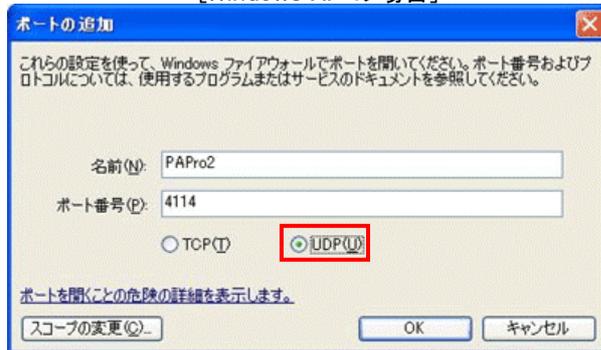
	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

5) 4)項と同様な操作を行ってポート番号 4114 (UDP)とポート番号 4117 (UDP)を設定してください。

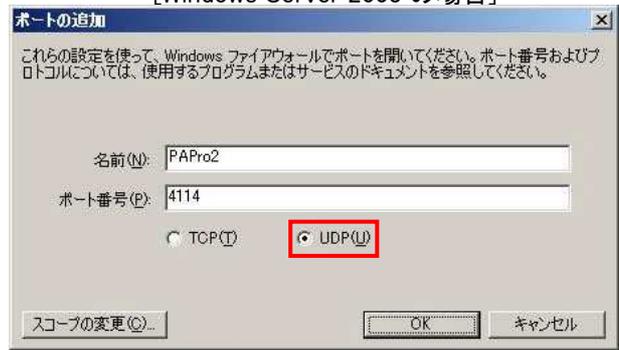
設定例)

「例外」の設定画面より[ポートの追加]ボタンをクリックし、[名前]の欄に「任意の名前」(例 PPro2)とポート番号「4114」を入力し、「UDP」を選択してください。設定完了後に [OK]ボタンをクリックしてください。

[Windows XP の場合]

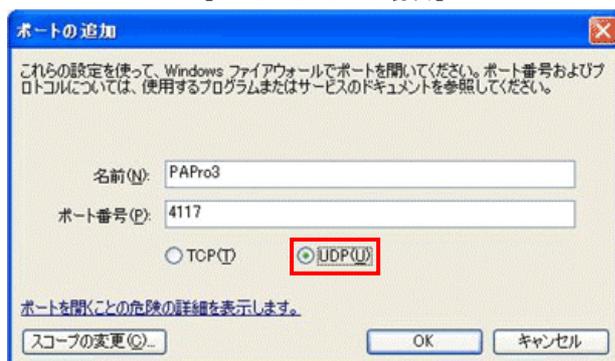


[Windows Server 2003 の場合]

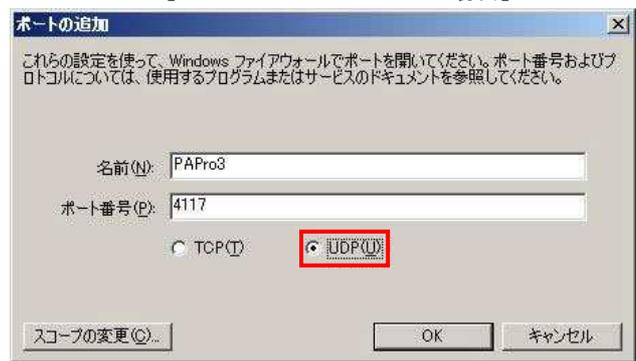


「例外」の設定画面より[ポートの追加]ボタンをクリックし、[名前]の欄に「任意の名前」(例 PPro3)とポート番号「4117」を入力し、「UDP」を選択してください。設定完了後に [OK]ボタンをクリックしてください。

[Windows XP の場合]

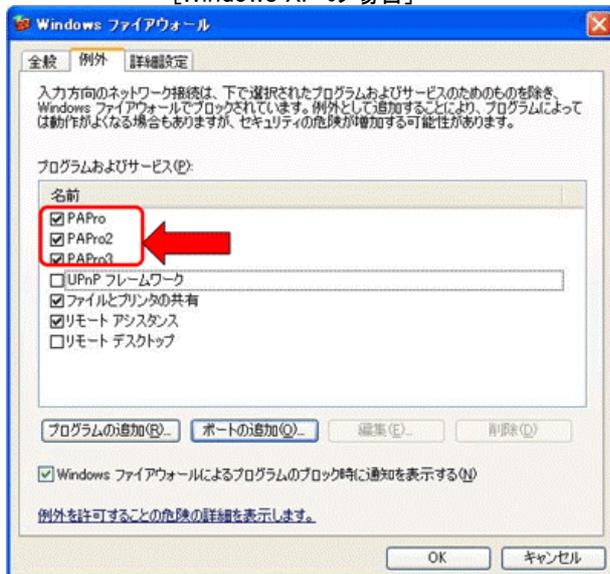


[Windows Server 2003 の場合]

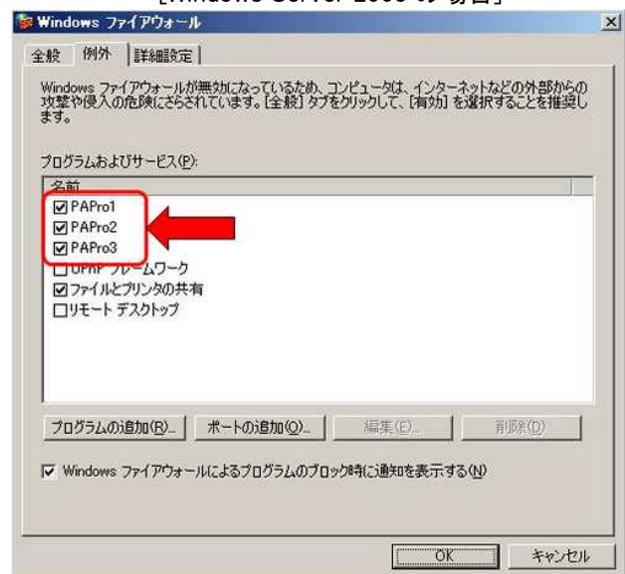


6)設定完了した後に、追加したサービスの前にチェックマークがついていることを確認して、[OK]ボタンをクリックしてください。

[Windows XP の場合]



[Windows Server 2003 の場合]



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

5. [Messenger サービス] の設定変更

Windows XP / Server 2003 以降で PowerAct Pro マスターエージェントからネットワーク上のコンピュータへイベント通知メッセージを表示させるには、[Messenger サービス] の設定変更を行う必要があります。

※ネットワーク上のコンピュータへイベント通知メッセージを表示させない場合は、本設定変更は不要です。

Windows XP / Server 2003 以降では、OS の機能である Messenger がデフォルトで「無効」に設定されます。同じネットワーク内にあるパソコンでも、Messenger が「無効」に設定されているコンピュータは、PowerAct Pro マスターエージェントからのメッセージが表示されません。

この通知機能を動作させたい場合は、OS 標準の「Messenger」サービスを「開始」してください。

- 1)「管理ツール」より「サービス」アイコンを選択してください。
- 2)サービスの一覧で [Messenger] をダブルクリックしてください。
- 3)[全般] タブの [スタートアップの種類] ボックスの一覧で [自動] を選択し[適用]ボタンをクリックしてください。その後、[開始]ボタンをクリックしてください。
- 4)以上で設定が完了しましたので、[OK]ボタンをクリックして [Messenger のプロパティ] ダイアログ ボックスを閉じてください。



PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

マスターエージェント for Windows

Rev F

8. IIS Web サーバ 7.0 を使用した時の注意事項

“5.インストール操作 7 項”で HTTP サーバとして IIS を選択された場合において、“IIS Web サーバ 7.0”をご使用になり、かつ“5.インストール操作 17 項”で“SSL による暗号通信を使用する”を選択された場合は、以下の手順を実施してください。“IIS7.0”もしくは“SSL による暗号通信”をご使用されない場合は以下の手順は不要ですので飛ばしてください。

※IIS Web サーバ 7.0 は Windows Server2008/Vista 以降の OS で標準インストールされています。

1. [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル] -> [プログラム] -> [プログラムと機能] -> [Windows の機能の有効化または無効化]をクリックし、[続行]をクリックします。「IIS 7.0」をインストール(有効化)します。以下の機能が標準でインストール(有効化)されます。



OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

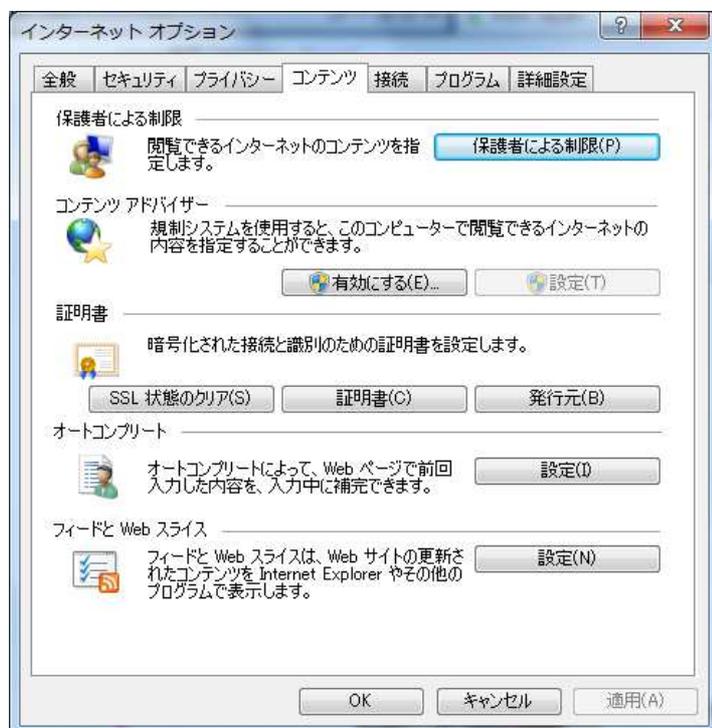
2. 標準でインストール(有効化)される項目に加え、以下の項目のチェックボックスにチェックを入れ、インストール(有効化)してください。

- ・[Web 管理ツール] → [IIS 6 と互換性のある管理]
- ・[World Wide Web サービス] → [アプリケーション開発機能] → [CGI]
- ・[World Wide Web サービス] → [アプリケーション開発機能] → [ISAPI 拡張機能]

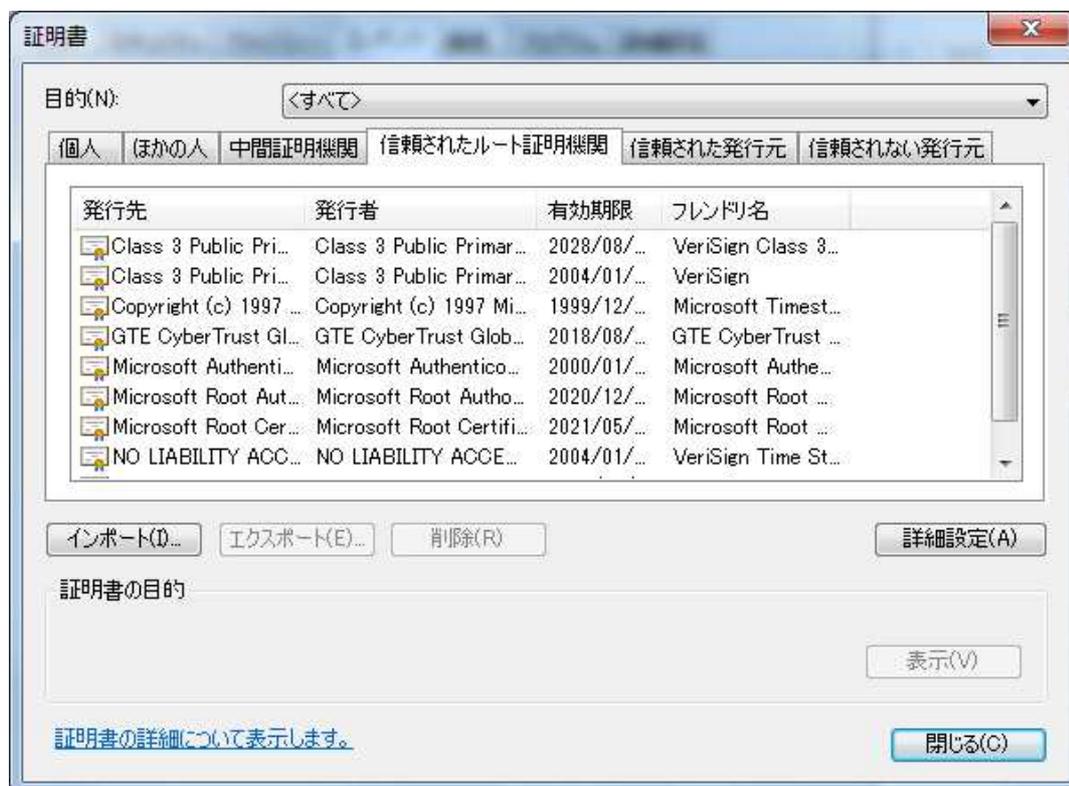




3. SSL を使用するためのセキュリティ証明書のインポートを次の手順に従って設定を行います。Internet Explorer を起動し、「ツール」-「インターネットオプション」-「コンテンツ」を選択してください



4. 「証明書 (C)」ボタンをクリックして、「証明書」画面を開き、「信頼されたルート証明機関」を選択してください。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

5. 「インポート」ボタンをクリックし、「証明書のインポートウィザード」画面を開いてください。



6. 「次へ(N)」ボタンをクリックしてください。

7. 「開く」画面が表示されたら、「server」ファイルを選択し、「開く」をクリックしてください。
なお、使用される Web サーバによって保存先が異なります。

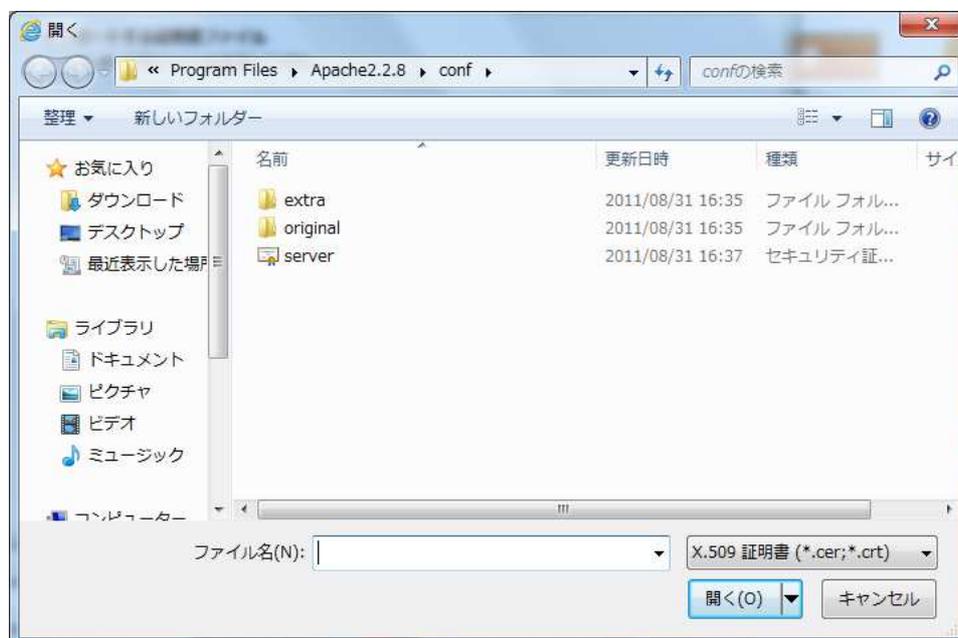
【PowerAct Pro をインストール時に IIS を選択された場合】



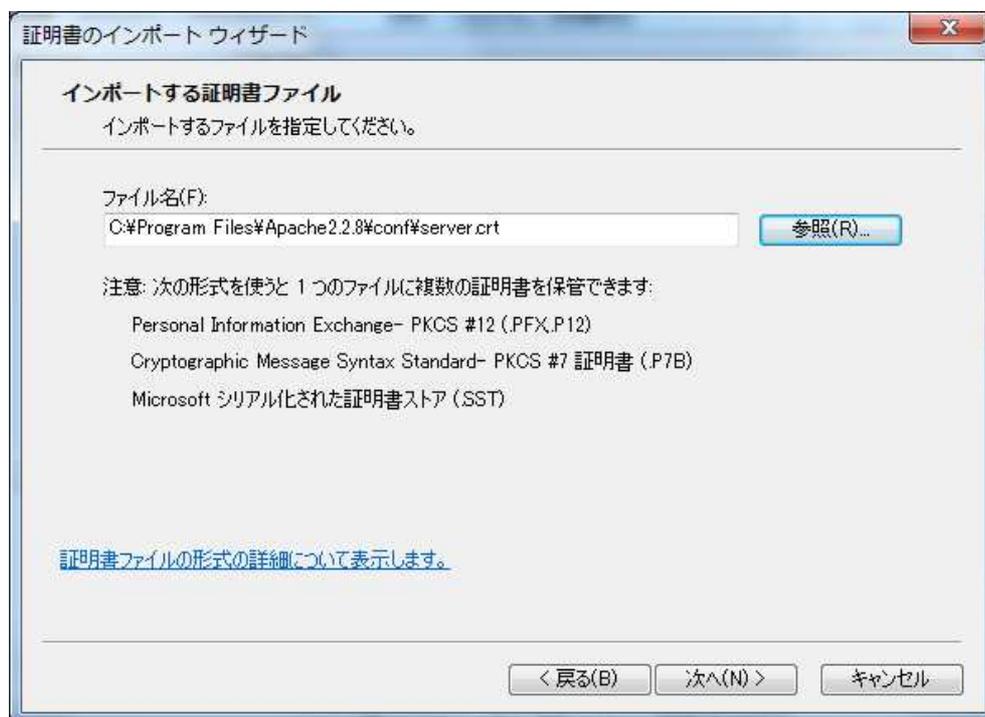
OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F



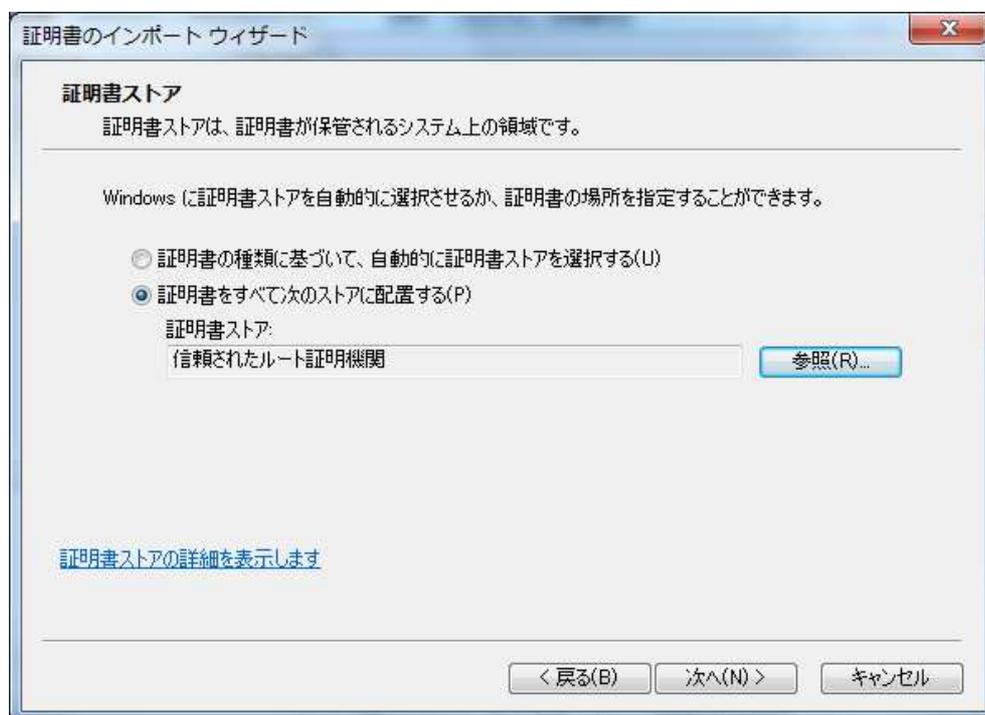
【PowerAct Pro をインストール時に Apache HTTP Server を選択された場合】



OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F



8. 「証明書を全て次のストアに配置する(P)」を選択し、参照ボタンを押して「信頼されたルート証明機関」を選択し「次へ(N)」をクリックしてください。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

9. 「証明書のインポートウィザードの完了」画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックしてください。

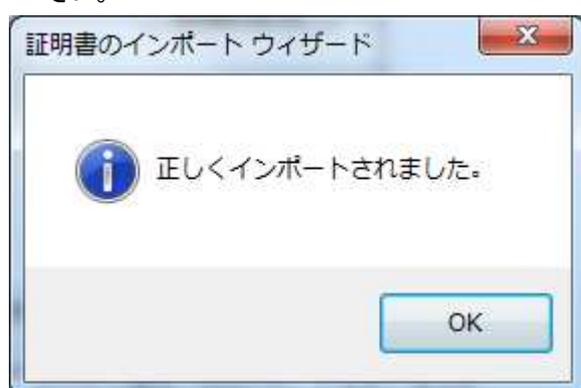


10. インストール後に、次のような画面が表示されますので、「はい(Y)」ボタンをクリックしてください。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F



11. 「証明書のインポートウィザード」で「正しくインポートされました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

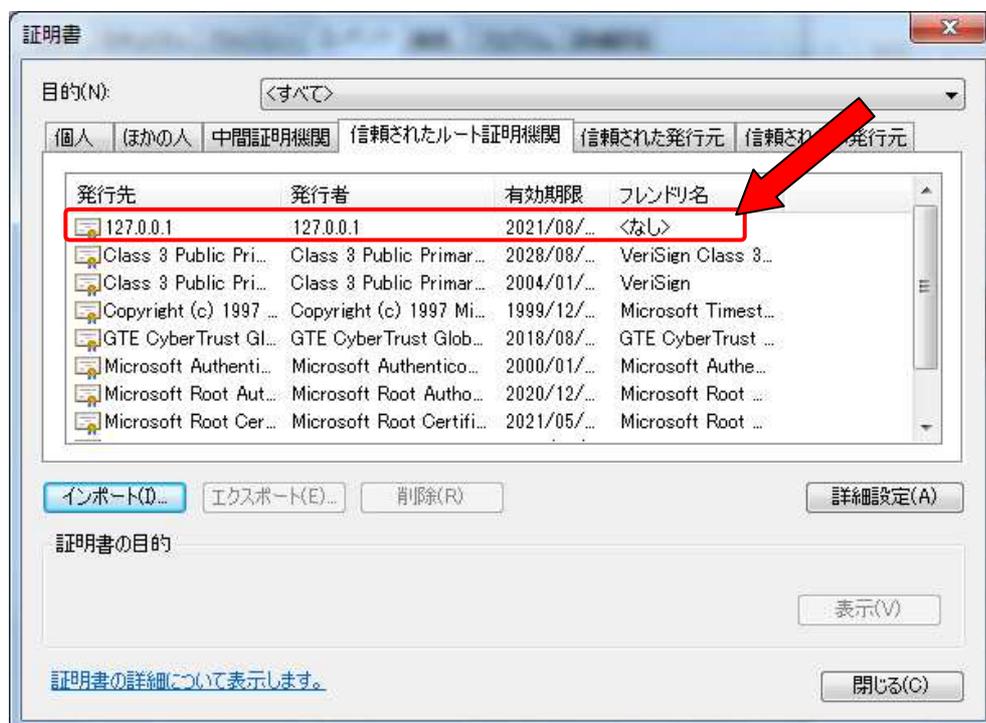


12. インストール完了後に「証明されたルート証明機関」の一覧に「127. 0. 0. 1」が登録されていることをご確認ください。

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F



以上で、証明書のインポートは完了です。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

9. 接続の確認

PowerAct Pro マスターエージェントをインストールしたコンピュータでは、Windows のタスクトレイに PowerAct Pro アイコン([電源プラグ]のアイコン)が自動的に作成され、接続されている UPS との通信が開始されます。



何らかの理由で UPS と通信ができない場合や UPS に異常が発生している場合は、PowerAct Pro アイコンが次のように表示されます。このような場合は、PowerAct Pro オンラインヘルプの「困ったときには」の説明に従ってご確認ください。マウスマウスカーソルをアイコンの上に移動すると、異常内容が表示されます。



異常が発生した場合は次の事項を確認してください。

- ①コンピュータと UPS を接続している付属ケーブルが外れていないか。
- ②UPS を接続しているコンピュータのシリアルポートまたは USB ポートが使用可能な状態か。
- ③他のソフトウェアが UPS を使用しているコンピュータのシリアルポートを使用していないか。
- ④UPS のバッテリーが接続されているか。
- ⑤UPS が故障していないか。

アイコン表示の上にマウスマウスカーソルを置くと、UPS とバッテリーの状態がバルーンの中に表示されます。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

<表示の見方について>

無停電電源装置(UPS)状態は左側に表示されます。 バッテリー状態は右側に表示されます。

アイコン表示	表示内容例
 9:20 PM (Master Agent)  9:20 PM (Slave Agent)	商用運転中 正常
 9:24 PM	バックアップ運転中 正常 バックアップ運転中 バッテリーロー
 9:22 PM	接続容量オーバー 正常 バイパス運転中 正常 ハードウェア異常 正常 商用運転中 バッテリー劣化 商用運転中 バッテリー未接続 通信エラー
 9:23 PM (Master Agent)  9:23 PM (Slave Agent)	<p>エージェント停止状態。 アイコン上で右クリックして“エージェント停止”を選択した場合にエージェント停止状態になります。</p> <p>※エージェント停止状態の場合、シャットダウン動作、スケジュール運転などは実行されませんのでご注意ください。</p>

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

10. PowerAct Pro モニタの表示

UPS の制御や設定は、PowerAct Pro モニタ画面から行います。PowerAct Pro モニタは次の手順で表示します。

■PowerAct Pro (Master Agent) がインストールされているコンピュータからアクセス方法

2種類のアクセス方法があります。

①-1. デスクトップ上のアイコンから

デスクトップ上に表示されている**電源プラグ(グリーン色)**アイコンをクリックしてください。

①-2. Web ブラウザから

Web ブラウザを起動します。

[アドレス]欄に次のように入力し、[Enter]キーを押します。(注意: アドレス末尾の「/」は必ず入力してください。)

【ネットワークポートを変更していない場合の入力フォーマット】

入力: `http://127.0.0.1/PowerAct_Pro/` または `http://localhost/PowerAct_Pro/`

【ネットワークポート(****)を変更している場合の入力フォーマット】

入力フォーマット: `http://127.0.0.1:****/PowerAct_Pro/` または `http://127.0.0.1:****/PowerAct_Pro/`

入力例: `http://127.0.0.1:8080 /PowerAct_Pro/` または `http:// localhost:8080 /PowerAct_Pro/`

■他のコンピュータからの PowerAct Pro (Master Agent) がインストールされているコンピュータへのアクセス方法

①Web ブラウザから

Web ブラウザを起動します。

[アドレス]欄に PowerAct Pro マスターエージェント(以下マスター)をインストールしたコンピュータの IP アドレスを次のように入力し、[Enter]キーを押します。(注意: アドレス末尾の「/」は必ず入力してください。)

【ネットワークポートを変更していない場合の入力フォーマット】

入力フォーマット: `http://***.***.***.***/PowerAct_Pro/`

入力例: `http://192.168.1.100/PowerAct_Pro/`

【ネットワークポートを変更している場合の入力フォーマット】

入力フォーマット: `http://***.***.***.***:****/PowerAct_Pro/`

入力例: `http://192.168.1.100:8080 /PowerAct_Pro/`

【備考】

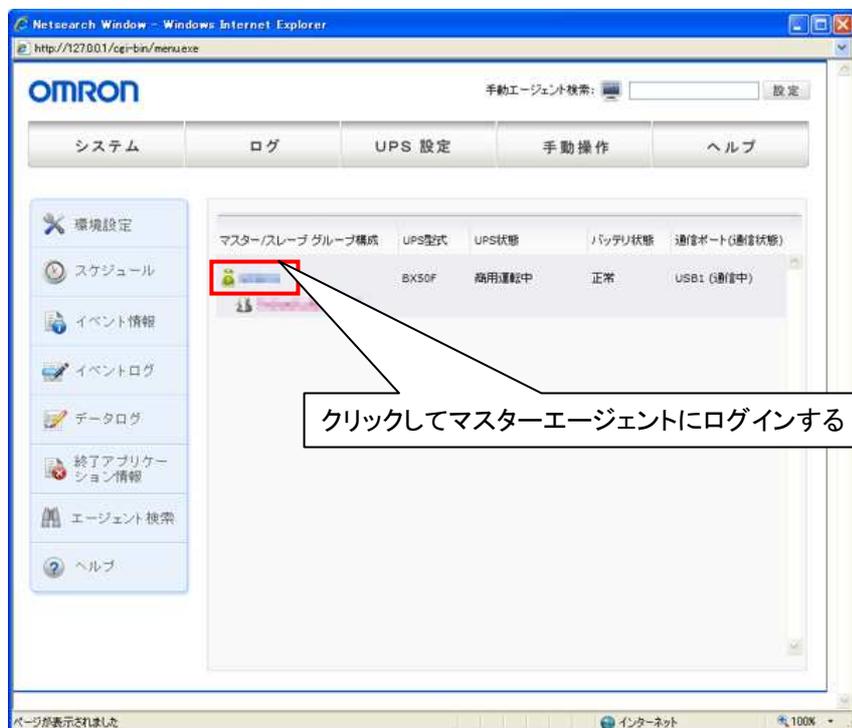
コンピュータの IP アドレス: `***.***.***.***`

ネットワークポートアドレス: `++++`

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

■ネットワーク上の PowerAct Pro エージェントの一覧が表示されます。

- ②PowerAct Pro モニタの[エージェント自動検索]画面で、マスターエージェントの名前をクリックします。
各エージェントを示すアイコンは次のとおりです。



アイコン	エージェント
	マスターエージェント
	スレーブエージェント

- ③[ログイン](Login)画面で、PowerAct Pro マスターエージェントのインストール中に設定したログイン ID(ユーザ名)とパスワードを入力し、[設定](OK)ボタンをクリックします。

ログインID:

パスワード:

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

④PowerAct Pro モニタのメイン画面が表示されます。

Power Act Pro Monitor EDENI (urlアクセス) - Windows Internet Explorer
 http://127.0.0.1/cgi-bin/information/firstpage.exe

OMRON 手動エージェント検索: 検索

システム ログ UPS 設定 手動操作 ヘルプ

日時: 2009年02月06日 17:08:56 次回のバッテリー交換: 2010-02-05
 前回のバッテリー使用開始日(交換日): 2009年02月05日

環境設定 スケジュール イベント情報 イベントログ データログ 終了アプリケーション情報 エージェント検索 ヘルプ

UPS型式: BX50F
 UPS状態: 扇用運転中
 出力コンセントA(制御あり): 出力中
 出力コンセントB(制御あり): 未対応
 出力コンセントC(制御あり): 未対応
 バッテリー状態: 正常
 増設バッテリー:

ブザー: ならず
 ファンクションテストステータス: する
 バッテリー自動テスト: する
 UPSコールドスタート機能: しない
 出力電圧/入力感度: 100V/標準感度
 UPS自動再起動: する

通信ポート: USB 1 設定
 テスト結果:

入力電圧:	40	60	80	100	120	140	98.9 V
出力電圧:	40	60	80	100	120	140	98.9 V
入力周波数:	40	45	50	55	60	65	50.0 Hz
出力周波数:	40	45	50	55	60	65	50.0 Hz
接続容量:	0	25	50	75	100	125	15 %
バッテリー容量:	0	25	50	75	100	125	100 %

次回のシャットダウン(日時): 既定バックアップ時間:
 次回のUPS起動(日時):

2009-02-06 14:08:22 通信確立 [UPS(型式: BX50F / 通信ポート: USB 1)] UPSと通信を開始しました。
 2009-02-06 14:08:19 エージェントを起動します。

http://127.0.0.1/cgi-bin/menu.exe インターネット 100%

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

11. 環境設定について

■ 環境設定の表示

マスターエージェントの基本的なシャットダウン設定については、インストール時に行いましたが、インストール完了後に設定内容確認、変更等を行いたい場合は、[環境設定]をクリックしてください。

The screenshot shows the PowerAct Pro Monitor EDENI web interface. The '環境設定' (Environment Settings) menu item is highlighted with a red box and a callout bubble containing the word 'クリック' (Click). The main content area displays various system and UPS status metrics, including input/output voltage, frequency, and battery levels, along with a log of events.

項目	値	単位
入力電圧	98.9	V
出力電圧	98.9	V
入力周波数	50.0	Hz
出力周波数	50.0	Hz
接続容量	15	%
バッテリー容量	100	%

Log entries:

- 2009-02-06 14:08:22 通信確立 [UPS(型名:BX50F / 通信ポート:USB 1)]UPSと通信を開始しました。
- 2009-02-06 14:08:19 エージェントを起動します。

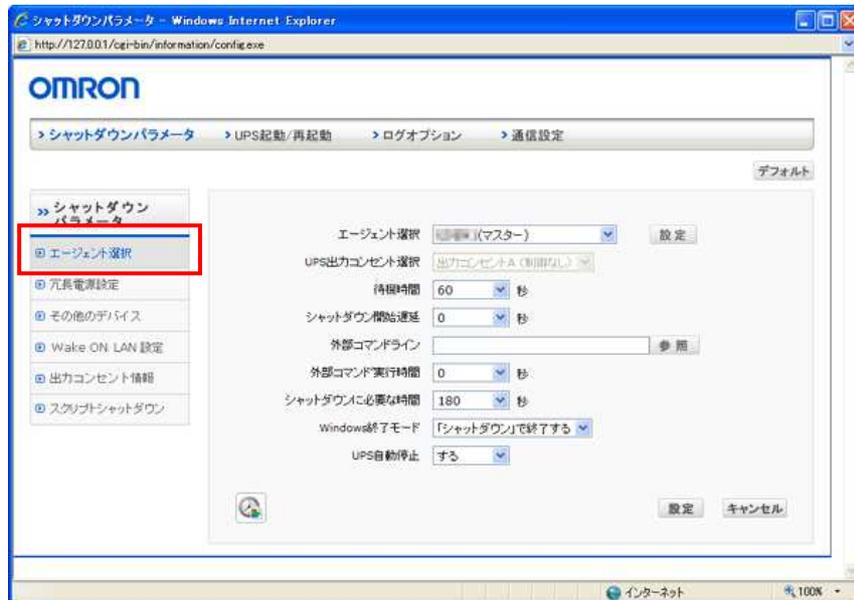
OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

【シャットダウンパラメータ】

■エージェント選択

マスターエージェント／スレーブエージェントのシャットダウン動作に関する設定を変更することができます。

※マスター／スレーブエージェントすべてのコンピュータのシャットダウン設定を変更できます。



項目	設定内容と方法
エージェント選択	エージェント(マスター／スレーブ)を選択します。
UPS 出力コンセント選択	接続している負荷をどの出力コンセントに接続するか選択します。出力コンセントは、制御できるコンセントとできないコンセントがあります。 ※出力コンセント制御をサポートしていない UPS をご使用の場合は、この機能は使用できません。
待機時間	電源異常が発生してからシャットダウン動作を開始するまでの待機時間を秒単位で設定します。 0～36000 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 60 秒。0～60 秒までは 10 秒間隔、60～36000 秒までは 60 秒間隔)
シャットダウン開始遅延	複数台のコンピュータがある場合、他のコンピュータとシャットダウン開始のタイミングを遅らせたい場合に設定します。 60 秒間隔で 0～600 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 0 秒)
外部コマンドライン	シャットダウン動作が開始されると同時に起動されるプログラムのコマンド名を入力します。例えば、バックアップデータを特定のディスクに保存するなどのプログラムが考えられます。
外部コマンド実行時間	外部コマンドの実行に必要な時間を設定します。60 秒間隔で 0～600 秒の範囲で設定できます。なお、この時間が経過するまでは、シャットダウン動作を一時停止します。(デフォルトは 0 秒) ※仮想 OS で使用される場合は、ゲスト OS のシャットダウンにかかる時間を設定してください。(設定範囲 60～600 秒)
シャットダウンに必要な時間	OS のシャットダウンに必要な時間を設定します。 60 秒間隔で 0～1800 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 180 秒)
Windows 終了モード	終了モードを「休止状態」と「シャットダウン」から選択します。 ※「休止状態」は OS 設定の[電源管理オプション]で「休止状態をサポートする」に設定されている場合のみ選択可能です。

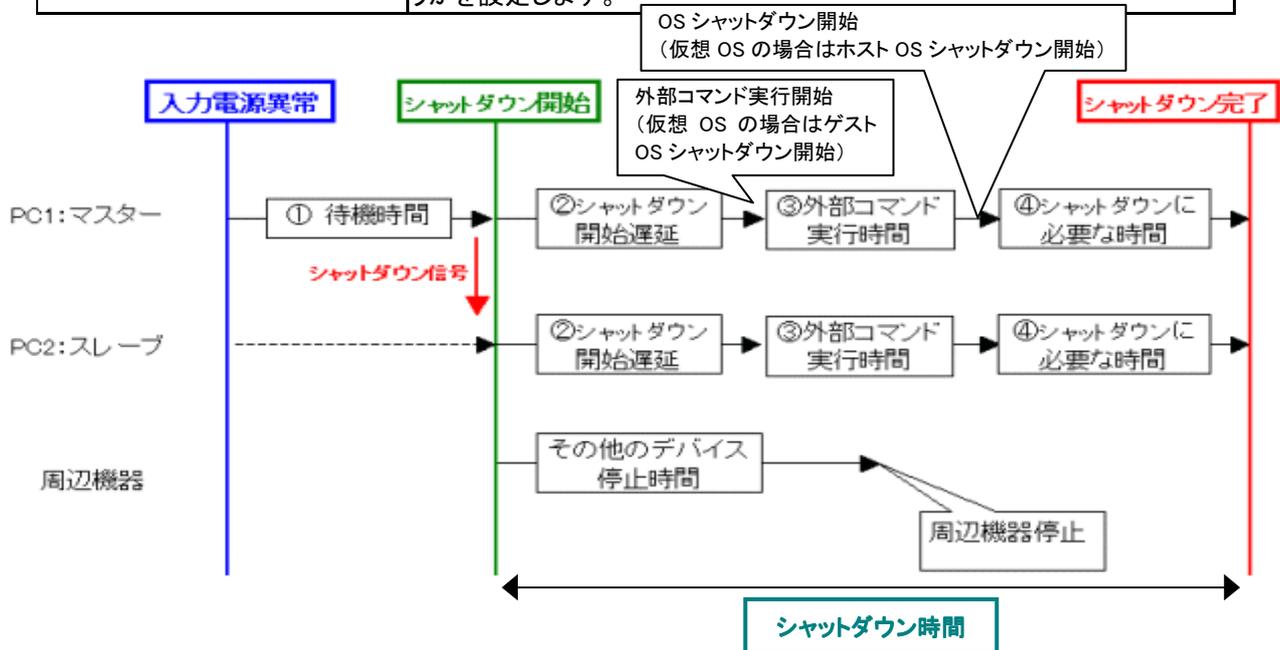
OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

UPS 自動停止

コンピュータのシャットダウンが完了した後、UPSを自動的に停止するかどうかを設定します。

**■ その他のデバイス**

その他のデバイスに関するシャットダウン設定を変更することができます。



項目	設定内容と方法
その他のデバイス停止時間	各コンセントの[その他のデバイス停止時間]を 30～600 秒の範囲で入力欄右側の矢印をクリックすると表示されるリストから選択して設定します。 ※出力コンセント制御機能のない UPS を接続している場合はコンセント B

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

	および C の設定はできません。
入力電源異常時の最大バックアップ時間	UPS の入力電源に異常が発生した時、最大で何分間バックアップ運転を行うか設定します。

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

■ 出力コンセント情報

[出力コンセント情報]をクリックすると、マスターエージェント・スレーブエージェント全てのシャットダウン設定を一覧で確認することができます。

Outlet Information - Windows Internet Explorer
http://127.0.0.1/cgi-bin/information/picture.exe

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

シャットダウンパラメータ

- エージェント選択
- 冗長電源設定
- その他のデバイス
- Wake ON LAN 設定
- 出力コンセント情報**
- スクリプトシャットダウン

注意
出力コンセントAの停止時間が、出力コンセントBまたはCより短い場合は、出力コンセントAは、出力コンセントBまたはCの停止時間経過後に停止します。

入力電源異常 シャットダウン開始

待機時間 60 秒

マスター (マスター)

シャットダウン開始遅延 0 秒

外部コマンド実行時間 0 秒

シャットダウンに必要な時間 180 秒

スレーブ (スレーブ)

シャットダウン開始遅延 0 秒

外部コマンド実行時間 0 秒

シャットダウンに必要な時間 180 秒

その他のデバイス

出力コンセントA (制御なし) 出力コンセントA (制御なし)を停止する時間: 180 秒

ページが表示されました インターネット 100%

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

■スクリプトシャットダウン

UPS に接続されている機器に対し LAN 経由でリモートログイン (Telnet/SSH V1/SSH V2) し、スクリプトコマンドを送信して、サーバ等をシャットダウンさせます。(サーバにシャットダウンソフトのインストールは必要ありません)

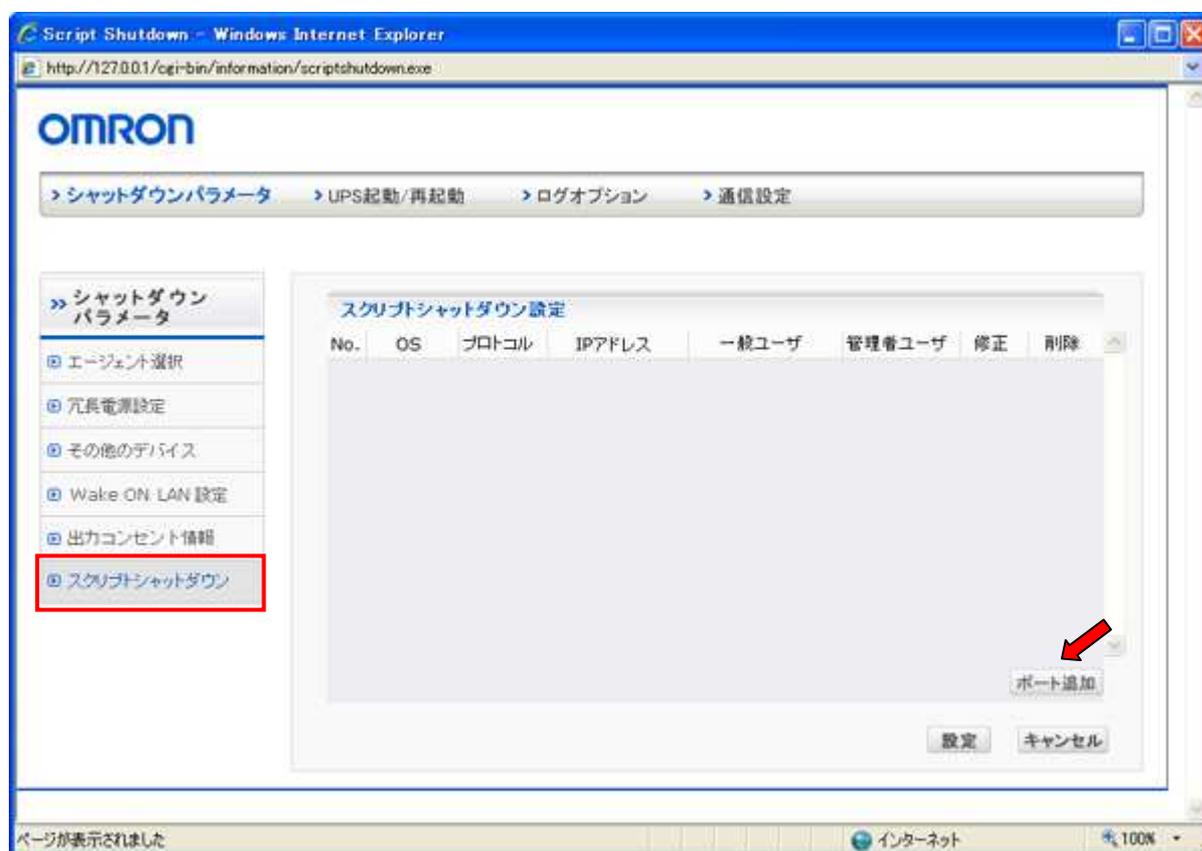
※本機能を利用するには、サーバ側で「Telnet」もしくは「SSH」のサービスを有効にしておく必要があります。

※スクリプトシャットダウンでシャットダウンできない機器もありますので、必ず動作確認を行ってください。

【スクリプトコマンド例】

	Telnet	SSH V1/V2
Windows	shutdown -s -f	標準サポートなし
Linux (RHEL5)	/sbin/halt	/sbin/halt
Sun OS	/usr/sbin/halt	/usr/sbin/halt
Mac	/sbin/halt	/sbin/halt

スクリプトシャットダウン設定を新規に登録される場合は[ポート追加]を押してください。



OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

スクリプトシャットダウンに必要な各設定を入力し、[設定]を押してください。



項目	設定内容と方法
OS	スクリプトシャットダウンを実行したい機器の OS を選択します。
プロトコル	リモートログインに使用するプロトコルを選択します。 対応プロトコル: Telnet、SSH V1、SSH V2
IP アドレス	スクリプトシャットダウンを実行したい機器の IP アドレスを入力します。
接続機器名	スクリプトシャットダウンを実行したい機器の名称を設定します。
一般ユーザ ID	スクリプトシャットダウンを実行したい機器のログインに有効な一般ユーザ名を指定します。管理者権限(root 権限)のユーザ ID を設定してください。もし管理者権限でリモートログインできない場合は[一般ユーザ ID]の欄に一般ユーザ権限のユーザ ID を設定し、合わせて次項の[管理者ユーザ ID]に管理者権限のユーザ ID を設定してください。
一般ユーザパスワード	一般ユーザ ID のパスワードを指定します。
管理者ユーザ ID	上記の一般ユーザ ID が管理者権限でない場合、管理者権限のあるユーザ ID を指定します。一般ユーザ ID が管理者権限である場合は設定不要です。
管理者ユーザパスワード	[管理者ユーザ ID]設定時のみパスワードを指定します。
リトライ回数	ログインに失敗した際の再試行の回数を選択します。
タイムアウト(秒)	ログインの際のタイムアウト時間を設定します。30 秒以上を目安に設定してください。短いとログインに失敗することがあります。
コマンドライン	マスターエージェントがシャットダウン動作を開始した際に実行するコマンドラインを指定します。コマンドの詳細は前頁の表を参照ください。

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

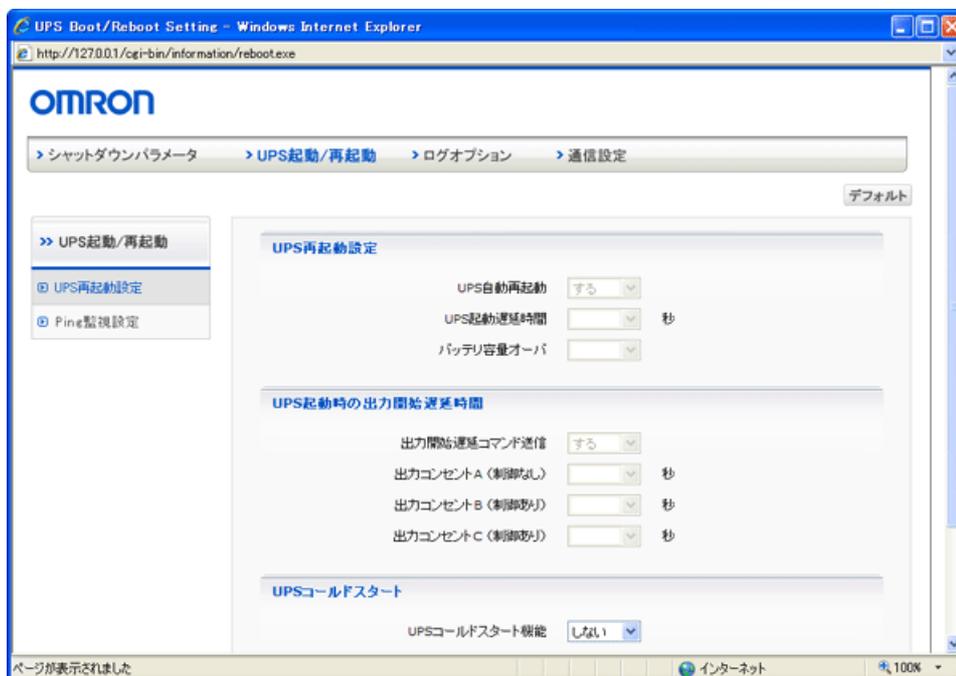
スクリプトシミュレーション	[テスト]ボタンをクリックすると、設定した内容でスクリプトシャットダウンのテストを実行することができます。
---------------	---

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

【UPS起動／再起動】

■UPS再起動設定

UPSの再起動に関する設定を行えます。



項目	設定内容と方法
UPS 自動再起動	電源異常が回復した後で、UPS を再起動するかどうかを設定します。
UPS 起動遅延時間	電源異常が回復した後で、UPS を再起動するまでの遅延時間を秒単位で設定します。
バッテリー容量オーバ	設定されたバッテリー容量に充電されるまで、UPS を起動させたくない場合に設定します。
UPS 起動時の出力開始遅延時間	UPS が起動するときに、出力コンセント別に出力遅延時間を秒単位で設定します。ただし、出力コンセント A については 0 秒固定です。 ※出力コンセント制御機能のない UPS を接続している場合は選択できません。
UPS コールドスタート機能	UPS コールドスタート機能を有効にするか設定します。コールドスタート有効に設定すると、UPS は電源入力がない環境でも起動させることができます。入力欄右側の矢印をクリックすると表示されるリストから選択して設定します。

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

【通信設定】

■通信設定

UPSの通信に関する設定を行えます。



項目	設定内容と方法
ポート追加	クリックすると表示される[通信ポートの追加設定]画面で通信ポートを追加できます。追加した通信ポートは通信ポート一覧に表示されます。
自動選択	クリックすると、コンピュータのすべての通信ポートが検索され、見つかったUPSが通信ポート一覧に表示されます。
修正	修正欄のマークをクリックするとその欄の通信ポートを変更できます。
削除	削除欄のマークをクリックするとその欄の通信ポートが削除されます。
ネットワークポート設定	<ul style="list-style-type: none"> ご使用のネットワークの状況に合わせて、HTTP、HTTPS、SMTP、SNMP、Syslog ポートの各ポート番号を設定します。通常は、デフォルト値を使用します。もし他のサービスとポート番号が重複している場合は、別の番号を設定してください。 [リモートアクセス禁止]を選択するとリモート PC からの操作を禁止することができます。 [SNMP]は SNMP 管理を行う場合に“する”に設定します。この場合、SNMP マネージャに対して、UPS 管理情報の送信を行います。 [ブロードキャスト]は通常は“する”に設定してください。“しない”に設定すると、PowerActPro はスレーブエージェントの連携シャットダウンを行うことができません。 <p>※ポートアドレスを変更すると、PC 全体の設定が書き換わるため、他のアプリケーション等が正常に動作しなくなる恐れがあります。変更される場合は十分にご注意ください。</p>
デフォルト	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

■ イベントによるコマンドの自動実行機能

PowerAct Pro が対応しているイベント(以下、イベント)と、ユーザが実行したいコマンド(実行ファイル)の関係についてあらかじめ設定しておくことで、該当イベントが発生した場合、設定しているコマンドが自動的に実行される機能です。

PowerAct Pro をインストールしたフォルダ(デフォルトでは C:\Program Files\PowerAct Pro(Master Agent))にある「ExternalSetting.exe」(以下、本ツール)を実行して、設定を行います。

本ツールにより、イベントと実行するコマンドのパスを最大 10 件まで登録できます。また、設定した内容は「ExternalSetting.ini」ファイルに出力されます。本ツール起動時に、同一フォルダ内に存在する「ExternalSetting.ini」ファイルの内容を読み込みますので、過去に設定した内容を修正することも可能です。

「ExternalSetting.exe」を起動すると以下の画面が表示されます。各コントロールの場所と名称は以下の通りです。



① レベルコンボボックス(合計 10 個)

イベントは 3 つのレベルに分類されていますので、どれか 1 つ選択します。

② イベント内容コンボボックス(合計 10 個)

①で選択したレベルに分類されているイベントが表示されるので、設定したいイベントを 1 つ選択します。

③ 実行コマンド入力テキストボックス(合計 10 個)

②で設定したイベントと関連付けする実行コマンドのパスを入力します。

④の実行コマンド参照ボタンをクリックして選択するか、直接パスを入力してください。

④ 実行コマンド参照ボタン(合計 10 個)

③の実行コマンドのパスを入力する際にクリックします。

⑤ OK ボタン

設定が終わったらクリックしてください。設定内容を保存して本ツールを終了します。

⑥ キャンセルボタン

設定内容を保存せずに本ツールを終了します。

⑦ 適用ボタン

設定内容を保存します。本ツールは終了しません。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

本ツールで使用可能なイベントコードとイベント内容は以下の通りです。

「重大」レベル	
イベントコード	イベント内容
0x800	バッテリーロー
0x801	シャットダウン開始(入力電源異常)
0x802	スケジュールシャットダウン開始(指定日)
0x803	スケジュールシャットダウン開始(毎月)
0x804	スケジュールシャットダウン開始(毎週)
0x805	即時シャットダウン開始
0x806	外部コマンド実行を開始します
0x807	アプリケーション終了を開始します
0x808	OS シャットダウンを開始します
0x809	ハードウェア異常
0x80A	出力電圧異常
0x80B	DC バス電圧異常
0x80C	オーバーロード異常
0x80D	出力短絡異常
0x80E	バッテリー過充電異常
0x80F	バッテリー充電不足異常
0x810	温度異常
0x811	ファン異常
0x812	トランス異常
0x813	バッテリー劣化
0x814	自己診断結果:異常あり(バッテリー劣化)
0x815	自己診断結果:異常あり(ハードウェア異常)
0x816	バッテリー自動テスト結果:異常あり(バッテリー劣化)
0x817	バッテリー自動テスト結果:異常あり(ハードウェア異常)
「警告」レベル	
イベントコード	イベント内容
0x400	入力電源異常
0x401	スケジュールシャットダウン開始警告(指定日)
0x402	スケジュールシャットダウン開始警告(毎月)
0x403	スケジュールシャットダウン開始警告(毎週)

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

0x404	シャットダウン一時停止
0x405	接続容量オーバー
0x406	出力電圧調整
0x407	バッテリー未接続
0x408	バイパス運転中
0x409	通信エラー

「情報」レベル

イベントコード	イベント内容
0x000	入力電源回復
0x001	通信確立
0x002	エージェント起動
0x003	エージェント停止
0x004	自己診断結果:異常なし
0x005	バッテリー自動テスト結果:異常なし
0x006	「UPS 出力コンセント選択」を変更しました
0x007	「待機時間」を変更しました
0x008	「シャットダウン開始遅延」を変更しました
0x009	「シャットダウンに必要な時間」を変更しました
0x00A	「コンセント出力停止までの時間」を変更しました
0x00B	「UPS 起動時の出力コンセント遅延時間」を変更しました
0x00C	「OS の終了モード」を変更しました
0x00D	「UPS の自動再起動」を変更しました
0x00E	「初回警告」を変更しました
0x00F	「警告間隔」を変更しました
0x010	「スケジュール運転開始警告」を変更しました
0x011	「最大イベントログ記録時間」を変更しました
0x012	「最大データログ記録時間」を変更しました
0x013	「記録間隔(商用運転中)」を変更しました
0x014	「記録間隔(バックアップ運転中)」を変更しました
0x015	「通信ポート」を追加しました
0x016	「通信ポート」を削除しました
0x017	「ネットワークポートアドレス」に関する設定を変更しました
0x018	「SMTPメール」を変更しました
0x019	「スケジュール運転(指定日)」を追加しました

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

0x01A	「スケジュール運転(毎月)」を追加しました
0x01B	「スケジュール運転(毎週)」を追加しました
0x01C	「スケジュール運転(指定日)」を変更しました
0x01D	「スケジュール運転(毎月)」を変更しました
0x01E	「スケジュール運転(毎週)」を変更しました
0x01F	「スケジュール運転(指定日)」を削除しました
0x020	「スケジュール運転(毎月)」を削除しました
0x021	「スケジュール運転(毎週)」を削除しました
0x022	「外部コマンド実行時間」を変更しました
0x023	「外部コマンド」を追加しました
0x024	「外部コマンド」を削除しました
0x025	「ユーザへの通知」を変更しました
0x026	「バッテリー使用開始日(交換日)」を更新しました
0x027	「シャットダウンパラメータ」をデフォルト値にしました
0x028	「UPS 起動/再起動」をデフォルト値にしました
0x029	「ログ」をデフォルト値にしました
0x02A	「通信設定」をデフォルト値にしました
0x02B	「イベント情報」を変更しました
0x02C	「通知先」を変更しました
0x02E	「ブザーテスト」を実行しました
0x02F	「自己診断テスト」を実行しました
0x030	「ブザー」設定を変更しました
0x031	「バッテリー自動テスト」設定を変更しました
0x032	「バックアップ時間テスト」を開始しました
0x033	「バックアップ時間テスト」を終了しました
0x034	「バックアップ時間テスト」をキャンセルしました
0x035	「出力コンセント B(制御あり)」の出力を開始しました
0x036	「出力コンセント B(制御あり)」の出力を停止しました
0x037	「出力コンセント C(制御あり)」の出力を開始しました
0x038	「出力コンセント C(制御あり)」の出力を停止しました
0x039	「出力電圧/入力感度」を変更しました
0x03A	「バッテリーユニット」を増設しました
0x03B	シャットダウンを再開します
0x065	「UPS 自動停止」を変更しました
0x066	「ページ更新設定」を変更しました

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

0x067	「冗長電源設定」を変更しました
0x068	「Syslog 機能」を有効にしました
0x069	「Syslog 機能」を無効にしました
0x06A	「Syslog 設定」を変更しました
0x06B	「Priority 設定」を変更しました
0x06C	「Syslog 言語設定」を変更しました
0x06D	「送信設定」を変更しました
0x06E	「送信タイミング」を変更しました
0x06F	「Wake On LAN 送信先」を追加しました
0x070	「Wake On LAN 送信先」を修正しました
0x071	「Wake On LAN 送信先」を削除しました
0x072	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント A を出力停止します
0x073	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント B を出力停止します
0x074	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント C を出力停止します
0x075	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント A を出力停止／出力開始します
0x076	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント B を出力停止／出力開始します
0x077	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント C を出力停止／出力開始します
0x078	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント A の監視を再開します
0x079	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント B の監視を再開します
0x07A	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント C の監視を再開します
0x07B	出力コンセント A に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません
0x07C	出力コンセント B に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません
0x07D	出力コンセント C に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません
0x07E	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を停止します
0x07F	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を再起動します
0x080	リモートコンピュータは Ping 監視のスクリプトでシャットダウンしました
0x081	SNMP サービス開始しました
0x082	SNMP サービス停止しました
0x083	SNMP V1 開始しました
0x084	SNMP V1 停止しました
0x085	SNMP V3 開始しました
0x086	SNMP V3 停止しました
0x087	SNMP V1 アクセス権限追加しました
0x088	SNMP V1 アクセス権限削除しました
0x089	SNMP V1 アクセス権限変更しました

OMRON	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

0x08A	SNMP V3 アクセス権限追加しました
0x8B	SNMP V3 アクセス権限削除しました
0x8C	SNMP V3 アクセス権限変更しました
0x8D	SNMP V1 TRAP 追加しました
0x8E	SNMP V1 TRAP 削除しました
0x8F	SNMP V1 TRAP 変更しました
0x90	SNMP V3 TRAP 追加しました
0x91	SNMP V3 TRAP 削除しました
0x92	SNMP V3 TRAP 変更しました
0x93	スクリプトシャットダウン追加しました
0x94	スクリプトシャットダウン削除しました
0x95	スクリプトシャットダウン変更しました
0x96	「ログオフ時間」を変更しました
0x97	最大バックアップ時間を変更しました
0x98	UPS 起動遅延時間を変更しました
0x99	UPS コールドスタート設定を変更しました
0x9A	出力遅延コマンド送信を変更しました
0x9B	UPS 再起動条件を変更しました
0x9C	通知遅延時間設定を変更しました
0x9D	Pop Before SMTP を変更しました
0x9E	管理者設定を変更しました
0x9F	スクリプトシャットダウンを開始しました
0xA0	VMware 終了処理を開始しました
0xA1	ブロードキャストを変更しました
0xA2	Ping 設定を変更しました
0xCF	「仮想サーバー終了モード」を変更しました
0xD0	「ゲスト OS 終了モード」を変更しました

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

12. スケジュール運転の設定**■機能説明**

日時を指定し、「UPS の停止／起動」や「UPS の自己診断テスト」などを行うことができます。日時の指定以外に、「毎週」「毎月」という指定もできます。これらを指定し UPS を使用することをスケジュール運転といいます。スケジュール運転を一覧表示し、個別に設定変更、削除を行うことができます。

※スケジュール運転時に電源異常などが発生した場合は、現在のスケジュール運転はキャンセルされ、次回のスケジュール運転の設定に従って動作します。

※スケジュール運転を設定した時刻に、PowerAct Pro のエージェントが停止状態になっていた場合、スケジュール運転は実施されません。スケジュール運転を設定した際は、エージェント停止の操作はしないでください。(エージェントが停止状態かどうかの確認方法については“9. 接続の確認”をご参照ください)

■スケジュール運転の一覧表示

スケジュール運転の状況を一覧表示できます。[スケジュール運転]をクリックしてください。

The screenshot shows the PowerAct Pro Monitor web interface. The 'スケジュール' (Schedule) menu item is highlighted with a red box and a callout box labeled 'クリック' (Click). The interface displays the following information:

- System Information:**
 - 日時: 2009年02月06日 17:08:55
 - 交換: 2010-02-05
 - 前回のバッテリー使用率(交換日):
- Navigation Menu:** システム, ログ, UPS 設定, 手動操作, ヘルプ
- Left Sidebar:** 環境設定, **スケジュール** (highlighted), イベント情報, イベントログ, データログ, 終了アプリケーション情報, エージェント検索, ヘルプ
- UPS Status:**
 - UPS型式: BX50F
 - UPS状態: 商用運転中
 - 出力コンセントA(制御なし): 出力中
 - 出力コンセントB(制御あり): 未対応
 - 出力コンセントC(制御あり): 未対応
 - バッテリー状態: 正常
 - 増設バッテリー:
- Settings:**
 - ブザー: ならず
 - ファンクションテストステータス: する
 - バッテリー自動テスト: する
 - UPSコールドスタート機能: しない
 - 出力電圧/入力感度: 100V/標準感度
 - UPS自動再起動: する
 - 通信ポート: USB 1
 - テスト結果:
- Real-time Monitoring:**
 - 入力電圧: 98.9 V
 - 出力電圧: 98.9 V
 - 入力周波数: 50.0 Hz
 - 出力周波数: 50.0 Hz
 - 接続容量: 15 %
 - バッテリー容量: 100 %
- Log:**
 - 次回のシャットダウン(日時):
 - 既定バックアップ時間:
 - 2009-02-06 14:08:22 通信確立 [UPS(型式: BX50F / 通信ポート: USB 1)] UPSとの通信を開始しました。
 - 2009-02-06 14:08:19 エージェントを起動します。

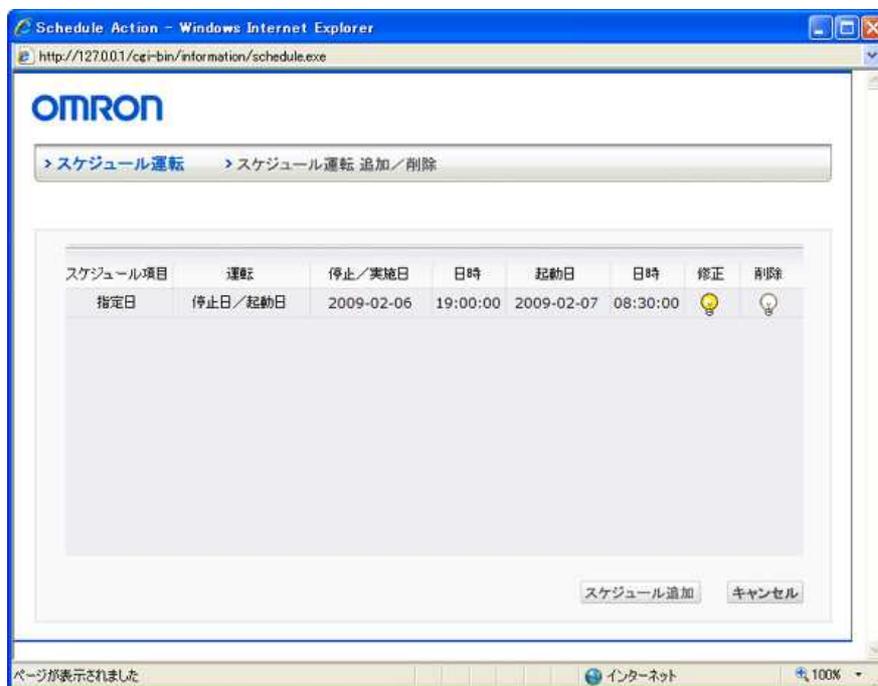


PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

マスターエージェント for Windows

Rev F

現在登録されている[スケジュール運転]の一覧が表示されます。



項目	内容
スケジュール運転追加/削除	[スケジュール運転 追加/削除]画面が表示され、スケジュール運転を追加できます。
スケジュール項目	設定されているスケジュール運転の運転間隔が表示されます。「指定日」、「毎週」、「毎月」が表示されます。
運転	スケジュール運転の運転内容が表示されます。「停止日/起動日」(UPS の停止/起動)、「バックアップ時間テスト」、「自己診断テスト」のいずれかが表示されます。
停止/実施日	運転項目の内容を実行する日付が表示されます。
時間	停止/実施の時刻が表示されます。
起動/終了日	スケジュール運転の起動/終了が行われた日付が表示されます。
時間	スケジュール運転の起動/終了が行われた時刻が表示されます。
修正	 ボタンをクリックすると、スケジュール運転の設定を変更できます。
削除	 ボタンをクリックすると、設定されているスケジュール運転を削除できます。 削除する場合は、スケジュール内容を削除していいか再確認のうえ削除を行ってください。
スケジュール追加	スケジュール運転を新規追加できます。
キャンセル	設定したスケジュール運転を登録しません。[スケジュール運転]画面を終了します。

PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド

マスターエージェント for Windows

Rev F

■スケジュール運転の設定方法

ここでは、スケジュール運転の新規追加、修正、削除の設定手順について説明します。



[新規にスケジュール運転を登録する場合の設定手順]

1. [スケジュール運転]画面の[スケジュール追加]ボタンをクリックします。
2. [スケジュール運転 追加/削除]画面が表示されます。
スケジュール運転項目を設定してください。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

項目	意味
スケジュール運転	スケジュール運転の一覧が表示されている[スケジュール運転]画面が表示されません。
スケジュール運転項目	<p>運転項目欄をクリックすると、プルダウンメニューに「停止日/起動日」、「バックアップ時間テスト」、「自己診断テスト」が表示されるのでクリックして選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停止日/起動日: システムを停止させたり起動させたりします。 ・バックアップ時間テスト: 推定バックアップ時間を補正するためのテストです。 ・自己診断テスト: 自己診断テストを実施します。 <p>また、指定日欄をクリックすると、プルダウンメニューに「指定日」、「毎週」、「毎月」が表示されるのでクリックして選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定日: 指定日にスケジュール運転を実施します。 ・毎週: 毎週 設定されている曜日にスケジュール運転を実施します。 ・毎月: 毎月 設定されている日にスケジュール運転を実施します。
設定	設定した内容でスケジュール運転を登録します。
キャンセル	設定したスケジュール運転を登録しません。[スケジュール運転 追加/削除]画面を終了します。

3. [設定]ボタンをクリックします。

※[設定](OK)ボタンをクリックせずに、[スケジュール運転]画面を終了すると、設定したスケジュール運転は、登録されません。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

13. シャットダウン動作の流れ

PowerAct Pro は、次のイベントが発生するとシャットダウン動作を開始します。

【UPS からのシャットダウン情報】

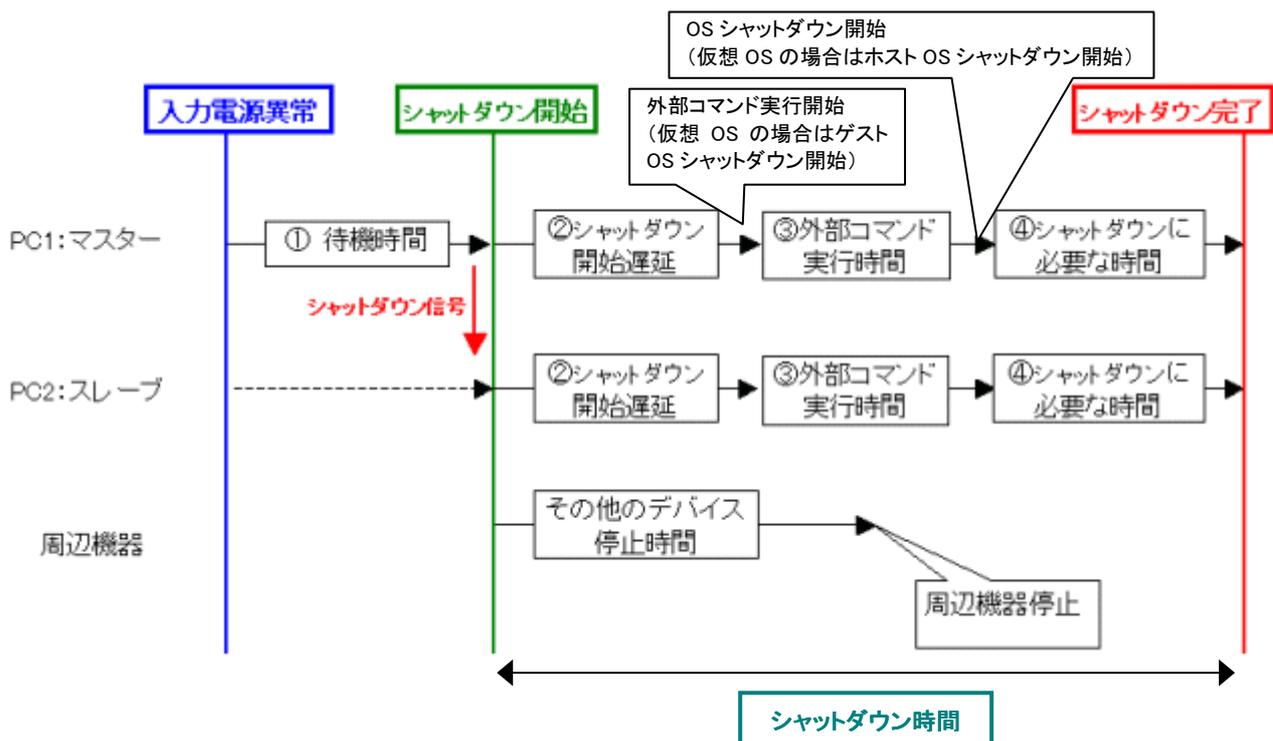
- 1) 「入力電源異常」の情報を UPS から受け取ったとき
- 2) 「バッテリーロー」の情報を UPS から受け取ったとき

【ユーザ設定によるシャットダウン情報】

- 1) スケジュール設定によるシャットダウンを実行したとき
- 2) 即時シャットダウンを実行したとき

これらのイベントが発生すると、本ソフトウェアは OS を自動終了させ、UPS を自動停止します。

シャットダウン動作は次の図の順序で進行します。PowerAct Pro マスターエージェント(以下マスター)がインストールされた PC1、PowerAct Pro スレーブエージェント(以下スレーブ)がインストールされた PC2、およびテープドライブなどの周辺機器が UPS に接続されている場合のシャットダウンの流れについて説明します。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

入力電源異常	入力電源異常(停電など)が発生しました。UPS から接続している機器へ電力供給を開始します。
シャットダウン開始	待機時間を経過しても入力電源異常(停電など)が回復しなかったため、シャットダウンを開始します。マスターのシャットダウン動作にあわせて、マスターはスレーブに対してネットワーク経由でシャットダウン信号を送信します。スレーブは、設定されている時間設定(以下の(2)~(4))に従ってシャットダウン動作を開始します。 ※「シャットダウン開始」後、入力電源が回復すると UPS はバックアップ運転から商用運転に戻りますが、OS のシャットダウンと UPS のシャットダウンは行いません。UPS が停止するまでは、コンピュータの電源を入れないようにしてください。
シャットダウン完了	設定した時間が経過したので、UPS を停止しました。
出力コンセント(A/B/C)	各マスター、スレーブ、周辺機器が接続されているUPSの出力コンセント(A/B/C)を設定します。 ※出力コンセント制御機能を搭載している機種のみ出力コンセントA/B/Cの設定可能です。機能を搭載していない機種の時は出力コンセントAのみ設定可能です。
①待機時間	入力電源異常(停電など)を検出しても、設定されている時間を経過しなければ、シャットダウンを開始いたしません。 待機時間中に UPS のバッテリーが「バッテリーロー」になった場合は、待機時間が経過していなくても直ちにシャットダウン開始を実行します。 待機時間中に、スケジュール運転開始時間になった場合は、待機時間が経過していなくても、直ちにシャットダウン開始を実行します。 ※この時間を長く設定しすぎると、UPS の内部バッテリーが消耗し、バックアップ能力がなくなります。この場合、システムを正常にシャットダウンする前に UPS が停止してしまう場合があります。
②シャットダウン開始遅延	シャットダウン開始後、さらにシャットダウン開始を遅延させたい場合に、遅延時間を設定してください。例えば、シャットダウン開始してから1分後にシャットダウンを開始したい場合は、この遅延時間を 60 秒に設定してください。
③外部コマンド実行時間	外部コマンドを設定した時間だけ実行することができます。設定した時間が経過するまでは、次の動作(アプリケーション終了や OS シャットダウン処理)を行いません。 ※仮想 OS で使用される場合は、ゲスト OS のシャットダウンにかかる時間を設定してください。(設定範囲 60~600 秒)
④シャットダウンに必要な時間	アプリケーションソフトと OS のシャットダウンにかかる時間を設定してください。 ※システムを正常にシャットダウンする前に UPS が停止するような場合は、この時間を現在設定している時間より長く設定してください。
⑤その他のデバイス停止までの時間	周辺機器(例えば、ルータ、モデム、テープストレージなど)の電源を切る時間を設定することができます。
シャットダウン時間	②~⑤で設定された時間に従って、各コンセント毎にシャットダウン時間が定義されます。もし同一出力コンセントで設定が重複した場合は、シャットダウン時間の長い設定が優先されます。 【具体例】下記の条件で設定されている場合 ・マスターPC…出力コンセント A/シャットダウン時間120秒 ・スレーブ PC…出力コンセント A/シャットダウン時間180秒 ・周辺機器…出力コンセント A/シャットダウン時間60秒 →出力コンセント A はシャットダウン時間180秒で動作する

OMRON**PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド**

マスターエージェント for Windows

Rev F

14. シャットダウン動作の確認

ここでは次の手順でシャットダウン動作が実行されることを確認します。

※複数台のコンピュータをシャットダウンさせる場合は、下記の確認に入る前に、PowerAct Pro スレーブエージェント用のコンピュータに対してインストール作業を完了させておいてください。スレーブエージェントのインストール方法については別紙のインストールガイドを参照ください。

■シャットダウン動作の確認

- [PowerAct Pro モニタ]画面を表示した状態で、UPS の電源入力プラグをACコンセントから抜きます。
- UPS がバックアップ状態になり、[PowerAct Pro モニタ]画面の「UPS 状態」が[商用運転中]から[バックアップ中]に変化し、入力電圧 0V、入力周波数が 0Hz になります。
- 電源入力プラグを抜いてから約 30 秒後に[入力電源異常 システムは 30 秒以内にシャットダウンを開始します]とメッセージが表示されます。
- 上記メッセージが表示されてから約 30 秒後にシステムシャットダウンが開始され、システムが自動終了します。
- システムシャットダウンが開始されてから約 3 分後に UPS が自動的に切れます。コンピュータに電力が供給されなくなります。
シャットダウンに必要な時間調整は、[PowerAct Pro モニタ]の[システム](System)－[環境設定](Configuration)－[シャットダウンパラメータ](Shutdown Parameter)を選択して[シャットダウンに必要な時間](Shutdown Need Time)を設定してください。
- UPS が自動的に切れたことを確認してから、UPS の電源入力プラグをAC100Vのコンセントに接続します。自動的にUPS が起動しコンピュータへ電力が供給されます。このときコンピュータの電源が自動的に入ります。なお、コンピュータの機種によってはコンピュータの電源が入らない場合があります。この場合は、コンピュータの電源スイッチを手動で入れて、コンピュータの電源を入れてください。

以上でシステムシャットダウン動作確認は終了です。

[注意] 上記操作手順の動作時間は、設定がデフォルト値の場合です。



	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

【参考情報】

・コンピュータの電源が自動的に起動しない場合は、コンピュータの BIOS 設定で、「入力電源回復後のシステム起動」の設定項目(例: Restore On AC/Power Loss)を選択し、「入力電源回復後のシステム起動する」(例: Power On)に設定変更してください。なお、ご使用されるコンピュータによって、BIOS の設定方法や表示される項目が異なります。ご使用されるコンピュータの取扱説明書をごらんいただくか、コンピュータのサポートセンタへお問い合わせください。

・入力電源回復後やスケジュール運転(停止/起動)時にコンピュータを自動的に起動させるシステムを検討されている場合は、次のような条件を満足するコンピュータを選定してください。入力電源が供給された時の動作については、ご使用されるコンピュータの取扱説明書をご覧ください。コンピュータのサポートセンタへお問い合わせください。

【条件】

入力電源が供給されるとコンピュータの電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動すること。

その他の詳細な設定等については、オンラインヘルプをご参照ください。

	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

15. アンインストール手順

本ソフトウェアをアンインストールする場合は、アプリケーション

PowerAct Pro が不要になった場合は、次の手順で PowerAct Pro と Apache 2.2.8 をアンインストールします。

[Windows Server 2008/Windows Vista 以降をご使用の場合]

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]を選択します。
- ② [プログラムと機能]をダブルクリックして起動します。
- ③ 表示されるリストから[PowerAct Pro]を選択し、[アンインストールと変更]ボタンをクリックします。
- ④ ユーザアカウント制御に関する警告が表示されますので、[続行]をクリックします。
- ⑤ 画面の表示に従ってアンインストール操作を行ってください。
- ⑥ [アプリケーションの追加と削除]のリストから[Apache 2.2.8]を選択し、[アンインストールと変更]ボタンをクリックします。
- ⑦ ユーザアカウント制御に関する警告が表示されますので、[続行]をクリックします。
- ⑧ [よろこ]画面が表示されるので、[削除]を選択し、[次へ]をクリックします。
- ⑨ 画面の表示に従って操作を行ってください。
- ⑩ Windows を再起動してください。

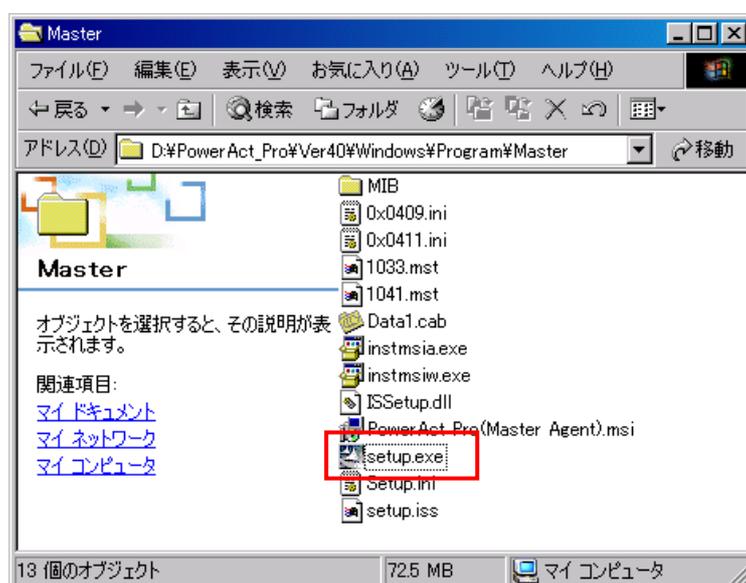
[上記以外の Windows をご使用の場合]

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[設定] → [コントロールパネル]の順に選択します。
- ② [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックして起動します。
- ③ 表示されるリストから[PowerAct Pro]を選択し、[変更/削除]ボタンをクリックします。
- ④ 画面の表示に従ってアンインストール操作を行ってください。
- ⑤ [アプリケーションの追加と削除]のリストから[Apache 2.2.8]を選択し、[変更/削除]ボタンをクリックします。
- ⑥ [よろこ]画面が表示されるので、[削除]を選択し、[次へ]をクリックします。
- ⑦ 画面の表示に従って操作を行ってください。
- ⑧ Windows を再起動してください。

[上記方法でアンインストールができなかった場合]

上記方法で PowerAct Pro をアンインストールできなかった場合は、CD-ROM 内のインストール時にクリックした“setup.exe”をクリックし、画面の指示に従ってください。

[格納ディレクトリ] D:\PowerAct_Pro\Ver40\Windows\Program\Master\setup.exe



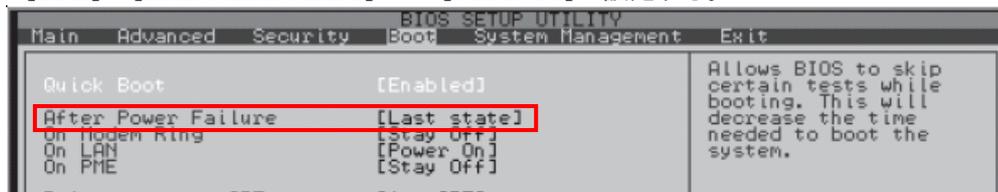
	PowerAct Pro Ver 4.x インストールガイド	
	マスターエージェント for Windows	Rev F

16. コンピュータのBIOS設定

AC入力電源が回復した時、コンピュータを自動起動させるためにはBIOSの設定を確認する必要があります。各メーカーについて、BIOS設定を紹介します。

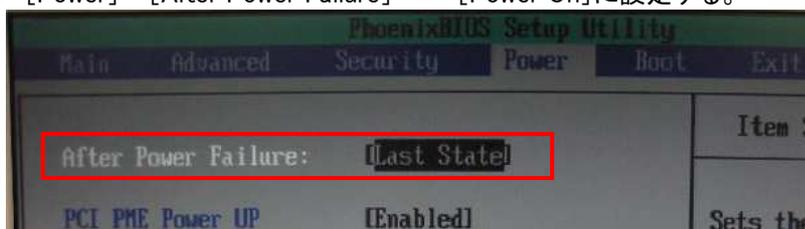
●NEC(Express5800)

[Boot]ー[After Power Failure] →[Power On]に設定する。



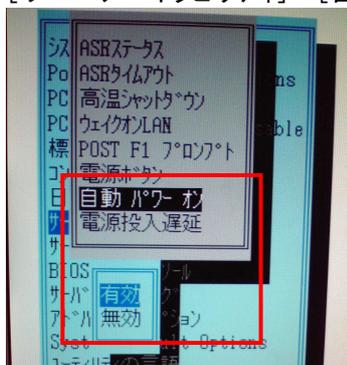
●HP(ProLiant DL145)

[Power]ー[After Power Failure] →[Power On]に設定する。



●HP(ProLiant DL DL360G6)

[サーバアベイラビリティ]ー[自動パワーオン] →[有効]に設定する。



●富士通(PRIMERGY RX100 S5)

[Power]ー[Power Failure Recovery] →[Always On]に設定する。



●日立(HA8000)

BIOS セットアップメニューの設定において「AC 入力でシステム装置を起動させる」の設定にする。